



# 十六世紀における西康省チベット語 天全方言について

——漢語・チベット語単語集いわゆる三種本『西番館譯語』の研究——

西 田 龍 雄

## 目 次

一 チベット書写語とチベット口語	A 初頭音の種類
二 西番語Aならびに西番語B 一十五世紀アムド地方文語と十六世紀西康 省天全方言一	B 母音および末尾音結合の種類 C トネームの種類
三 西番語Bの音韻体系	四 西番語Bの文法形態 五 阿波国文庫本西番館訳語テキスト

## 一 チベット書写語とチベット口語<sup>1)</sup>

近年、チベット語諸方言についての研究が次第に活潑になりつつある<sup>2)</sup>。しかし、それらの成果の多くは、現代口語の記述的な研究であって<sup>3)</sup>、一つの方言、乃至は一定地域のいくつかの方言を歴史的な観点から取扱った労作は極めて少くない。現在の段階では、いずれの方言に関しても、チベット語がたどってきた言語形式の変遷を考察するにあたって、我々がどのような資料を利用することができるか、また利用しなければならないかといった基礎的な事柄さえも、未だはっきりとわかっていないのである。チベット語においても、口語形

1) ここでチベット書写語というのは、その種類を問わず、チベット文字を用いて表記された言語を指し、チベット口語とは、いわゆる会話に用いられる口頭語を意味する。チベット書写語には、後に述べる中古チベット語・チベット文語・古典チベット語がある。(口頭語と書写語については、服部四郎、「蒙古文語の起源について」、『言語研究』3号、1939、p.1注2を参照)。

2) 最近のチベット方言の研究成果として、つぎの論文、著書が発刊されている。André Migot, *Recherches sur les dialectes Tibétains du Si-K'ang (Province de Kham)*, BEFEO. 1957 pp. 417-562. Première partie; Phonétique, Deuxième partie; Onze contes populaires en dialectes du Si-K'ang, Troisième partie: Morphologieに分かれ、K'ang-Ting (庚定) I. K'ang-Ting II. Tao-Fu (道孚), Kanzé (甘孜), Dé-gé (徳格)の方言を扱う。G. Rörich, *Lopsang Phuntshok, Textbook of colloquial Tibetan*, Calcutta. 1957. (中央チベット語についての記述)。G. Rörich, *Le parler de L' Amdo, Roma. Serie Oriental Roma, XVIII, 1958.* アムド語 (Reb-Kong 地方)の記述, Phonétique, Morphologie, Textes et traductions, Vocabulaire からなり、近辺のチベット方言にも言及する。金嶋、『藏語拉萨口喀則昌都話的比較研究』科学出版、1958はLhasa, Shigatse, Chamdoの方言を扱う労作。

3) 注2)において掲げた研究は、いずれも現代方言の記述を主体としているけれども(金嶋は現代方言の記述とともにその結果を比較対照する)、記述の方法自体が言語学的ではない。

式は、一般に書写語として伝えられる形式とかなりかけ離れているために、普通に考えて、この両者の間に認められる関係から一応その言葉の変遷を推測することは確かに可能である。たとえば、現代ラッサ方言で〈百〉は  $\text{ta}^3\text{-tham}^1\text{-pa}^1$  といい、〈五百〉は  $\text{ŋa}^1\text{-pta}^3$  という<sup>4)</sup>。そして、これらの単語をチベット文語を用いて表記するときには、〈百〉は *brgya tham-pa*、〈五百〉は *lŋa brgya* と書かねばならない。したがって、〈百〉の単語形式には *brgya* から  $\text{pta}^3\sim\text{ta}^3$  への変化があり、〈五〉の形式は *lŋa* 「*lŋa*」から *ŋa* に変遷したのであることは容易に推測できる。しかし、より立ち入って、ラッサ方言で *brgya* が何時頃無声音化したのか、また初頭の音結合 *rgy-* が何時頃歯茎硬口蓋閉鎖音  $\text{t-}$  に変わったのか、さらに単独にあらわれるときには先行する子音 *p-* を何時頃脱落するようになったのか、を追求しようとするならば、それらの問題を解決し得るにたる十分な資料に欠けている。その上、より厳密に考えるならば、ラッサ方言の  $\text{pta}^3\sim\text{ta}^3$  あるいは  $\text{ŋa}^1$  が、果して、上に掲げた書写語の形式から直接来源したのか否かが大きい問題となって来るであろう。われわれは〈百〉  $\text{pta}^3\sim\text{ta}^3$  が *brgya* から変化したと想定し得るのと同程度に、現代バルテイ方言が保存する *bgya* からそれが変化した蓋然性をももっている<sup>5)</sup>。換言するならば、初頭音 *gy-* に先行する *r* が、ラッサ方言の音韻変化に対して、特に何らかの役割を果たしたのか否かは明らかではないのである。また〈五〉  $\text{ŋa}^1$  が何らかの種類の子音を先行する軟口蓋鼻音から来源したことは、この形式がもつトネームから確信できても<sup>6)</sup>、先行する子音が *l* であったという積極的な保証は見付からない。現代口語と書写語の間には、これと並行するより顕著な事実を少なからず見出すことができる<sup>7)</sup>。たとえば、ラッサ方言形〈膝〉

4) 以下ラッサ方言形は、原則として金鵬氏の表記(上掲書)にしたがう。ラッサ方言のトネーム型は 1. 高降型 53, 2. 低降型 41, 3. 低昇型 13, 4. 高昇型 35 である。チベット文字転写は、北村甫、西田龍雄、「チベット文字転写とチベット語表記」(日本西藏学会会報七号)のシステムを用いた。

5) この *-r-* 音は、チベット・ビルマ共通語形を想定するときには、十分存在理由をもっている。〈百〉 *T. B. brgya. Wr. Tib. brgya : Anc. Bur. rya* > *Wr. Bur. ra : Lushei zaa : Manchad. ra*. これと並行して 〈八〉 *T. B. brgyad. Wr. Tib. brgyad : Anc. Bur. haet* < *hryad. Wr. Bur hrac : Lushei pa-riat : Manchad. re*. 一般にシナ・チベット語族に属する言語の〈百〉と〈八〉は、1) *brgy-*系、2) *ry-*系、3) *b-*系に大別できる。1)の形はチベット語系の言語に、2)はビルマ語系、3)はシナ・タイ語系の諸言語によってそれぞれ代表される。

6) 拙稿、「チベット語とビルマ語におけるトネームの対応について」『言語研究』, 35, 1958, p. 91-。

7) とくに *Balti* 方言形との間に顕著な例を見出し得る。たとえば 〈flower〉 *Balti. mindoq : Wr. T. me-tog*, 〈debt〉 *bulon : bun*, 〈above〉 *thyoq-tu : thog-tu*, 〈elbow〉 *khriŋmoq : gre-mo*, 〈great〉 *chhoyo : che-ba*, 〈fatigued〉 *gal-ba : ngal-ba* などの諸例がある。A. F. C. Read, *Balti Grammar*, The Royal Asiatic Society, London 1934.

pe<sup>1</sup>-mo<sup>1</sup>, シガツツェ方言 pe<sup>1</sup>-mo<sup>2</sup>, ラダック方言 pis-mo, ラフル方言 piγ-mo, が直接来源した形式として, 書写語形 pus-mo を規定することは, これらの方言で -us から -e に, あるいは -us から -is, -iγ に変化した特別の条件が明らかにされない限り, 許されないであろう。同様に, バルティ方言形<膝> bukhmo [buxmo], プリック方言 puks-mo, アムド方言 wüi-mo も, 書写語 pus-mo から直接に来源した形式であるとは考えられない<sup>8)</sup>。<膝>を意味する書写語の形式は, 上掲のいずれの方言形とも直接には関連しないのである。バルティ方言形式は, むしろ書写語形式よりもより古い段階を代表していると考えた方が適切である場合が多い。書写語と現代方言の間に発見し得る対応関係を手づるに, 各方言形式の発展の概略を想定することは極めて妥当な手続ではあるけれども, 両者の間の対応原則を, 当該方言の史的変遷を代表するものとして規則的に置き換えることは許されない場合が少くない。換言するならば, 書写語の形式は, 極めて包括的な性格をもっていて, 特定の時代の特定地域の言語形式を代表しているのではないからである。

ここで, チベット書写語には, 実際には2つの種類があることを述べておかねばならない。その一つは, チベット人が chos skad <仏教言葉>と称している書写語であって, 仏教サンスクリットを翻訳する目的から出発し, 7世紀に文字がおそらくインドから輸入されて以来<sup>9)</sup>, つねに経典翻訳の事業と関連して発展したいわばサンスクリット化された翻訳単語と翻訳文体を主体とするチベット語である。いわゆるチベット大蔵経 bkah-hgyur <経部> bstan-hgyur <論疏部>によって代表される‘仏教言葉’は, 実際には, khri-sde srong-btsan, ral-pa can の治世, 826年(午の年)に, ラッサの南, On ljang do 宮殿において, tsang 方言にもとずいて改革され統一された書写語であるといわれ

8) これらのチベット方言形はつぎの資料による。Balti 方言は上掲Read を; Purig 方言は Bailey, Linguistic studies from the Himalayas, The Royal Asiatic Society. London 1920 を; Ladak 方言は A.H. Franck, Sketch of Ladakhi Grammar, Calcutta. 1901 を; Lahul 方言は G. Roerich. The Tibetan dialect of Lahul, 1933 を; Shigatse 方言は金鵬上掲書を; Amdo 方言は筆者の資料をそれぞれ用いる。

9) チベット文字の来源については, 稲葉正就『チベット語古典文法学』p.1. (京都法蔵館), 佐藤長『古代チベット史研究』上巻 p.89. (京都大学東洋史研究会1958) を参照されたい。なお最近の研究として, つぎの2論文がある。F.W. Thomas. The Tibetan alphabet. Festschrift zur Feier des zweihundertjährigen Bestehens der Akademie der Wissenschaften in Göttingen. II. Philologisch-Historische Klasse. 1951. pp. 146-165. G. Uray, On the Tibetan letters BA and Wa., contribution to the origin and history of the Tibetan alphabet. Acta Orientalia. Vol V 1-2. 1955. pp. 101-121.

る<sup>10)</sup>。その結果、後の時代の学者が、残存するチベット訳文から失われたサンスクリット原文を還元できるほど翻訳の体裁の整った‘仏教言葉’が成立した。仏教学者は、これを‘古典チベット語’と呼んでいる<sup>11)</sup>。

他の一つは、サンスクリットとは直接の関連をもたないで、9世紀のはじめ頃まで、各時代各地域の口語形式を基盤として発展し、そして各時代各地域の口語の性格を表記面に反映した書写語である<sup>12)</sup>。筆者は、これらを総称して、‘中古チベット語’と名付けている。この‘中古チベット語’は、826年に古典チベット語が成立して以後、その強い影響のもとに、別の一つの書写語として発展した。いわゆる蔵外諸文献はこの書写語を用いて書かれている。筆者は、これを‘チベット文語’と呼びたいと思う。それ故、チベット文語は、おそらく、ラッサを中心とする地域のチベット語を基盤として成立し、7世紀以来、漸次変遷した中古チベット語の書写法を基礎としたのであろうけれども、その上に古典チベット語のもつ諸規則に同化されたいわば混合的な性格を含んだ書写語であるといえることができる。現代ラッサ方言形も、バルティ方言形も、チャムド方言形もおそらくいずれの方言形も、全体として文語からの直接発展形式として扱えない場合が多いのは、この点から首肯できると思う。

古典チベット語と中古チベット語が、9世紀初頭においても、かなり相違していたにちがいないと推測できるのに、たとえばつぎの事実がある。古典チベット語では属格 (i lden gyi sgra) を示す助辞は、つぎの条件に応じて表記わけされねばならない5種類の形式をもっている。

1. 先行する単語の末尾音が -d, -b, -s で綴られる場合に、kyi を用いる。

10) cf. Ю. Н. Перих, Тибетский Язык, Москва. 1961. p.26 B. Laufer が今日用いられる綴字は、khri-lde srong-btsan の時代に、2人の学者 Ska-ba の dpal-brtsegs (çrikūṭa) と Cog-ro の Klui rgyal-mtshan (Nāgadhvaja) が多くの学者の援助を得て、改革されたと言伝えられると述べているのは、正しくない。(Bird divinations among the tibetan. T'oung Pao. Vol XV. 1914. pp.65-) Laufer が述べているのは、デンカルマの目録が dpal-brtsegs と kluḥi dbang-po によつて作られたことを指すのであろうか。cf. プトン『仏教史』和訳、佐藤長『古代チベット史研究』下巻 p.771.p.859)

11) チベットの学者は9世紀以前の綴字を brda rnying <旧綴字> と称し、改革を加えられた綴字を brda gsar <新綴字> と称する。しかし、この改革は綴字上の改変のみではなく、サンスクリットにあてられるチベット訳語の改良も含まれていた。たとえば skr. sarva には旧訳では tsen-ne が用いられたが、新訳では thams-cad に改められたなど。cf. lchang-skya hutuktu; dag yig mkhas paḥi ḥbyur gnas zhes bya-ba las brdaḥ gsar rnying gi skor bzhus-so.

12) Turfan, Turkestan, 敦煌で種々のチベット写本が発見され、特殊な綴字法によって表記された単語が多く記録されている。たとえば、魚を意味する文語形 nya に対して、敦煌写本の一つで lnya と表記されていることは、この綴字が、その地方の言語形式をそのまま反映した結果であると考えざるを得ないであろう。(F.W. Thomas, Ancient Folk-literature from North-Eastern Tibet. Akademie Verlag, Berlin. 1957. p.62 [51])

2. 先行する単語の末尾音が -g, -ng で綴られる場合に, gi を用いる。
3. 先行する単語の末尾音が -n, -m, -r, -l で綴られる場合に, gyi を用いる。
4. 先行する単語の末尾音が -h で綴られる場合に, yi を用いる。
5. 先行する単語が末尾子音をもたない場合に, hi を用いる。

この規則が実際には何時頃制定されたのかは簡単に決定できないけれども、<sup>13)</sup> 少なくとも826年には、古典チベットの規則として認められるようになった。しかし、その4年前すなわち822年に書かれた唐蕃会盟碑においては、この規則がよくまもられていないのである<sup>14)</sup>。たとえば古典チベット語では bod には、上記条件1にしたがって -kyi が連続して bod kyi となるところを、この碑文では bod gyi <チベットの> (w.1) と書かれ、古典チベット語の規則では bod rgya gñis kyi となるべきところを、この碑文では bod rgya gñis gyi <チベット・中国2つの> と表記されている。同様に dbon zhang gi を期待するのに換って dbon zhang gyi <甥舅の> 形が見出される。また古典チベット語には用いられない da-drag の使用も多く認められ<sup>15)</sup> 個々の単語形式についても、yang dag par に換って yang thag par <実に> が, ñi zla <日月> と表記されないで gñi zla と書かれているなど中古チベット語の代表的な形を少なからず発見することができる。この事実は、唐蕃会盟碑のチベット文が、おそらく当時のラッサで使われた言語形式にもとずいて、それを中古チベット語の伝統的な綴字法によって表記されたことを意味するのであろう。たとえば上例の -d, -s の後で gyi が用いられたのは、当時のラッサ方言では末尾音 -d, -s が有声音であったことに起因し、ñi zla のかわりに gñi zla と表記されたのは、ラッサ方言がかつて gñi zla という形式をもっていた時代に使われた綴字法をそのまま採用した結果であるにちがいない。これに対して4年後に成立した古典チベット語がツアン方言を基盤としたのであれば、おそらくシガツツェを中心とする地域では、末尾音 -b -d -s はすでに無声化していたと想定することができるであろう。

13) これは7世紀に Thon mi Sambhoṭa が制定した規則とされているが (Sum bcu-pa の中、第10偈)、実際には、9世紀に作られた蓋然性が大きい。Sum bcu-pa の (三十頌) も rtag-kyi hjug-pa (性入法) もその内容が9世紀にかなり改変されたのではないかと疑い得る余地がある。

14) 唐蕃会盟碑については、Li Fang-kuei, The inscription of the Sino-Tibetan Treaty of 821-822 T'oung Pao, vol. XLIV 1957 および佐藤長『古代チベット史研究』付録IIを参照されたい。

15) cf. 拙稿, 「チベット語動詞構造の研究」『言語研究』33号 1957. p35-.

つぎに、チベット書写語の発展と時代区分の概略を示して見たい<sup>16)</sup>。

#### I 古代チベット語 (? ~ 7世紀)

この言語を表記した資料は実在しないが、中古チベット語と古形式を保存する現代方言とを比較した結果、推定し得る形式をいう。

#### II 中古チベット語 (7世紀 ~ 9世紀初頭)

a. 旧仏教チベット語. ソンツエン・ガンポの時代以後9世紀までに書かれたサンスクリット化した仏教チベット語をいう。

b. 中古チベット語. 現存する敦煌文書, トルケスタン文書, トルファン文書および諸碑文によって代表される仏典以外のチベット語をいう。もっとも最後の資料として唐蕃会盟碑 (長慶2年, A.D.822) がある。

#### III 近古チベット語 (9世紀初頭 ~ 10世紀)

a. 古典チベット語. 宝歴2年 (A.D.826) に, khri-lde srong btsan 王によって, 旧仏教チベット語を改定し, はっきりとした綴字の規則とサンスクリット化された統辞法をもって制定された新仏教チベット語をいう。新訳大藏経 bkah-hgyur, bstan-hgyur によって代表される。

b. チベット文語. 9世紀以後, 中古チベット語の諸規則によって改変された書写語をいう。仏典以外の文書に用いられている。

#### IV 中世チベット語 (10世紀 ~ 17世紀初頭)<sup>17)</sup>

i チベット文語の発展時代 I (10世紀 ~ 14世紀) 教理哲学的文語の成立。Rin chen bzang-po の活動と Bu ston rin chen grub の著作によって代表される。

ii チベット文語の発展時代 II (14世紀 ~ 17世紀初頭) 教理哲学的文語の完成。Tsong kha pa などの著作によって代表されるチベット語。

#### V 近世チベット語 (17世紀 ~ 19世紀)

蒙古語満州語漢語 (トルコ語) と対訳される『四体清文鑑』『五体清文鑑』によって代表される。チベット文語の新しい整理段階 (17世紀後半から19世紀) をさす。単語の意味が整理され, 新造語が満州語漢語を基準として造られ

16) これまでチベット語の時代区分を試みたのは, 管見の及ぶ限り G. Roerich 氏のみである。上掲 *Тибетский Язык*. P.26- および *Основные Проблемы Тибетского Языкознания. Советское Востоковедение*. No.4. 1958. P.111. 以下の区分はまったく仮りのものであって, 資料の不足と未調査から, 今後多くの補充を必要とするであろう。

17) 中世チベット語の文献については, 上掲 Roerich にしたがった。

た<sup>18)</sup>。

## VI 現代チベット語 (20世紀一)

中共統治以後のチベット語。漢語を媒介として、新しい科学知識を表現するための豊富な語彙作成と、漢語からの多数の借用語によって特徴づけられる書写語をいう<sup>19)</sup>。

これらの各段階を代表するチベット語の形式を再構成し、さらにそれらを比較して、語彙の変遷、音韻体系、文法体系の変化を考察することは、極めて厄介なことではあるが、必要な目標である。その目的のためにはチベット語以外の言語による音表記あるいは対訳語彙をともなった資料がもっとも重要な役割を果たすことは当然である。この種の資料には、とくに上記IVの段階に属する漢字による音表記をもった乙種本『西番館訳語』があり、Vの時代には、満州文字によって音表記された『五体清文鑑』がある。これらの文献の研究は、IVおよびVの時代の代表的な書写語の形式、あるいは特定の地域に限定された書写語の形式を、少なくともその一部について十分に明らかになし得るであろう。一方、チベット口語(phal skad)形式の発展は、当然これらの書写語の変遷とは別個に考えなければならない。それはより厄介な問題であり、また資料も極めて乏しい。しかし、その中で過去の特定地域のチベット語口語を記載した好個の資料がある。いわゆる丙種本『西番館訳語』とよばれている漢語とチベット語の対訳単語集である。本稿は、このテキストを対象として、そこに記載された言語の音韻体系および単語形式を再構成し、文法形態の一部を記述しようとして試みたものである。

## 二 西番語Aならびに西番語B

——15世紀アムド地方文語と16世紀西康省天全方言——

『西番館訳語』あるいは『西番館(訳語)雑字』という表題をもつテキストは、15世紀から17世紀にわたって、中国において編纂されたチベット語と漢語または漢語とチベット語の対訳単語集であって、当時中国領土内で、チベット語が分布した主要な地域の代表的な言葉の基本語彙とその発音を記載したものである。現代筆者が扱ひ得るテキストには、つぎの8種類の鈔本と刊本がある。

18) 近世チベット語と現代チベット語の間に当然民国初期のチベット語、近代チベット語をあげるべきであるが、それを代表する文献を見出し得ないために保留した。

19) cf. 拙稿、「チベット語新造語彙について」日本西蔵学会会報6号 P.5-, 1960.

1. パリ・アジア協会本『西番館訳語』
2. 京大文学部言語学教室蔵本『西番訳語』
3. 天理図書館蔵本『西番訳語』
4. 龍威秘書中に含まれる『西番訳語』
5. 東洋文庫所蔵『西番館訳語雑字』
6. 今西龍先生旧蔵1種『松藩属象鼻高山西番訳語』
7. 今西龍先生旧蔵Ⅱ種『松藩属瓦沃雜梭大小金川各西番訳語』
8. 阿波国文庫本『西番館訳語』<sup>20)</sup>

1 から 7 は、いわゆる乙種本華夷訳語に属し、8 は丙種本華夷訳語と呼ばれる。

この中、1. 2. 3. および 4 は、数ヶ所に見出される誤記を除いては、相互に内容は全然異るところがない。その上この四種類の西番館訳語は、5 に掲げた東洋文庫本と全く同一のチベット語を記載したのみならず、東洋文庫本は前者の内容を補足する目的のもとに作られた続添本であったと考えることができる。筆者は本稿とは別に、これらのテキストに記録されているチベット語を分析した結果、これらの西番館訳語はおそらくアムド地方の一種の共通語と認められる書写語とその讀書音を記述したものであるという結論を得た<sup>21)</sup>。その言語は、チベット文語に極めて近い古い形式をよく保存していて、現代アムド方言のほぼ 4 世紀を遡った一段階を代表するチベット語であるということが出来る。この言語を便宜上“西番語 A”とよぶことにしたい。

これに対して、6 および 7 に掲げたテキストは、やゝ体裁を異にする。これらのテキストでは予め中段に漢語の基本単語 742 項目が印刷されており、調査員がこれを各地に持参して、漢語に該当する土語の形式を土着の文字を用いて上段に、その発音あるいは口語形式を漢字によって下段に記入するような体裁になっている。この体裁自体はいわゆる乙種本と一致するけれども、一定数の

20) このほかに 9) ベルリン国立図書館所蔵鈔本、10) 柯劭忞氏所蔵明鈔本、11) 英国ケンブリッジ大学図書館所蔵のウエード・コレクション中の『訳語』と称する鈔本、12) パリー国民図書館本(清朝鈔本)、13) エドキンズ氏旧蔵現大英博物館蔵本(明代刊本)、14) ハノイ極東学院蔵本(清鈔本)があるといわれる。(石田幹之助、「女真語研究の新資料」『桑原博士還歴記念東洋史論叢』1931による)この中 14) は上に掲げた 6)、7) と同じ種類の西蕃訳語であろう。聞宥氏によればハノイの極東学院には 3 部あって、1) 松藩属包蔴等西番 2) 泰寧属沈辺等西番 3) 建昌属木裏瓜別西番と題されている(聞宥氏自身は未見)。そのほか北京故宮博物館に所蔵されたが詳細はわからない。Wen Yu, *Phonetic changes of the superadded and the prefixed letters in eastern Tibetan dialects*. *Studia Serica* vol. V. 1946. Note 6.

21) 拙稿、乙種本西番館訳語の研究(未発表)

調査単語が定められ、それが予め印刷されている点が異っている。概略今日の方言調査表に該当すると考えて差支えない。清朝は、この種の語彙調査表を作成し、各地の土着言語の調査をかなり大がかりに試みたものと思われる<sup>22)</sup>。第5番目に掲げた西番訳語は、表題として象鼻高山方言と名付けられているごとく、確かに四川省松藩縣のチベット方言を記載したものであろう。しかし、チベット文字を用いて上段に書入れられた形式は、チベット文語形にやや近いにも拘らず、漢字によって表記された形式は、チベット文語・現代諸方言およびその他の西番語との間にかかなりの相違がある。おそらくその漢字表記は、象鼻高山方言の特異な口語形式を代表しているものと考えられるが、詳かではない<sup>23)</sup>。今日なお、四川省松藩縣蔵族自治州の中には、この言語を伝承するチベット方言が話されていることと思われる。第7番目に掲げた瓦沃雜梭大小金川方言と称される西番訳語は、狭義のチベット語には属さない特徴をもった言葉を記載している。あるいはその言葉は chiang 語系に属する一つの方言ではないかと疑い得るがこれも詳かではない<sup>24)</sup>。

6 および 7 に掲げた西番訳語は、共にチベット文字を用いて書かれているけれども、その表記法自体がかかなり特殊である上に、チベット文字による表記と漢字を用いた音表記とは必ずしも規則的に相応じていない。これらの特殊な西番訳語の内容については、別の機会に検討したいと思う<sup>25)</sup>。

22) 西番訳語のほかに、今西龍先生旧蔵の華夷訳語の中に、この体裁の永寧屬水潦猓羅訳語が含まれている。

23) 象鼻高山方言の例を天文門から数例掲げる

- |                 |         |             |        |
|-----------------|---------|-------------|--------|
| 1) gnam sdon so | <天> 老恩包 | 2) nyi-ma   | <日> 尼麻 |
| 3) zla-ba       | <月> 雜瓦  | 4) skar-ma  | <墨> 哈麻 |
| 5) sprin        | <雲> 舍   | 6) hbrug    | <雷> 靈  |
| 7) mtshoh-ba    | <電> 倉把  | 8) pa-ma    | <霜> 把木 |
| 9) khaḥ ngan    | <雪> 哈哀額 | 10) rmug-pa | <露> 木巴 |

24) 瓦沃雜梭大小金川方言の例を天文門から数例掲げる。

- |              |        |                    |           |
|--------------|--------|--------------------|-----------|
| 1) du-lu (?) | <天> 得某 | 2) ki-ni           | <日> 各領    |
| 3) tsi-la    | <月> 責納 | 4) tshuḥu-ri       | <星> 奏惹    |
| 5) sdi       | <雲> 色登 | 6) ti-che          | <雷> 的直    |
| 7) tu-ye     | <電> 倒也 | 8) sngar (?)       | <霜> 色奄    |
| 9) (ta-phag) | <雪> 代巴 | 10) da khu ku rnye | <霧> 達庫各兒領 |

25) このほかに、表題のない訳語がある。はっきりとしたチベット文字で書かれているが狭義のチベット語でない。つぎに天文門から数例をあげる。

- |            |        |             |        |
|------------|--------|-------------|--------|
| 1) dmiḥ    | <天> 墨  | 2) ne-ma    | <日> 乃麻 |
| 3) lam-ma  | <月> 良麻 | 4) king     | <星> 庚  |
| 5) jag     | <雲> 甲  | 6) dmi-hjig | <雷> 墨吉 |
| 7) dme lag | <電> 墨拉 | 8) kek      | <霜> 隔  |
| 9) we      | <雪> 噎  | 10) nu-mo   | <霧> 喏模 |

さて、以上1から7までに掲げた西番館訳語はいずれもチベット語と漢語の対訳単語集であった。ことに1から5までのテキストの内容は四夷館あるいは四訳館において、チベット州からもたらされた来文を翻訳するにあたって、翻訳官が参考にした単語集であった。これに対して、8番目に掲げた阿波国文庫本西番館訳語は、会同館の通訳官がチベット使節との通辨にあたって参考にした漢語とチベット語の対訳単語集である。これはチベット文字を用いずに基準として掲げられた漢語の下に、該当するチベット語を単に漢字をもって表記しただけの資料であるために、一見して扱い難いそして同時に価値の少ない、印象を与える。それにも拘らずその内容は多くの点で、チベット語史研究に重要な資料を提供するのである。おそらくチベットに残る数多くの文献を通じて10世紀以後の口語形式を記載した資料は存在しないであろう。チベット口語は上述のごとく書写語とは別個に、独自の発展をして来た。一定の時代の口語形式はチベット文字による表記では伝えられていない。しかし、このテキストには漢字を用いた表記がある。当然、チベット語と漢語の音韻体系の相違から、漢字表記には一定の制約があったけれども、このテキストは、16世紀中頃のチベット口語の形式を、かなりよく伝えているということが出来る。そこに記載された言葉は、一部に古い形式たとえば語頭の音結合などを保存しながら、全体としては西康省で話されている言葉、たとえばチャムド方言にかなり近い単語形式と音素体系をもっていた。筆者は、そこに記載された言葉は、西康省‘天全’のチベット方言であったと推定する。筆者の推定の根拠は、このテキストの地名門にある。地名門では、まず北京・南京が掲げられそれにつづいて、すぐ天全六番招討司の項目をあげている<sup>26)</sup>。この事実はこのテキストを用いる場合に、北京・南京につづいて、いずれよりも天全六番が重要であったことを意味する。天全六番は、おそらく、現在の西康省天全市を中心とする地域に該当するのであろう。そして、この訳語に記載されたチベット語は、少なくとも天全を中心とするその近辺一帯に通用した標準的な口語であったにちがいないと思われる。筆者はこのチベット口語を西番語Bと名付けておきたい。現在なお、天全市あるいはその近辺において、西番語Bを伝承するチベット方言が実際に話されているものと考えられる。

上述のごとく、チベット文字以外の音表記をともなった言語資料としては、

26) 天全六番招討司については、明史列伝巻199にその記載がある。

これらの『西番館訳語』のほかに、なお『五体清文鑑』がある<sup>27)</sup>。西番語 A、B は、共に『五体清文鑑』に伝えられるチベット語ともまた異っている。後者は、現代ラッサ方言にかなり近い形をもっており、満州語にあわせてとくに創作された単語を少なからず含んではいるけれども、おそらく18世紀のラッサを中心とする中央チベット方言（ラッサ方言ではない）<sup>28)</sup> を記載したものと考えて差支えないであろう。そこに各単語毎に与えられている満州字による音表記は、概略『同文韻統』（1750）の一般的な記載と一致するから、『五体清文鑑』は当時中央チベット地域に通用した標準的な讀書音を代表していると云うことができる。

西番語 A、西番語 B および五体清文鑑のチベット語が、文語と口語といわれる性格のちがいのほかに、時代の相違とともにさらにそれぞれ異った地域の言葉を代表している事実は、極めて興味がある。これらの各言語資料のもつ性格の一端をより明瞭にするために、つぎの四つの項目の下に、3種のチベット語を比べ、その差異を整理してみた。

I 同一の事柄を表現するのに<sup>29)</sup>、同語幹の単語形式を用いながら、実際の音形式が相違している単語がある。

例

	西番語 A	西番語 B	五體清文鑑
<星>	skar-ma	思葛兒麻 [skar-ma] : 噶兒麻 [kar-ma] : skar-ma [kar-ma]	
<赤い>	dmar-po	黑麻兒播 [xmar-po] : 馬兒卜 [mar-pu] : dmar-po [mar-po]	
<劍>	ral gri	刺耳革梨 [ral gri] : 來支 [ray dʒi] : ral gri [ral tʃi]	
<雲>	sprin	思卜吝 [sprin] : 卜吝 [prin] : sprin [prin]	
<石>	rdo	兒奪 [rdo] : 朶 [do] : rdo [to]	

この例からでも、三つの資料の間につぎの対応関係を発見することができる。

西番語 A	西番語 B	五體清文鑑	西番語 A	西番語 B	五體清文鑑
1. sk- :	k- :	k-	3. sp- :	p- :	p-
2. xm- :	m- :	m-	4. rd- :	d- :	t-

27) 以下『五体清文鑑』は、民族出版社、上・中・下冊、1957による。

28) Lhasa 方言と中央チベット方言の相違については、R.A. Miller, The Independent status of the Lhasa dialect within Central Tibetan. Orbis. vol. IV. i 1955 pp.49-55 で述べられている。

29) 厳密には、まったく同一の事柄と云うことができない場合があるけれども、同じ漢語に対照される事実から、これらのチベット語が同一の事物を表現していると考えたい。

5. gr- :	dz- :	tʂ-	9. -in :	-in :	-in
6. r- :	r- :	r-	10. -o :	-o :	-o
7. -ar :	-ar :	-ar	11. -ma :	-ma :	-ma
8. -al :	-ay :	-al	12. -po :	-pu :	-po

この種の対応関係を、このほかなおいくつも発見でき、しかもそれらが全体にわたってほぼ規則的にあらわれている。上表からでも西番語Bおよび五體清文鑑は、西番語Aに対立して、相互にやや近い関係にあることがわかる。

II 同一の事柄を表現するのに、同一語根形式に属する異った語幹形式を用いている単語がある。

例

	西番語 A	西番語 B	五體清文鑑
<低い>	dman 黑慢 「xman」	罵瓦 「ma-wa」	dmah-ba 「ma-wa」
<晝>	ñin-mo 寧磨 「ñin-mo」	你公 「ñi-guŋ」	ñin gung 「ñin-kuŋ」
<高い>	mthon 木團 「mthon」	團ト 「thon-pu」	mtho 「tho」

語根末尾に -n を伴わない形式は<sup>30)</sup> 三つの資料を通じて、必ずしも規則的にあらわれていない。

III 同一の事柄を表現するのに、違った語根形式を用いる単語が少なくなく、3種のチベット語の間には、基本的な語彙に関してもかなりの違いを見出すことができる。

例

	西番語 A	西番語 B	五體清文鑑
<硯>	dar rdø 達兒奪 「dar-do」	納朶 「na <sup>?</sup> do」	dar 「tar」
<明日>	nang par 襄罷兒 「naŋ par」	桑你 「saŋ ñi」	sang 「saŋ」
<兎>	yos 約思 「yos」	里公 「ri-guŋ」	ri bong 「ri-poŋ」
<雷>	thog 托 「tho <sup>?</sup> 」	卜魯 「bru <sup>?</sup> 」	brug sgra 「pruk tʂa」
<江>	rtsang-po 兒藏播 「rtsaŋ-po」	出戰 「tʂhu tʂhan」	klung 「kluŋ」
<井戸>	khron-pa 克亂罷 「khron-pa」	董出 「doŋ tʂhu」	khron-pa 「tʂhon-pa」

この関係を一つの語彙部門に限って考察すると、西番語Aと西番語Bの間につぎの結果がでて来る。たとえばもっとも基礎的な単語を収録していると考えられる「人体門」を例にとれば西番語Bには27語が収録され、西番語Aでは、

30) チベット語の -n と一# (zero) の関係については、拙稿、「チベット語動詞構造の研究」『言語研究』33 p.28. 注1を参照されたい。

パリ本に36語、東洋文庫本に20語合計56語がある。これらの基本単語の中で相互に共通した形式をもっているのは、〈口〉、〈舌〉、〈眼〉、〈鼻〉、〈齒〉、〈手〉、〈脚〉、〈髪〉、〈腸〉、〈腹〉、〈腰〉および〈耳〉、〈身体〉（あとの2語は、西番語Bでは複合語となる）の13語であって、〈頭〉、〈顔〉、〈心〉、〈指〉、〈鬚〉は、違った形式の単語を記入している。

例

	西番語 A	西番語 B	(五体清文鑑)
〈頭〉	dbu 物「wu」	: 郭「go」	: (mgo「ko」)
〈顔〉	zhal 廈耳「zal」	: 鷲「ŋo」	: (ŋo「ŋo」)
〈心〉	sems 線思「sems」	: 寧「ñiŋ」	: (sñing「ñiŋ」)
〈指〉	sor-mo 梭兒磨「sor-mo」	: 足谷「dzugu」	: (sor-mo [sor-mo] <指> mdzug gu「tsuku」<食指>)
〈鬚鬚〉	rgya-bo 兒甲俄「rgya-wo」	: 馬喇「ma-ra」	: (sma-ra「ma-ra」)

一見して、西番語Bは、五体清文鑑に近いことがわかるけれども、西番語AとBの間の相違は、前者がいわゆる敬語形を記入しているために(上例〈頭〉、〈顔〉)あるいは範囲の広い漢語の意味をやゝちがった点でとらえているために(〈心〉を西番語Aは'mind'に、西番語Bは'heart'に、〈指〉を前者は'finger'に、後者は'fore finger'に)生じている場合も多い<sup>31)</sup>。

IV 同じ事柄を表現するのにその表現手段が異なる例がある。

	西番語 A	西番語 B	五体清文館
〈深い〉	zab「zap」	: 丁零ト「tiŋ riŋ-pu」	: zab「sap」
〈浅い〉	mi-zab「mi zap」	: 哨「ʃaw」	: srap「srap」
〈遠い〉	ring 零「riŋ」	: 塔零「thaʔ riŋ」	
	= 〈長い〉	= 〈長い〉 零「riŋ」	: thag ring「thakriŋ」
〈近い〉	ñe 呆「ñe」	: 塔聶「thaʔñe」	:
	〈短かい〉「thuŋ」	:= 〈短かい〉	

西番語Aは〈浅い〉を〈深い〉の否定として表現し、西番語Bは〈深い〉を〈深さが長い〉と表現する。また、西番語Aでは〈遠い〉と〈近い〉にとくにthag 〈距離〉を付けないなどの差異がある。

V 西番語Bは、西番語A、五体清文鑑そのほかのチベット語形に該当する形式をもたない特殊な単語をいくつかもっている。

31) sma-ra 〈口鬚〉に対して、rgya-bo は〈つり鬚〉である。

	西 番 語 B	西 番 語 A	五 体 清 文 鑑
<桃>	姐干「tɛ kan」?	thau 塔吾「thau」	: mngar kham「ŋar-kham」
<鷺>	噶「ga」?	: ngang-pa 昂罷「ŋaŋ-pa」	: ngang-pa「ŋaŋ-pa」
<蚊>	母昔「muçi」?	: ?	: sbrang-po mchu-ring
<麻子>	拓兒巴「dar-pa」?	: ?	: rnam pa ḥdra「nampatṣa」
<猫>	莽郎「moŋ raŋ」?	a-li 阿梨「a-li」 <sup>32)</sup>	: byi la, zhi-mi
<瑪瑙>	墨力「mo li」?	: gzi 席「zi」	: mchong「tṣhoŋ」

これら3種の資料によって代表されるチベット語の地域的な差異は、将来現代諸方言全体にわたる比較研究によって明確にされ得るであろう。ことに同一の事柄を表現するために異った単語形式が用いられる事実は、音形式の対応関係などよりももっと興味のある事柄である。これについて、つぎに二三付言しておきたい。さきに掲げた単語たとえば<兔>には yos (西番語A), ri-goŋ (西番語B), ri-boŋ (五体) の3形式があり、<雷>には thog (西番語A), ḥbrug (西番語B), ḥbrug sgra (五体) の形式があった。これらの単語形式は、いずれも所謂チベット語辞典に登録されている。したがって同じ一つの事柄を表現するのに、各々の方言において、全く同じか(上例<雷>)あるいは極めて近い意義をもった(上例<兔>)<sup>33)</sup> いくつかの文語形式の中から、いずれに対応する形式を選択しているかが問題なのである。このような単語形式を選択する仕方の等象線が、方言間の親近関係を決定するための強い根拠として取上げられなければならない<sup>34)</sup>。この3種の資料は、現在すでに観察し得ない過去の時代の単語形式の分布をさぐる点でも、大きい意義をもっている。しかし、西番語Aと西番語Bを対照する場合には、前者が文語形式を伝え、後者が口語形式を表記している点をも十分に考慮しなければならない。一般に丙種本華夷訳語は、漢人の通訳が使用するために、実用的な目的をもって作成された当時の簡易口語単語集であった。そのことは、丙種本が漢語を中心として配列され、かつ塞外文字を用いていない体裁からもよく理解できる。したがって後者の内容にも、書き言葉にとらわれずに、話し言葉を忠実に表記しようと

32) a-li は Sikkim 語形である。

33) yos <兔> に対して ri-boŋ~ri-goŋ は <野兔> を意味する。

34) しかし、チベット語の場合、タイ語などのように明瞭な線を引き得るか否かは明らかではない。(cf. Fang-kuei Li, Classification by Vocabulary: Tai dialects. Anthropological Linguistics. 1959)

した態度がよくあらわれている。たとえば <海> は西番語 A では、児甲木錯「rgja-mtsho」と表記されるのに対して、西番語 B では剪剝 tsien tsho「ḍen-tsho」と書かれている。また <辺境> は西番語 A の薩木塔 sa-mtha に対して、西番語 B では三塔 santha と表記される。この事実をつぎのように考えることができる。前者は、これらの単語 <海> および <辺境> が実際にはそれぞれ 2 つの形態素 rgya と mtsho, sa と mthaḥ から成りたっていることを意識して表記したのに対して、後者は、実際に聞かれる単語形式に重点を置いて記録したのである。同じ形式の単語を表記しているにも拘らず、両者の間にこのような差異が認められるのは、この 2 種の西番訳語が表記したチベット語すなわちアムド文語と天全口語が音素体系を異にしていたこととは別に、両者の音表記にあたった態度の違いを如実に示しているのである。このような例はなお若干ある。文語 dam ka に該当する <印信> を黨噶「daŋ ka」と表記して、丹噶「dam-ka」としないのも、dam の末尾音 -m が、天全方言において、つづく初頭音 k- に同化されて軟口蓋鼻音 -ŋ になることを表記したのである。文語 pad-ma に該当する <蓮花> を班麻「pam-ma」と表記して、「paʔ-ma」としないのも同種の現象を記録したのである。これらの単語では、連続する 2 つの形態素の間に <閉じたつながり> が認められたにちがいない。しかし、一方外面的にはこれと並行した環境にあるにも拘らず、このような同化現象が記録されていない例もある。たとえば <白檀香> は鑽丹噶兒卜「tsan-tan kar-pu」と表記され、鑽黨噶兒卜となっていない。この事実をつぎのように解釈することができる。

<白檀香> 鑽丹噶兒卜は別の単語 <降真香> 鑽丹馬兒卜「tsan-tan mar-pu」と対照して明らかなごとく、「tsan-tan」 <檀香> および「kar-pu」 <白い> のそれぞれ独立した 2 つの単語から成りたち、上例 <印信> や <蓮花> とは違って、tsan-tan と kar-pu の間には軽い息の切れがあり、両者はいわゆる <開いたつながり> (open juncture) において連続していたために、上述のような音声同化が起らなかったのである。今一つもっと興味のある例を掲げよう。文語 rma-bya <孔雀> に該当する形は、西番語 B で卯牙と表記されている。他の例では文語の rma には、西番語 '罵'「ma」が、bya にはつねに '斜'「ze」が対応するから、<孔雀> を卯牙と表記するのは、一見不規則かあるいは誤りであるかのように思われる。しかし、実際にはそうではない。西番語 B では <孔雀> が rma と bya の結合であると意識されないで一つのまとまりとして扱

われたのである。文語 -ab には西番語「aw」が該当するから、〈孔雀〉の口語形式が「maw-ya」と聞かれ、卯牙と表記されても決して誤った記録ではなかった。口語形式をそのまま記載した結果である。丙種本『西番館訳語』（阿波国文庫本）は、このごとく忠実に当時の口語形式を表記しようとした書物であった。

華夷訳語に記載された言語を十分に解明するためには、このテキスト以外に解明の根拠を求めないで、専らテキスト内部の相互の対照から結果を出そうとする方法は好ましい態度ではあるけれども、チベット語のような単純な音素体系をもった言語においてさえも、実際には大きい困難があって、この方法のみで得た結論には、強い信頼をおくことはできない<sup>35)</sup>。これは中国塞外諸言語と漢語が音節形式・単語形式を相違していることからもたらされる当然の帰結である。たしかに、華夷訳語における漢字による表記法には、一貫した原則が認められる。同じ単語に対しては、つねに一貫して同じ漢字を用いて表記しようとした。この丙種本『西番館訳語』では、たとえば〈水〉には、つねに‘出’が当てられ、〈鳥〉には‘斜’が当てられる。したがって、このテキストの中から、つぎのような手続でいくつかの単語を抽出することができる。たとえば〈松〉湯盛、〈槐〉看包盛、〈桑〉打兒盛の単語を〈木〉盛と対照することによって、この3つの単語に含まれる盛が〈木〉の意味であり、それぞれ湯↔盛、看包↔盛、打兒↔盛と分解できることがわかる。同様に、〈寅時〉思大靚判は、〈虎〉思大と〈時〉靚判に対照することによって、思大と靚判に分析し得ることがわかる。しかし、ここに抽出された単位‘看包’、‘打兒’および‘思大’‘靚判’がそれ以上に分析できるか否か、換言するならば、漢字2字が西番語Bの一音節を表記しているのか二音節を表記しているのかはこの種の手続だけでは決定できない。さらに、もっと根本的な問題として、それらの漢字が、実際には如何なる音形式を表記しようとしたかを推定するためには、正直に言って、当該言語ともっとも近い親属関係にある言語、ここではチベット文語乃至いくつかの現代チベット語方言をよりどころとしなければ、正確には成功しないと思う。このことを、つぎに極端な例について論じて見よう。さきに掲げたごとく西番語Bでは〈兎〉は里公と表記されている。この‘里公’が、さらに‘里’と‘公’に分析できるか否かは、このテキストのみではわからない。しか

35) 筆者の方法については、拙稿、「十六世紀におけるパイ・イ語—漢語、漢語・パイ・イ語単語集の研究」『東洋学報』43巻3号、1961において述べた。

し、西番語 B で、‘里’が初頭音結合の先行単位を表記したと考えられる例がほかに発見できないから、‘里公’は、2音節形式を表記し、〈兎〉は li-kuŋ あるいはそれに近い形式をもっていたと推測できる。この推測にも拘らず、西番語 B で〈兎〉が、より正しくは ri-goŋ であったと推定しなければならないのは、これに対応する文語形式 ri-goŋ ラッサ方言 ri<sup>3</sup>-koŋ<sup>3</sup>、シガツツェ方言 ri<sup>3</sup>-kxoŋ<sup>3</sup>、チャムド方言 rə<sup>3</sup>-goŋ<sup>3</sup>、アムド方言 ri-xoŋ の諸形式が存在するからである。いずれの方言においても、初めの音節は l- ではなく r- ではじまり、後の音節の母音・末尾音の連続は -uŋ ではなく -oŋ である。当時の漢語では、ri および koŋ を正確に表記できる漢字がなかった。このテキスト全般にわたって、初頭音 r と l を表記分けしていない上に、-oŋ と -uŋ も同様に区別することができなかった。それらの差別は当時の漢語にはなかったのである。したがって、〈澗〉を意味する西番語 B も、〈溝〉を意味する西番語 B も、ともに漢字‘瀧’ luŋ を用いて表記されているにも拘らず、この2単語の形式は実際には違っていて、それぞれ roŋ および luŋ であったであろうことは、文語形式から容易に決定できる。また、決定しなければならない。単に漢字表記のみにたよって、同じ漢字で表記された単語には、つねに差別のない形式を推定することは許されないであろう。我々はつぎの原則にしたがわねばならない。漢字による表記では区別されていないけれども、別の根拠からある差別が当然西番語 B に存在していたにちがいないと考えられ、かつ当時の漢語で、その差別を（十分に）適切に書きあらわす手順がなかったことが明確であれば、その差別を西番語 B に認めて差支えない。それ故、このテキストにおける漢字表記を扱うためには、いくつかの基本的な補足仮定が必要である。たとえば、親近言語の形式から考えて、西番語 B に、初頭の有声軟口蓋鼻音 ŋ- が存在したことが明確であるとか、上記のごとく、l- 音と r- 音が意味の差別をになっていたにちがいないとか、-oŋ と uŋ が確かに弁別されていたに相違ないとかの諸点が明らかにされるから、西番語 B の形式を推定するにあたって、これらの差別をも認めるべきであろう。しかし、つぎの原則を見過してはならない。当該言語の AB 形式を表記するのに、漢語の AB 形式を用いるのがもっとも妥当であると考えられるときに、また実際にそのように用いられているときに、たとえば文語形や方言形式から同じく AB 形式を予測できる他の意義をもつ単語が、漢語の AB 形式を用いて表記されずに、AC 形式あるいは DB 形式を用いて表記されて

いたならば、特殊な条件がない限り、後者の単語は予測に反して、実際には AC または DB 形式、あるいはそれに近い形式をもっていたと解釈しなければならない。たとえば、西番語 B の〈鑰〉を意味する単語形式には、文語 lde-mig, ラッサ方言 te<sup>2</sup>-mi<sup>2</sup>, チャムド方言 de<sup>3</sup>-mæg<sup>2</sup> 西番語 A sde-mig 思牒迷が対応するから、「de-mi<sup>?</sup>」の形式を予測し、その上、de-riŋ〈今日〉が‘曇零’をもって表記され、mig〈眼〉が‘密’と表記される例から類推して、〈鑰〉には漢語‘曇密’を用いて表記しているであろうと同時に推測することができる。そして当時の漢語では、「de-mi<sup>?</sup>」の形式を‘曇密’によって十分に表記することができた。それにも拘らず、このテキストでは実際には〈鑰〉は‘的膩’と書かれている。‘的’には〈ごま〉的「ti」, ‘膩’には〈二〉「ñi」の並行例があるために、〈鑰〉の形式は「de-mi<sup>?</sup>」ではなくて、「di-ñi<sup>?</sup>」であったと推定しなければならない。この西番語 B の形式は、チベット人自身の言語意識にもとずいたのではなく、〈眼〉の「mi<sup>?</sup>」と〈鑰〉の「ñi<sup>?</sup>」が、もともとは同一の形態素であることを意識しない漢人が、耳で聞いた口語の音声形式をそのまま記録した結果である蓋然性が大きい。今一つの例をあげよう。〈玉〉は西番語 B で、‘舎’と表記されるから、音形式「ſe」を推定できる。これは文語 shel に対応するために、shel を含む別の単語〈琥珀〉にも文語形 spos shel にもとずいて、同じ形式「po ſe」を予測することができる。しかし、実際にはこの予測に反して、〈琥珀〉は‘博世’「po ſi」<sup>1</sup>と表記されているのである。西番語 B では、文語の shel に対応する形式は、単独にあらわれるときには「ſe」であり、複合語の一部では「ſi」であった。これも漢人が、口語の音声形式を忠実に表記した結果に外ならないと思う。ここで曾っての漢人が意識せずに記載した事柄に言語学的な操作を加えるならば、これらの例の「ñi<sup>?</sup>」, 「ſi」<sup>1</sup>があらわれるのは、複合語の第二成員の位置に限定されるから、音素形式はたしかに「ñi<sup>?</sup>」, 「ſi」<sup>1</sup>であったけれども、それぞれ単独にあらわれる「mi<sup>?</sup>」および「ſe」の allomorphs として、{mi<sup>?</sup>~ñi<sup>?</sup>}、{ſe~ſi} のごとく扱うことが許されるであろう。

筆者は、以上のような方法と態度をもって本稿第三章において西番語 B の音韻体系を推定し、第五章において、このテキストに記載された順に、西番語 B の単語形式を再構成した。

### 三 西番語Bの音韻体系

上述のごとく、このテキストに採録されている単語を相互に対照することによって、さらにその結果をチベット文語および現代諸方言形式と比接することによって、一連の形態素を抽出する手続については、とくに問題はない。現在我々は、この言語を直接に観察することはできないけれども、かつての漢人が表記した結果を通じて考察することができる。この手続によって、西番語Bの単語は1つの形態素あるいは2つまたは3つの形態素の連続から成りたっていることがわかる。そして1つの形態素は、原則として1種のトネームをともなった  $C_1VC_2$  音節様式から成立していたことも推定できる。 $C_1$  の位置には単純子音のほかに若干の音韻結合があらわれるが、 $V$  の位置にたつ単位は、専ら単純母音に限られていて、母音結合は認められない。 $C_2$  の位置には、限定された単純子音またはいわゆる半母音があらわれて、先行する  $V$  との間に一定の連続関係が成立する。

この西番語の音節様式を表記するために、この訳語においてとられている方式として、つぎの諸原則が認められる。

a)  $CVC_2$  音節の  $C_2$  が  $-#$  (zero),  $-?$ ,  $-y$ ,  $-w$  および  $-ŋ$ ,  $-n$ ,  $-m$ , のときには、漢字一字すなわち漢語の一音節を用いて表記する。この場合、 $CV#$  様式と  $CV?$  様式とを、表記上とくに区別しないが、これは、当時の漢語にはいわゆる入声音がすでに消失していて、この両者を明瞭に弁別することができなかったためである。

b)  $CVC_2$  音節の  $C_2$  が  $-s$ ,  $-r$ ,  $-l$  であるときには、漢字2字すなわち漢語の2音節を用いて表記する。原則として、 $-s$  には思を、 $-r$  には兒を、そして  $-l$  には勒を用いる。

c)  $CVC_2$  音節の  $C$  が音韻結合であるときには、漢字2字すなわち漢語2音節を用いて表記する。 $s$  には思を、 $r$  には兒を、 $p$  には補、卜、白を用いる。

d) 西番語Bのトネームは、全般にわたって規則的に表記されていないが、部分的には、漢語の声調、陰平声と去声あるいは上声と去声の対立によって示されている。

#### 表記に用いた漢語の音韻体系

筆者は、以下西番語Bを表記するために用いた漢語を、明末北京音を代表す

る徐孝の『重訂司馬温公等韻図経』にもとずいて再現する<sup>36)</sup>。『等韻図経』にしたがえば、当時の漢語の音韻体系は、初頭単純子音（声母）19種、k-, kh-, t-, th-, n-, p-, ph-, m-, ts-, tsh-, s-, s<sup>2</sup>-, tʂ-, tʂh-, ʒ-, ʃ-, ʻ-, x-, l-: 母音および末尾音の連続（韻母）40種、əŋ, iŋ, uŋ, iuŋ（通摂）、i, ɿ, əɾ, y（止摂）、u, iu（祝摂）、ai, iai, uai（蟹摂）、ei, uei（暈摂）、au, iau（效摂）、ɔ, iɔ, uɔ（果摂）、a, ia, ua（假摂）、ɛ, iɛ, uɛ, iuɛ（拙摂）、ən, in, un, iun（臻摂）、an, iɛn, uan, iuɛn（山摂）、aŋ, iaŋ, uaŋ,（宕摂）、əu, iəu（流摂）、〔この中、若干の韻母は、初頭音との間に限定された分配関係をもっている〕、およびトネーム（声調）4種、平声、上声、去声、如声、からなりたっていた。

当時の一人乃至数人の漢人が、この漢語の体系、少なくとも、これに極めて近い体系にもとずいて、西番語Bを表記したと想定して、つぎにA) 初頭子音、B) 母音および末尾子音の連続、ならびにC) トネームについて、漢字による表記例の並行から、西番語Bの音単位を考察する。

以下、推定した西番語Bの各単位が、概略他の現代方言形式とどのように対応するかを示すために、異った条件をもつ対応例をそれぞれ一例ずつ掲げた。これは、チベット語諸方言の比較研究というには価しないけれども、今後この方面の研究のために、十分参考になるものと思う。ここでは、比較の対象として、チベット文語、ラッサ方言（中央）、バルティ方言（プリック方言（西部））、チャムド方言（東部）、およびアムド方言（東北部）の形式を選んだ<sup>37)</sup>。

## A 初頭子音の種類

### §1 西番語B, 軟口蓋閉鎖音 \*k-\*kh-\*g-<sup>38)</sup>

漢語の k-（見母）および kh-（溪母）を用いて表記される西番語Bの初頭音には、それぞれ軟口蓋閉鎖音 \*k- \*g- および \*kh- を推定する。

表記例 1. <星> : 噶 k- 兒麻 (16) : <脚> 岡 k- 巴 (622)

36) 以下に用いる『等韻図経』の再構成音は、陸志韋氏の研究にしたがった。「記徐孝重訂司馬温公等韻図経」燕京学報, 32期 pp.169-196.

37) 現代チベット方言の分類は、資料の関係から未だ十分な段階にいたっていない。以下の比較に選んだ方言は資料のややととのっている代表的な方言である。Balti 方言と Purig 方言は互に極めて密接しているから、Balti 形が発見できない場合に Purig 形を掲げる。(P. によって示す)

38) 厳密にいうと、これらはいずれも推定形式である。筆者は、一定の再構成の手続を経て推定した形式を、「」でつつんであらわしたいと思う。正確にはこれを音韻と呼ぶのは適当ではないが、漢人が漢語の音韻体系にもとずいて記述した結果を、他の条件を考慮して再び記述し改めた単位ということができる。

2. <舞う> 噉 k- 兒靴 (550) : <満ちる> 岡 k- (54)

3. <城市> 渴 kh- 兒 (95) : <家> 康 \*kh- (394)

1の系列は、チベット文語の無声無気音に (k-), 2の系列は有声無気音に (g-), 3の系列は無声出気音に (kh-), それぞれ該当する。もし漢語による表記に忠実にしたがるならば、1の系列と2の系列が共に無声無気音を用いて表記されているために西番語Bには有声無気音の系列が存在しなかったことになる。しかし、当時の漢語における閉鎖音の系列には出気音と無気音の対立はあっても、有声音と無声音の対立は認められなかった。それ故たとえ西番語Bにおいて有声音と無声音の対立が存在していたにしても、当時の漢語の体系にもとづく限り、この両者を適切に表記分けすることができなかつたのである。そして出気音と無気音の弁別に重点をおいて、西番語の有声無気音と無声無気音に対して、共に漢語の無声無気音を用いて記録したであろうことは当然考えられる。一方、当時の漢語では、そり舌摩擦音にのみ無声音  $\text{ɣ-}$  と有声音  $\text{ɣ-}$  の対立があった。したがって、このテキストにおいて、西番語のそり舌摩擦音を初頭音とする単語に対してのみ、漢語の無声音と有声音を明瞭に使い分けている事実は重要な意味をもっている。しかもその区別が現代方言とくにチャムド方言における音韻論的対立と一致するために (cf.p.114) 西番語Bにおいても無声音  $\text{ɣ-}$  と有声音  $\text{ɣ-}$  の対立が意味の区別をになっていたと推定せざるを得ない。この事実から類推して、初頭閉鎖音・破擦音についても、該当する文語形式の差異を基準として、k-, g-: t- d-: p-b-: ts- dz- などの2系列の対立を認めて差支えないであろう。以下、この基礎的な推定原則にもとずいて、各項目に有声無気音の系列を推定する。

初頭音 k- kh- g- をもつ西番語Bの単語は、チベット文語および現代諸方言と概略つぎの対応を示している。

	Sifan B	Written Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <脚>	「kaŋ-pa」	(622)	rkang-pa:	kaŋ-pa :	kaŋ-ma:	koŋ <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> : xkaŋ-wa:
<啞>	「ku <sup>?</sup> 」	(521)	lkugs-pa:	kuk-pa:	?	kuk <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> : xkux <sup>w</sup> a :
<星>	「kar-ma」	(16)	skar-ma :	kaa <sup>1</sup> -ma:	skar-ma:	kaa-ma : xkar-ma :
<白い>	「kar-pu」	(693)	dkar-po :	kaa <sup>1</sup> -po:	kaar-po:	ka <sup>1</sup> -po <sup>1</sup> : xkar-ro :
2. <満ちる>	「gaŋ」	(54)	gang	: kaŋ <sup>3</sup>	: gaŋ-se :	koŋ <sup>3</sup> : khaŋ :
<門, ドア>	「go」	(395)	sgo	: ko <sup>3</sup>	: zgo	: go <sup>5</sup> : rgo :

- <九> 「gu」 (712) : dgu : ku<sup>3</sup> : rgu : gx<sup>5</sup> : rgu :
- <頭> 「go」 (613) : mgo : ko<sup>3</sup> : go : ŋgo<sup>5</sup> : mgo :
3. <口> 「kha」 (615) : kha : kha : kha : kha<sup>1</sup> : kha :
- <城市> 「khar」 (95) : mkhar : khaa : khar : : mkhar :
- <円い, 円> 「khor」 (73) : ḥkhor : khoo<sup>1</sup> : khor : kho<sup>1</sup> : xkhor :

上に掲げた対応例から, 西番語 B を中心につぎの対応原則をたてることができる。

Sifan B	Lhasa	Batli	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
1. k-	: k- (高調)	: k- sk-	: k-	: xk-,	: rk-, lk-, sk- dk-
2. g-	: k- (低調)	: g-, zg-, rg-	: g-, ŋg-	: rg-, mg-	: g-, sg-, dg-, mg-
3. kh-	: kh-	: kh-	: kh-	: kh-, mkh-, xkh-	: kh-, mkh-, ḥkh-

## §2 西番語 B, 歯茎閉鎖音 \*t-, \*th-, \*d-

漢語の t- (端母) および th- (透母) を用いて表記される西番語 B の初頭音には, 上述の推定原則と以下の根拠からそれぞれ歯茎閉鎖音 \*t- \*d- および \*th- を推定する。

### 表記例

- <花> 滅奪 t- (279) : <馬> 大 t- (331)
- <石> 堞 t- (91) : <箭> 大 t- (449)
- <繩> 塔 th- 巴 (443) : <飲む> 通 th- (663).

1 の系列は, チベット文語の無声無気音に, 2 の系列は, 有声無気音に, 3 の系列は, 無声出気音に, それぞれ該当する。軟口蓋初頭音と同様に, 漢語 t- を用いて表記された西番語初頭音の中には, 実際には無声音 t- および有声音 d- が含まれていると推測して, 該当する文語形式の差異を基準に t- および d- を推定する。

初頭音 t- th- d- をもつ西番語 B の単語は, 文語および現代諸方言と概略つぎの対応関係をもっている。

Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <ごま> 「ti」 (327) :	til :	tij :	? :	? :	til :
<馬> 「ta」 (331) :	rta :	ta <sup>1</sup> :	hrta :	ta <sup>1</sup> :	xta :
<干> 「toj」 (724) :	stoj :	toj <sup>1</sup> :	stoj :	toj <sup>1</sup> :	xtoj- :

- <見る> 「ta」 (183): lta- : ta<sup>1</sup>: hlta : ta<sup>1</sup> : xthə :  
 <深さ> 「tiŋ-」 (145): gting : tiŋ<sup>1</sup>- : : :xthəŋ- :  
 2. <時> 「du-」 (211): dus : ty<sup>ʔ3</sup>: : dy<sup>3</sup> : düi- :  
 <石> 「do」 (91): rdo : to<sup>3</sup> : <sup>p</sup> rdöa : do<sup>5</sup> : rdo :  
 <鍵> 「di-ñi<sup>ʔ</sup>」 (442): lde-mig: te<sup>3</sup>-mi<sup>2</sup>: (limik) :de<sup>3</sup>-mäg<sup>1</sup>:di-ñəq :  
 <樹(の幹)> 「doŋ-bu」 (299):sdong-bu:toŋ<sup>3</sup>-po<sup>1</sup>: (zdo) : : doŋ :  
 <傘> 「du<sup>ʔ</sup>」 (438): gdugs: tuk<sup>3</sup> : : : :  
 <矢> 「da」 (449): mdaḥ : ta<sup>3</sup> : daa : nda<sup>5</sup> : mda :  
 <坐る, ある> 「du<sup>ʔ</sup>」 (423):hdug-pa: tu<sup>3</sup> : duk-pa : dug<sup>3</sup> : duq :  
 <七> 「dun」 (710): bdun: tyn<sup>3</sup> : bdun : dyn<sup>5</sup> : bdün :  
 3. <繩> 「tha<sup>ʔ</sup>-pa」 (443): thag-pa : thak<sup>1</sup>-pa<sup>1</sup>: thaq-pa : thak<sup>1</sup>-pa<sup>1</sup>: thak<sup>w</sup>a :  
 <飲む> 「thuŋ」 (663): hthung : thuŋ<sup>1</sup> : thuŋ-ma: thuŋ<sup>1</sup> : thuŋ :  
 <辺り> 「tha」 (187): mthaḥ : thaa<sup>1</sup> : thaŋaa : : mtha :

上に掲げた対応例から、西番語 B を中心に、つぎの対応原則をたてることができる。

- |         |       |      |        |      |             |
|---------|-------|------|--------|------|-------------|
| Sifan B | Lhasa | Balt | Chamdo | Amdo | Wr. Tibetan |
|---------|-------|------|--------|------|-------------|
4. t- : t (高調) : hrt-, st-, hlt- : t- : t-, xt-, xth- : t- rt-, st- lt- gt-,  
 5. d- : t (低調) : d-,rd-,zd-bd -:d-,nd-:d-,md-,bd-:d-,rd-,sd-,ld-gd-,md-,hd-,  
 6. th- : th- : th- : th- : th-, mth- : th-, hth-, mth-,

### §3 西番語 B, 両唇閉鎖音 \*p- \*ph-\*b-

漢語 p- (幫母) および ph- (滂母) を用いて表記された西番語 B の初頭音には、上述の推定原則にしたがって、p- には西番語 B \*p- b- を、ph- には西番語 B \*ph- をそれぞれ推定する。この \*p- と b- の弁別は、対応する文語形式を基準としたが、実際には、この両者の区別が確かでない単語もある。(cf. <膝>)

- 表記例
1. <膝> ト p- 木 (630) :
  2. <浪> 把 p- 洛 (111) : <瓢罌> 巴 p- 力 (432)
  3. <牌> 鋪 ph- (450) <豚> 怕 ph- (335)
  4. <砂> 彼 ph- 麻 (110) : <数珠> 平 ph- 瓦 (592)

1 の系列は文語の無声無気音に (p-), 2 は有声無気音に (b-), 3 および 4 は

無声出気音(ph-phy-phr-)に、それぞれ該当する。そして、p- ph- b- を初頭とする西番語Bの単語は、チベット文語および現代方言と概略つぎの対応を示している。

	Sifan B	Wr.Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1.	<膝> 「pu-mu」 (630) :	pus-mo :	pe <sup>1</sup> -mo <sup>1</sup> :	buk <sub>h</sub> mo :	py <sup>3</sup> -mo <sup>3</sup> :	wüi-mo :
	<板> 「paŋ」(?) (154) :	spaŋ- :	paŋ <sup>1</sup> - :	spaŋ- :		xpaŋ- :
	<官吏> 「pon」 (473) :	dpon- :	pon <sup>1</sup> -po :			xpon :
2.	<霜> 「ba-mu」 (13) :	ba-mo :	pa <sup>3</sup> -mo <sup>3</sup> :		pa <sup>3</sup> -mo <sup>3</sup> :	
	<浪> 「ba-lo <sup>?</sup> 」 (111) :	rba-log :	pa <sup>3</sup> - :	chhu-rba :	bə <sup>3</sup> - :	wa-
	<亀> 「rü-bay」 (358) :	rus-sbal :	ʃi <sup>3</sup> -pe <sup>3</sup> :	P. zbal :	ri <sup>3</sup> -pee <sup>5</sup> :	rü-pel
	<虫> 「bu」 (357) :	hbu :	pu <sup>3</sup> -sin <sup>1</sup> :	habu :	mbɣ <sup>3</sup> :	wü
3.	<豚> 「pha <sup>?</sup> 」 (335) :	phag-pa :	phak <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> :	P. phaq :	phaa <sup>1</sup> :	phaq
4.	<砂> 「phi-ma」 (110) :	bye-ma :	tɕe <sup>3</sup> -ma <sup>3</sup> :	bya-ma :		xɕi-ma

この対応例から、西番語Bを中心につぎの対応原則をたてることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
7.	p-	p-	sp-, b-	p-	xp-, b-	p-, sp-, dp-,
8.	b-	p-	b-, rb-, zb-,	p-, b-, mb-	p-, b-, w-	rb- sb- hb-
9.	ph-	ph-, tɕ-	ph-	ph-	ph-, xɕ-	ph-, by-,

§4 西番語B 齒茎硬口蓋破擦音 tɕ- tɕh- dz-とそり舌破擦音 tʃ- tʃh- dz- 漢語 tʃ (照母) および tʃh- (穿母) を用いて表記された西番語Bの初頭音に、上述の原則にしたがって、それぞれ規則的にそり舌破擦音 tʃ- dz- および tʃh- を推定することには問題がある。筆者はこれに対応する現代チベット語諸方言形式と明代北京音の性格から、この漢語による音表記には、そり舌破擦音 tʃ- dz- tʃh- のほかに、なお齒茎硬口蓋破擦音 tɕ-, dz- tɕh- が含まれていたことを証明できると思う。まずつぎに表記例をあげよう

1 a	<薑>	吒 tʃ-	児嚙 (287)	:	<柳>	章 tʃ-	麻 (296)	
	b	<髮>	吒 tʃ-	(623)	:	<猿>	周 tʃ-	鳥 (343)
2 a	<虹>	吒 tʃ-	谷兒 (15)	:	b <蕎麥>	吒 tʃ-	鳥 (326)	
		<暖い>	卓 tʃ-	(49)	:	<歩く>	卓 tʃ-	(165)
3 a	<雨>	义 tʃh-	児 (8)	:	<跳>	衝 tʃh-	(551)	

b <窄い> 父 tʂh- (138) : <甲> tʂh- 鈔 (445)

I の系列は文語の無声無気音に (a. c-, b. kr-, pr-), 2 の系列は有声無気音に (a. j-, b. gr-, dr-, br-), 3 の系列は無声無気音に (a. ch-, b. khr-, phr,) それぞれ該当する。以下に掲げた各系列を代表する西番語 B の形式と現代チベット語諸方言形式の対応関係から考察すると (cf. 比較表), r- を副次要素とする初頭音結合 khr-, tr- を保存しているバルティ方言を除いては, 漢語 tʂ- tʂh- を用いて表記される西番語 B の初頭音には, いずれの方言においても 2 種類の音系列がはっきりとした区別をもって対応している。しかも, この 2 種類の音系列が対立する条件は, 歴史的にも明瞭なのである。チベット文語の c-, ch-, j-, の系列には, ラッサ方言 tɕ-, tɕh-, チャムド方言 tɕ-, tɕh-, nɕ- アムド方言 tɕ-, tɕh-, dz に対応し, 文語の kr-, khr-, gr-, br- の系列には, ラッサ方言 tʂ-, tʂh-, チャムド方言およびアムド方言の tʂ-, tʂh-, dz- に対応する。そのほかのほとんどの方言においても, この 2 系列の対立が守られているから, たとえばシガツツェの方言で <髮> tʂa<sup>2</sup> と <虹> tɕa<sup>3</sup> などの対立が守られているから, 16 世紀の天全六番方言において, tʂ- 系音と tɕ 系音が合一していたとは考え難い。一方『等韻図経』によって代表される明代北京音では, 元時代の官話で区別された tɕ- tɕh- と tʂ- tʂh- の 2 系列の初頭音はすでに共に後者の形に合一しており, 清朝の官話にあらわれる tɕ- tɕh- と tʂ- tʂh- の新しい対立は, 未だ成立していなかった。この 2 つの条件は, 西番語 B では, 実際には意味の差別をになっていた tɕ- 系と tʂ- 系の音韻対立があったが, 当時の漢人が当時の漢語の音韻体系を通じて考えるときには, それを表記わけすることができなかつたと推定するに十分である。上に掲げた表記例 1a に属する単語には, tɕ- を, b には tʂ- を, 2a には dz-, 2b には dz- を, 3a には tɕh-, 3b には tʂh- をそれぞれ推定する。つぎに文語および現代方言との対応関係を掲げる。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1 a <柳>	「tɕaŋ-ma」 (296)	lcang-ma	tɕaŋ <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup>	hlchaŋ-ma	ɕoŋ <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup>	xtɕar-:
<一>	「tɕi」 (704)	gcig	tɕi <sup>1</sup>	: chik	: ɕi <sup>1</sup>	: xtɕi :
<十>	「tɕu」 (713)	bcu	tɕu <sup>1</sup>	: phchu	: ɕɕ <sup>2</sup>	: btɕu :
1 b <髮>	「tʂa」 (623)	skra	tʂa <sup>1</sup>	: (skagar)	: tʂa <sup>1</sup>	: tʂa :
<猿>	「tʂew-u」 (343)	sprehu	piiu <sup>1</sup>	: <sup>P</sup> . sperii	: tʂe <sup>1</sup> -wu <sup>1</sup>	: xpiu :
2 a <茶>	「dza」 (655)	ja	tɕa <sup>3</sup>	: cha	: ɕa <sup>3</sup>	: tɕha :

- <綠> 「dzəŋ-khu」 (694) : ljang-khu : tɕəŋ<sup>3</sup>-khu<sup>1</sup> : : tɕəŋ<sup>3</sup> khɣ<sup>1</sup> : tɕəŋ-khu :
- <虹> 「dza-gur」 (15) : hja-gur : tɕa<sup>3</sup> : (ɣza) : nɕa<sup>3</sup> : dzaa :
- 2 b <小麦> 「dzɔ」 (293) : gro : tɕo : khro : dzɔ<sup>3</sup> : dzɔ :
- <歩く> 「dzɔ」 (165) : hgro-ba : tɕo<sup>3</sup>-wa : gwa : ŋdzɔ<sup>5</sup> : ndzɔ
- <六> 「dzɔ<sup>?</sup>」 (709) : drug : tɕu<sup>3</sup> : truk : dzɔ<sup>3</sup> : tɕhüq
- <問う> 「dzi」 (552) : hdri : tɕii<sup>3</sup> : trya : : ndzi
- <蛇> 「dzü」 (356) : sbrul : tɕyy<sup>3</sup> : ɣbul : dzɔy<sup>5</sup> : xdzü
- 3 a <雨> 「tɕhar-pa」 (8) : char-pa : tɕhaa<sup>1</sup>-pa<sup>1</sup> : char-pha : tɕhaa<sup>1</sup>-pa<sup>1</sup> : tɕhar-wa
- <跳> 「tɕhoŋ」 (551) : hchongs : tɕhoŋ : chhoŋ-ma : : tɕoŋ-wa
- 3 b <萬> 「tɕhi」 (725) : khri : tɕhi<sup>1</sup> : : tɕhi<sup>1</sup> : tɕhi
- <細い> 「tɕha」 (138) : phra : tɕha<sup>1</sup>-po<sup>1</sup> : pra-ŋo : tɕha<sup>2</sup>-ka<sup>1</sup> :

以上の対応関係の外に、西番語 B と文語の間になおつぎの関係が認められる。

2. <響く> Sifan B dzə : W. T. sgra ; <遮る> dzi : bsgribs

<蕎麦> dzə-u : bra-bo ; <ざくろ> sun-dzɔu : se-hbru

- 3 a <雀> tɕhi-pa : mchil-pa ; 3b <穉穉> tɕhu : phrug

これらの例から、西番語 B を中心に、つぎの対応原則をたてることができる。

- | Sifan B  | Lnasa       | Balti   | Chamdo        | Amdo             | Wr. Tibetan            |
|----------|-------------|---|---------------|------------------|------------------------|
| 10. tɕ-  | : tɕ- (高調)  | : hlc- phc- : t-  | : xtɕ-, btɕ-, | : lc-, gc-, bc-, |                        |
| 11. dz-  | : tɕ- (低調)  | : ch-   | : t-nɕ-       | : tɕh-, dz-      | : j-, lj-, hj-,        |
| 12. tɕh- | : tɕh-      | : ch-   | : tɕh-        | : tɕh-           | : ch-hch- (mch-)       |
| 13. tɕɕ- | : tɕɕ- (高調) | : P. sper-  | : tɕɕ-        | : tɕɕ-, xp-      | : skr, spr-,           |
| 14. dzɕ- | : tɕɕ- (低調) | : khr-, g-, tr-, ɣb- : dzɕ-ŋdzɕ- : dzɕ-, mdzɕ- : gr-, br-, dr-, hɕdr-, sbr- |               |                  | (sgr-, bsgr-, br-hbr-) |
| 15. tɕh  | : tɕh-      | : khr-, phr- : tɕh-   | : tɕh-        |                  | : khr-, phr-           |

§5 西番語 B 歯茎破擦音 ts-, tsh-, dz-, 歯茎硬口蓋閉鎖音 t-, tɕh-, dɕ-

漢語 ts- (精母) および tsh- (清母) を用いて表記された西番語 B の初頭音には、原則として破擦音 ts- dz- および tsh- を推定できるが、一部に問題がある。筆者はこの項目においても、上述 4 と同様に、西番語 B と現代チベット語方言との間に認められる対応関係と明代北京音のもつ性格から、漢語 ts-tsh- を用いた表記には、西番語 B ts- dz- tsh- のほかに、なお歯茎硬口蓋音 t- dɕ-

ʈh- を表記した場合が含まれていることを証明できると思う。まずつぎに表記例を掲げる。

1. <草> 雜 ts- (301) : <檀香> 鑽 ts- 丹 (584)
2. <倉庫> 嘴 ts- 康 (406) : <日蝕> 你麻散怎 ts- 巴 (51)
3. <熱> 擦 tsh- (217) : <夜> 叅 tsh- 木 (213)
4. <酔う> 唱玆 ts- (564) : <好い> 藏 ts- ト (493)
5. <河中> 出鳥祭 ts- 児 (147) :
6. <腸> 足 ts- 罵 (626) : <八> 節 ts- (711)
7. <村> 踵切 tsh- 児 (104) :

1 および 5 の系列は、文語の無声無気音 (ts- ky-) に、2・4 および 6 の系列は有声無気音 (dz- z- gy-) に、3 および 7 の系列は無声出気音 (tsh- khy-) にそれぞれ該当する。1・2 および 3 の系列に西番語 B ts- dz- tsh- を推定することは、上述の原則から問題はない。つぎに第 4 の系列に属する単語は、たとえば <好い> <苧麻> などの西番語 B 形式が、文語 bzung, gzo-ma あるいは現代チベット方言と並行して、「zɑŋ」「zo-ma」(低調)の形式をもっていたならば、明代北京語の saŋ, so-ma を用いて表記することができた筈である。それにも拘らず、このテキストで明代北京語の tsaŋ, tso-ma がそれらの西番語に与えられているのは、西番語 B で <好い> は「dzɑŋ」、<苧麻> は「dzozo-ma」であったことを意味している。それ故、この系列にも \*dz- を推定する。5・6・7 の系列に属する単語、たとえば <中間>、<村>、<腸>、<八> は、文語および現代方言で、上記のいずれの系列とも弁別される初頭音をもっている。(cf. 比較表 p.113) それ故 16 世紀の天全六番の方言で <中間> が tsi, <村> が dzoŋ-tsher, <腸> が dzu-ma, <八> が dzie の音形式をもっていたとは理解し難い。またこの漢字表記が、西番語 B の tɕ- dz- tɕh- を意図していて、<中間> tɕi, <村> -tɕher, <腸> dzu- ma, <八> dze であったならば、このテキストでは、上記 4 の項目で考察した原則にしたがって、漢語のそり舌破擦音 tɕi, tɕhe, tɕu, tɕe を用いて、それらの西番語の音節を表記したにちがいない。しかし、もし、この系列の漢字表記が、西番語 B で「ʈir」,「ʈher」,「ʈu-ma」および「ʈe」を意図していたと解釈するならば、明代北京語には、ʈ- ʈh- ʈ- 音を適切に表記し得る形式が存在しなかったから、この推定は妥当であると認めざるを得な

いであろう。

一方、西番語Bの  $t- d- th-$  は、大部分が漢語  $k(i)-, kh(i)-$  によって表記されている。

- 表記例
1. <梅> 看菊  $k(i)-$  児 (281)
  2. <百> 甲  $k(i)-$  灘巴 (723) : <墻> 蔣  $k(i)-$  (94)
  3. <寒> 恰  $kh(i)$  (216)

第一の系列は、文語の無声無気音 ( $ky-$ ) に、第2の系列は有声無気音 ( $gy-$ ) に、3の系列は無声出気音 ( $khy-$ ) にそれぞれ該当する。これらの漢字表記に忠実にしたがって、西番語Bの形式が  $ky-, gy-, khy-$  であったと解釈することも可能である。この解釈を採用するならば、上に掲げた<中間> <腸> <八> <村> によって代表される西番語Bの  $t- d- th-$  とこの  $ky- gy- khy-$  が対立した音韻であったと想定しなければならない。それにも拘らず、16世紀天全六番方言で<八> と<百> の初頭音が弁別されるべき関係にあったことは、チベット文語および現代チベット諸方言の体系から推定し難いのである。上述のごとく明代北京音では齒茎硬口蓋音  $t- d- th-$  を適切に表記し得る初頭音がなかったために、<八> によって代表される漢語  $ts-$  系を用いる表記と<百> によって代表される漢語  $k(i)-$  系を用いる表記が、同一の西番語音を記録するために任意に採用された2つの方法であったと解釈して差支えないと思う。

西番語を中心とした場合、はっきりとした対応関係を示す単語を多く発見できないけれども、西番語Bの形式は文語および現代諸方言と概略つぎの対応を示していることがわかる。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	
1. <ツアンパ>	「tsam-pa」	(600) :	tsam-pa :	tsam <sup>1</sup> -pa :		: tsan <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> :	
<草>	「tσα」	(301) :	rtswa :	tσα <sup>1</sup> :	hrtswa :	tσα <sup>2</sup> :	xtsha
<清浄な>	「tσαŋ」	(139) :	gtsang :	tσαŋ <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup> :		: tσαŋ <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup> :	
<葱>	「tsoŋ」	(290) :	btsong :	tsoŋ <sup>1</sup> :	tshoŋ :	tsoŋ <sup>1</sup> :	xtsoq-pa
2. <月蝕>	「-dzen-pa」	(61) :-	hdzin-pa :		zun-ma :	ndzin <sup>5</sup> :	
<指>	「dzu-gu」	(631) :	mdzug-gu :	tsu <sup>3</sup> -ku <sup>3</sup> :	<sup>P</sup> . zuh :	dzx <sup>3</sup> -gu <sup>3</sup> :	mdzuq-gu
3. <塩>	「tsha」	(660) :	tshwa :	tsha <sup>1</sup> :	<sup>P</sup> . tshā :	tsha <sup>2</sup> :	tsha
<夜>	「tshan-mu」	(213) :	mtshan-mo :	tshen-mo :	tshan :		:mtshan

4. <好い> 「dzaŋ-pu」 (493) : bzang-po : saŋ-po : : : zaŋ :  
 5. <中間> 「tir」 (147) : dkyil : t̥i¹ : skyil- : t̥ci¹ : xt̥ci¹ :  
 <酸い> 「tur」 (281) : skyur : tu¹ : skyur : ɕu¹-mo¹ :  
 6. <腸> 「ɖu-ma」 (626) : rgyu-ma : tu³-ma³ : rgyu-ma : : rdzu-ma :  
 <八> 「ɖeʔ」 (711) : brgyad : t̥ɛʔ³ : bgyad : dze³ : bdzɛʔ  
 <百> 「ɖa」 (723) : brgya- : ta³ : rgya : dza² : bdza :  
 7. <あなた> 「thoʔ」 (539) : khyod : thø¹ : ʰ.khyot : t̥hø¹ : t̥ho :

このほか文語形式との間につきの対応が見出される。

1. <服> go tse : Wr.T. gos-brtseg-pa ; 2. <土> tsha : rdzab  
 4. <苧麻> dzo-ma : gzo-ma ; 7. <村> -t̥her : -khyer

この項の西番語 B 初頭音の対応原則をつぎのごとくまとめることができる。

Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
16. ts- : ts- (高調)	: hrts-tsh-	: ts-	: xts-, xtsh-	: ts-,rts-,gts-,bts-,	
17. tsh- : tsh-	: tsh-	: tsh-	: tsh-, mtsh-	: tsh-, mtsh-	
18. dz- : ts-,s- (低調)	: z-	: dz-, ndz-	: mdz-, z-	: ɥdz-, mdz-, bz-	
19. t̥- : t̥- (高調)	: sky-	: t̥ɕ-	: xt̥ɕ-, rdz̥-	: dky-, sky-	
20. t̥h- : t̥h-	: khy-	: t̥h-	: t̥h-	: khy-	
21. ɖ- : t̥- (低調)	: rgy-,bgy-	: dz̥-, ɕ-	: rdz̥- bdz̥-	: rgy- brgy- (gy-)	

#### §6 西番語 B そり舌摩擦音 ɕ- z̥-

漢語の ɕ- (審母) および z̥- (稔母) を用いて表記された西番語の初頭音には、それぞれそり舌摩擦音 \*ɕ- および\* z̥- を推定する。

#### 表記例

1. <梨> 谷東 「ɕ-」 (284) : <玉> 舎 「ɕ-」 (674)  
 2. <壺両> 山 「ɕ-」 岡 (728) : <浅い> 哨 「ɕ-」 (129)  
 3. <田> 繩 「ɕ-」 (105) : <帽子> 沙 「ɕ-」 (645)  
 4. <弓> 肉 「z̥-」 (448) : <四> 日 「z̥-」 (707)

この中、1 および 2 は文語の無声無気音に (sh-,sr-), 3 および 4 は、有声無気音に該当する (zh-)。そして、ɕ-, z̥- を初頭音とする西番語形式は、文語および現代方言と概略つぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <東>	「sar」	(734) : shar	: ɕaa <sup>1</sup>	: sharka	: ɕa <sup>1</sup> -re <sup>1</sup>	: ɕaa :
<ラマ僧の袴>	「-sam」	(640) : gsham	: ɕam <sup>1</sup>	:	: ɕən <sup>1</sup> -	:
2. <両>	「sangan」	(728) : sranggang	: san <sup>1</sup>	:	: suŋ <sup>1</sup>	:
3. <田>	「siŋ」	(105) : zhiŋ	: ɕiŋ <sup>3</sup>	: jiŋ	: ɕiŋ <sup>3</sup>	: ɕəŋka
<帽子>	「sa」	(645) : zhwa	: ɕa <sup>3</sup> -mo <sup>3</sup>	:	: ɕa <sup>3</sup> ŋko <sup>3</sup>	: ɕaa
4. <弓>	「zu」	(448) : gzhu	: ɕu <sup>3</sup>	: ɣju	: ɕɤ <sup>5</sup>	:
<四>	「zi」	(705) : bzhi	: ɕi <sup>3</sup>	: bjii	: ɕə <sup>5</sup>	: bzi

文語の sr- には現代諸方言とも不規則な対応関係を示している。たとえば、ラッサ方言では文語 srin-bal <棉> にあたる tʂin<sup>1</sup>-pe<sup>1</sup>, sram <水獺> にあたる tʂam<sup>1</sup>, srab-po <薄い> にあたる tʂap<sup>1</sup>-po<sup>1</sup> のごとく tʂ- が対応する系列とともに、文語 srung-ba <守る> にあたる suŋ<sup>1</sup>-wa, srog <生命> にあたる so<sup>2</sup> のごとく s- が対応する系列がある。西番語 B においても同様に、文語 sranggang <両> にあたる 「sangan」, srab <浅い> にあたる 「saw」, srab <手綱> にあたる 「saw」 に認められる ʂ- の系列と文語 srung-ba <守る> にあたる suŋ-, srab- <薄い> にあたる 「sa<sup>2</sup>」 によって代表される s- の系列があった。そして、チベット文語に対応する形式が、この 2 系列の中いずれに属しているかは、方言間で必ずしも一致していない。

上記のごとく、漢字表記に忠実に西番語 B の形式を解釈すれば、文語の zh- に対応する形式は、<田> によって代表される ʂ- の系列と、<弓> によって代表される z- の系列に分かれることになる。ここで極めて興味のある事実を発見することができる。上記の対応表において明らかのごとくチャムド方言で、文語の sh- には無声硬口蓋摩擦音 ɕ と有声歯茎硬口蓋摩擦音 ɕ- の 2 系列が対応した。さきに掲げた西番語 B の形式に対する漢字の表記分けは、このチャムド方言の 2 つの系列によく該当しているのである。

	Chamdo	Wr.T.	Sifan B		Chamdo	Wr.T.	Sifan B
1. <木>	ɕiŋ <sup>2</sup>	: shiŋ	: ɕəŋ ;	<肉>	ɕa <sup>2</sup>	: sha	: ɕa
2. <田>	ɕiŋ <sup>3</sup>	: zhiŋ	: ɕəŋ ;	<帽子>	ɕa <sup>3</sup> ŋko <sup>3</sup>	: zhwa	: ɕa
3. <伯父>	ʔa <sup>1</sup> zəŋ <sup>1</sup>	: zhaŋ	: ɕaŋ ;	<坐る>	ɕu <sup>3</sup>	: bzhug	: ɕu

この事実からでも西番語 B には、<木> と <田>, <肉> と <帽子> に

それぞれ声調の対立（高降型と低昇型）があったと認めて差支えないであろう（cf.p.140）。この1に属する単語はもともとは \*sh- の形式から来源し、2に属する単語は \*zh- から、3に属する単語は Cz- から来源したものと推定することが可能である。したがって〈伯父〉は古くは \*gzhaŋ であったと考えられる。

以上の結果、西番語Bを中心につぎの対応原則をたてることができる。

Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
22.	ʃ- : ɕ-, s-, tʃ-, (高調)	sh-		ç-s- : ç-	sh-, gsh-, zh- (一部), sr- (一部)
23.	z- : ɕ- (低調)		j-, ɣj-, bj- : z-	z-, bz-	zh-, gzh- (一部) bzh-

§7 西番語B 歯茎摩擦音 s- z- および歯茎硬口蓋摩擦音 ɕ- z-

漢語 s-（心母）を用いて表記された西番語Bの初頭音には、上述の原則および以下に述べる根拠から歯茎摩擦音 s-, z- および歯茎硬口蓋摩擦音 ɕ-, z- を推定する。

表記例 1.	〈地〉 薩 s- (2)	:	〈金〉 塞 s- 兒 (673)
2.	〈飯〉 薩 s- 麻 (656)	:	〈爪〉 塞 s- 兒 (633)
3.	〈春〉 昔 s- 渴 (206)	:	
4.	〈外〉 昔 s- (743)	:	〈蝶〉 写 s- 麻列 (361)
5.	〈雞〉 斜 s- (352)	:	〈鼠〉 須 s- 瓦 (337)

この中、1および3の系列は、文語の無声無気音 (s-, py-) に、2および5は有声無気音 (z-, by-) に、4は無声出気音 (phy-) にそれぞれ該当する。

これらの初頭音をもつ西番語Bの形式はチベット文語および現代チベット方言と概略つぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. 〈土地〉	「sa」	(2) : sa	: sa <sup>1</sup>	: sa	: sa <sup>2</sup>	: sa
〈三〉	「sum」	(706) : gsum	: sum <sup>1</sup>	: xsum	: sum <sup>2</sup>	: xsum
〈涼しい〉	「si」	(437) : bsil-po	: sii-po	:	: sii <sup>2</sup>	: psil
〈鍋〉	「saŋ-ŋa」	(472) : slang-ŋa	:	:	:	: saŋ-ŋa
〈守る〉	「suŋ-wa」	(166) : srung-ba	: suŋ <sup>1</sup>	: struŋ-ma	: suŋ <sup>2</sup>	:
2. 〈橋〉	「zam-pa」	(106) : zam-pa	: sam-pa	: zam-ba	: sam	: zam-pa

- <職人> 「zo-u」 (497) : bzo-bo : so<sup>3</sup> : : zo<sup>5</sup> : zo-a  
 3. <春> 「çi<sup>?</sup>-kha」 (206) : dpyid-kha : tçi<sup>1</sup>-ka<sup>1</sup> : : tçə<sup>1</sup>-ka<sup>1</sup> : xçε<sup>?</sup>-ka  
 4. <北> 「zaŋ」 (737) : byang : tçaŋ<sup>3</sup> : : çoŋ<sup>3</sup> : xçaŋ  
 5. <開く> 「çε」 (172) : phye-ba : tçhe<sup>1</sup> : phya : çε<sup>1</sup> : xçi

明代北京語では s- と z- 以外には、無声音と有声音の対立をもっていなかったが、上述の原則にしたがって、西番語 B には、該当する文語と現代方言形式から(後者ではトネームの対立としてあらわれる)、無声音と有声音の対立を推定する。また文語の s- z- に該当する系列(上掲 1. 2. の系列)と文語の py- by- phy にあたる系列(上掲 3. 4. 5.)は、上表のごとく、いずれの方言においてもはっきり弁別されているために、西番語 B においても、前者には、s- z- を、後者には ç- z- を推定して差支えないであろう。事実、この両系列は、実際には漢字表記で区別されていて、前者には s- が、後者には si- が用いられている。たとえば se, ze には塞 se があたえられたが、phye には写 siε が用いられた。したがって、<春>「çi<sup>?</sup>-kha」、<北>「zaŋ」、<開く>「çε」を推定した。一例文語 zer <云う>に対応する西番語 B 形式に塞兒 ser が用いられず、斜兒 sier によって表記されているのは、一見この原則の例外のごとく思わせるけれども、明代北京語では se 音節には去声調のみがあって、それ以外の声調をもつ音節がなかったために、西番語 B <云う> zer のもつ上昇型を強調する目的で、とくに如声調の‘斜’が用いられた蓋然性が大きい。なお文語の sl-, sr- に該当する形式については p.114 において述べた。

西番語 B と文語および現代方言の間につきの対応原則をたてることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
24.	s-	: s-	: s- xs-, str-	: s-	: s- xs- ps-	: s- gs-, bs-
25.	z-	: s-	: z-	: z-	: z- bz-	: z- bz-
26.	ç-	: tç-, tçh-	: phy-	: tç-, ç-	: xç-	: dpy-, phy-
27.	z-	: tç-	: (by-)	: ç-	: xç-	: by-

§8 西番語 B 声門閉鎖音 ? および軟口蓋鼻音 η-

漢語・(影母)を用いて表記された西番語初頭音には、声門閉鎖音 ? および軟口蓋鼻音 η- を推定する。この声門音の閉鎖の度合は極めて弱いものであったと考えられる。

表記例 1. <下> 窩「・-」納 (745) : <つんば> 宛「・-」巴 (518)

2. <銀> 玉「-」(675) : <青い> 温「-」ト(690)

1の系列は文語の h- に, 2の系列は ŋ- に該当し, 現代方言と概略つぎの対応関係をもっている。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <下>	「ʔoʔna」	(745): hog-	: fio <sup>3</sup>	: oq-	:	: fioq :
<光>	「ʔoʔ-」	(543): hod	: fiø <sup>ʔ</sup>	: ot	: fiø <sup>ʔ</sup>	: fiot :
2. <我>	「ŋa」	(541): nga	: ŋa <sup>3</sup>	: ŋa	: ŋa	: ŋa :
<銀>	「ŋül」	(675): dngul	: ŋyy <sup>1</sup>	: khmul	: ŋy <sup>2</sup>	: rŋül :
<青い>	「ŋon-pu」	(690): sngon-po	: ŋø <sup>n1</sup> -po <sup>1</sup>	: sŋon-po	: ŋø <sup>n1</sup> -po <sup>1</sup>	: xŋon-po :
<五>	「ŋa」	(708): lnga	: ŋa <sup>1</sup>	: xa	: ŋa <sup>1</sup>	: †ŋa :
<太鼓>	「ŋa」	(413): rŋa	: ŋa <sup>1</sup>	:	: ŋa <sup>2</sup>	: rŋa :

この2つの系列は, 文語および現代方言においては, はっきり対立した単位であり, 一方当時の漢語の体系を通じては, この2系列を表記分けできなかったことが明瞭であるから, 文語および現代方言との対応関係にもとずいて, 西番語Bにʔ-およびŋ-を推定することには問題がない。西番語Bを中心に, つぎの対応原則を認めることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
26.	ʔ-	: fi-	: -	: fi-	: fi-	: h-
29.	ŋ-	: ŋ-	: ŋ-, sŋ-, xm-	ɣ-: ŋ-,	: ŋ-, rŋ- xŋ, †ŋ:	ŋ-, dŋ-, sŋ-, lŋ-, rŋ-,

§9 西番語B 両唇鼻音 m-

漢語 m- (明母) を用いて表記される西番語初頭音に, 両唇鼻音 m- を推定することには問題がない。

表記例 <眼> 密「m-」(617) : <霧> 木「m-」巴(11)

西番語 m- は, 文語および現代諸方言とつぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
<眼>	「miʔ」	(617): mig	: mik	: mik	: mig <sup>3</sup>	: mñəq :
<霧>	「muʔ-pa」	(11): rmugs-pa	: muk <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> :	:	: mug <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> :	xmuq-wa :
<赤い>	「mar-pu」	(691): dmar-po	: ma <sup>1</sup> -po <sup>1</sup>	: mar-po	: ma <sup>1</sup> -po <sup>1</sup>	: xmar-ro :

これらの対応例から西番語を中心につぎの対応原則をたてることができる。

Sifan B Lhasa Balti Chamdo Amdo Wr. Tibetan

30. m- : m- : m- : m- : m- xm- mñ- : m-, rm- dm-

§10 西番語 B 歯茎鼻音 n- および歯茎硬口蓋鼻音 n̥-

漢語 n- (泥母) を用いて表記される西番語初頭音には、歯茎鼻音 n- および歯茎硬口蓋鼻音 n̥- を推定する。

表記例 1. <黒い> 納「n-」ト (695) : <天> 難「n-」(1)

2. <日> 你「n-」麻 (3) : <旧い> 寧「n-」巴 (156)

3. <竹> 奴「n-」罵 (285) : <狂人> 年「n-」巴 (519)

1 は文語の n- に、2 は文語の ñ- に、3 は smy- にそれぞれ該当する。そしてこの3つの系列は、現代方言と概略つぎの対応関係にたっている。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <黒い>	「na <sup>2</sup> -pu」	(695) : nag-po	: na <sup>2</sup> -po	: nak-po	:	: nax-xo
<耳>	「namtʂow」	(614) : rna-	:	: sna	: na <sup>1</sup>	: rna
<天>	「nam」	(1) : gnam	: nam <sup>1</sup>	: khnam	:	: xnam
2. <魚>	「n̥a」	(353) : ña	: n̥a <sup>3</sup>	: ngya	: n̥a <sup>3</sup>	: n̥a
<旧い>	「n̥iŋ-pa」	(156) : rñing	: n̥iŋ <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	: sniŋ-ma	: n̥iŋ <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	:
<心>	「n̥iŋ」	(625) : sñing	: n̥iŋ <sup>1</sup>	:	: n̥iŋ <sup>1</sup>	: xn̥əŋ
<二>	「n̥i」	(705) : gñis	: n̥ii <sup>1</sup>	: ngis	: n̥i <sup>1</sup>	: xn̥i
3. <狂人>	「n̥en-pa」	(519) : smyon-pa	: n̥ø <sup>n1</sup> -pa <sup>1</sup>	:	: n̥ø <sup>n1</sup> -pa <sup>1</sup>	:

1 および 2, 3 は、現代チベット諸方言において明瞭に弁別され、一方、明代北京音では n- と n̥- は対立した音韻ではなかったから、前者には西番語 n- を、後者には n̥- を推定する。上記の対応例から、西番語 B を中心につぎの対応原則をたてることができる。

Sifan B Lhasa Balti Chamdo Amdo Wr. Tibetan

31. n- : n- : n- sn- xn-, : n- : n- rn-, xn- : n- rn- gn-

32. n̥- : n̥- : ŋ-, sn- : n̥- : xn̥- : ñ-, rñ-, sñ-, gñ-, smy-

§11 西番語 B 歯茎側面音 l- およびふるえ音 r-。

漢語 l- (来母) を用いて表記された西番語の初頭音には、さきに述べた漢

字表記に対する基礎的仮定にもとずいて、齒莖側面音 l- およびふるえ音を r- 推定する。またこの齒莖側面音には有声音 l- と無声音 ɬ- の2種類を区別しなければならないことも、チベット文語および現代方言の比較から明らかになる。

- 表記例 1. <年> 羅 [l-] (210) : <道> 藍 [l-] (92)  
 2. <笛> 零 [l-] ト (415) : <上> 喇 [l-] 噶 (744)  
     <月> 老 [l-] 瓦 (4) : <風> 弄 [l-] (5)  
 3. <南> 洛 [l-] (735) : <鞋> 濫 [l-] (641)  
 4. <園> 喇 [l-] 瓦 (102) : <遠い> 塔零 [l-] (748)

1 の系列は、文語の l- に、2 の系列は gl-, bl, zl-, rl- の音結合に、3 の系列は lh- に、そして4は r- にそれぞれ該当する。これらを初頭音とする形式は、文語および現代チベット語方言と概略つぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <年>	[lo]	(210) : lo	: lo <sup>3</sup>	: lo	: lo <sup>3</sup>	: lo
2. <雷>	[lo <sup>?</sup> ]	(9) : glog	: lo <sup>?</sup> 2	: hloq	:	: filoq
<風>	[luŋ]	(5) : rlung	: (ɬa)	: hluŋ	: luŋ <sup>2</sup>	: ɬuŋ
<月>	[law-wa]	(4) : zla-ba	: ta <sup>3</sup> -wa <sup>3</sup>	: lzod	: ta <sup>3</sup> -wa <sup>3</sup>	: da-wa
3. <南>	[lo]	(735) : lho	: ɬo <sup>1</sup>	:	: ɬo <sup>2</sup>	: ɬo
4. <長い>	[riŋ]	(44) : ring-po	: riŋ <sup>3</sup> -po	: riŋ-po	: riŋ <sup>3</sup> -po <sup>1</sup>	: rəŋ

この中、1系列に属する形式に l- を、4に属する形式に r- を推定することには問題がない。それに対して、文語の gl- bl- zl- rl- に該当する第2の系列が、第1の系列と、西番語Bでどのように対立していたかについては明らかではない。ここでは仮りに第2の系列にも l- を推定して、1の系列が低昇型のトネームをとるのに対して、2の系列は高降型のトネームをもった点で弁別されたと考えたい。<年> [lo] 低昇型、<雷> [lo<sup>?</sup>] 高降型 (cf. p.140) 第3の系列には、対応する文語・現代方言形式から類推して、第1、第2の系列と対立した無声側面音を推定することができる。<南> には [ɬo] を、<靴> には [ɬam] を推定する。当時の漢人が、明代北京音の体系を通じて、これら l-, ɬ-, r- 3種の音を弁別して記録することができなかつたこともまた明らかである。以上の結果、西番語Bを中心に、つぎの対応原則をたてることかできる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
33.	l- (低昇型)	: l-	: l-	: l-	: l-	: l-
34.	l- (高降型)	: l-, t-	: hl- lz-	: l- t-	: ʈ- fil- d-	: rl- bl-(bl)zl
35.	ʈ-	: ʈ-	:	: ʈ-	: ʈ-	: lh-
36.	r-	: r-	: r-	: r-	: r-	: r-

### §12 西番語 B 半母音 y-, w-

漢語 ‘(i) ‘(u) (影母) を用いて表記された西番語 B の初頭音には、半母音 y- および w- を推定する。

- 表記例 1. <…である> 銀 ‘i- (540) : <寛い> 羊 ‘i- (638)  
 2. <夏> 葉 ‘i- 児渴 (207)  
 3. <狐> 瓦 ‘u- 木 (376) : <蝙蝠> 怕汪 ‘u- (390)

1 の系列は、文語の y- に、2 の系列は dby- に、3 の系列は w- に該当し、現代チベット方言とつぎの対応関係をもっている。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <有る> 「yoʔ」	(80): yod	: yøʔ	: yod-pa:	jøʔ	: yö	
<右> 「ye」	(739): g-yas	: yeεʔ	:	: je²	: xyi	
2. <夏> 「yer-kha」	(207): dbyar-kha	: yaa²-ka¹:	ɣbyar	: ja¹-ka¹	: xyer	
3. <狐> 「wa-mu」	(376): wa-mo	: wa-mo	: wa	: wa³-mo³:	fiwa	

1 に西番語 y- (低昇型), 2 に y- (高降型), 3 に w- を推定することには問題はない。

西番語 B を中心に、つぎの対応原則をたてることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
37.	y-	: y-	: y-, ɣby-	: j-	: y-, xy-	: y-, g-y-, dby-
38.	w-	: w-	: w-	: w-	: fiw-	: w-

### §13 西番語 B 声門摩擦音 h-

漢語 x- (曉母) を用いて表記される西番語 B は文語 hor-pa に対応する <海青 (鷹の一種) > 火 「x-」 児巴 (393) の 1 例のみである。これに声門摩擦音 h- を推定する。

初頭音結合の種類

§14 両唇音を主核とし，ふるえ音 r- をともなう音結合. \*pr- \*br-.

漢語ト pu-l (来母)-, 補 pu-l (来母)-または白 puai-l- (来母)-を用いて表記される初頭音には，音結合 pr- br- を推定する。

1. <雲> ト客 pul- 「pr-」 (6) :
2. <崖> ト喇 pul- 「br-」 (107): <雷> ト魯 pul- 「br-」 (7)  
 <龍> 補禄 pul- 「br-」 (328): <米> 白列 puail- 「br-」 (292)

1 は文語の無声無気音 (pr-) に，2 は有声無気音 (br-) に該当する。そしてそれらを初頭音とする形式は現代方言と概略つぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <雲>	pulin 「prin」 (6)	: sprin	: tʂin <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> ~pin <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> : <sup>p</sup> .	sprin	: tʂin <sup>1</sup>	: xtʂin-pa
2. <崖>	pula 「bra <sup>?</sup> 」 (107)	: brag	: tʂa <sup>ʔ3</sup>	: braq	: tʂa <sup>ʔ3</sup>	:
<蜂>	-pulaŋ 「braŋ」 (360)	: sbrang	: tʂaŋ <sup>3</sup>	: zbyaŋ	: juŋ <sup>3</sup>	: xdzaŋ,
<米>	puailie 「brɛ」 (292)	: hbras	: tʂɛ <sup>3</sup>	: bras	: dze <sup>3</sup>	: dzɪ

文語形式 pr-, br- に，西番語 B tʂ- (<猿> tʂow-u), dz- (<蛇> dzü) および ph- (<砂> phi-ma) が対応することはすでに述べたが (cf.p.108), そのほかに第3の対応形として，この pr-, br- の系列があった。しかし，この3種の対応系列の分裂を根拠づけた条件を見出すことはむづかしい。現代ラッサ方言においても，文語の br- に pɪ- が対応する例が僅かながら見出し得る。ʔa<sup>1</sup>-pɪa<sup>3</sup> <野鼠> (Wr.T. a-bra). ta<sup>1</sup> pɪɛ<sup>3</sup> <秣桶> (Wr. T. rta bras) (cf. 西番語 B 「ta-re」 (410))。一般に，西部方言を除いて，チベット文語の pr-, br-, には，そり舌音化した tʂ- 系と両唇音を保存する p- 系の2系列が対応するけれども，個々の単語については，採用された対応系列が，各方言を通じて必ずしも一致していない。上記1には \*pr-, を，2には \*br- を推定する。そして西番語 B を中心に，つぎの対応原則をたてることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
39.	pr-	: tʂ-, p-,	: spr-	: tʂ-	: xtʂ	: spr-
40.	br-	: tʂ-	: br-	zby- : tʂ-, ɪ-, dz-	: xdz-, dz-	: br-, sbr-, hbr-

§15 s を先行する閉鎖音と s を先行する鼻音 sk-, sg-, st-, sb-; sn-, sm-.

漢語 s<sub>1</sub> ‘思’ と k- (見母), t- (端母), p- (幫母) および n- (泥母), m- (明母) の結合によって表記される西番語 B の初頭音結合には, \*sk- sg-, st-, sb-, および \*sn-, sm- を推定する。

表記例

1. <ひでる> 難思干 s<sub>1</sub>k- 「sk-」(26): <虎> 思大 s<sub>1</sub>t- 「st-」(329)
2. <鞍> 大思噶 s<sub>1</sub>k 「sg-」(460): <紅藤> 思巴 s<sub>1</sub>p- 「sb-」馬兒 (323)
3. <鼻> 思納 s<sub>1</sub>n- 「sn-」(618): <藥> 思蠻 s<sub>1</sub>m- 「sm-」(609)

1 はチベット文語の st sk- に, 2 は sg- sb- に, 3 は sn- sm- にそれぞれ該当し, 現代方言と概略つぎの対応関係を示す。

	Sifan B	Wr.Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <乾く> 「skam」(26):	skam:	kam <sup>1</sup> -:	skam-:	kan <sup>1</sup> -:		
<虎> 「sta <sup>?</sup> 」(329):	stag	ta <sup>?</sup> <sup>1</sup>	hrta	ta <sup>?</sup> <sup>1</sup>	xta	
2. <鞍> 「sga」(460):	sga	ka <sup>3</sup>	zga		rga	
3. <藥> 「sman」(609):	sman:	men <sup>1</sup>	sman	m̄en <sup>1</sup>	xman	
<鼻> 「sna」(618):	sna	na <sup>1</sup>	snam-:	ŋa <sup>1</sup>	xna	

(sb- の例を<紅藤> sba-mar.: 文語 sba dmar をもって補う)

漢字表記‘思’が, 閉鎖音または鼻音に先行する歯莖摩擦音 s- の表記を意図していたことは, この対応表から明らかである。しかし<鞍>は sga であったか zga であったかは実際には決定できない。

文語の s を先行する閉鎖音および鼻音の結合がすべてこれらの例と並行する形式をもっていたのではない。西番語 B の<鞍>が「sga」の形式をとるのは, 「ta sga」<馬の鞍>の連続においてであって, <鞍籠>では噶介「gake<sup>?</sup>」(Wr.T. sga khebs) の形をもっている。これは漢字表記の不統一に由来するのではなく, 複合語の第 2 要素となる場合にのみ s- が保存されていたのである。西番語 B の形態素<鞍>は実際には {ga~sga} と表記しなければならない。しかし, 文語の形式を基準とすれば, 一方では s を保存し, 他方では脱落している理由が明らかでない例も少なくない。<鼻>「sna」に対立して, 同じく文語 sna-mo に対応する<婦人>は「sna-mo」ではなく那末「na-mo」であり, <藥>「sman」に対立して, 文語 sma-ra <鬚>にあたる西番語 B の形式は「ma-ro」である。全体から見て, s- はとくに弁別を必要とする特定の単語にのみ保存されていたもの

と考えられる。

西番語 B を中心に、つぎの対応原則が成り立つ。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
41.	sk-	: k-	: sk-	: k-	:	: sk-;
42.	st-	: t-	: hrt-	: t-	: xt-	: st- :
43.	sg-	: k-	: zg-	:	: rg-	: sg- :
44.	sn-	: n-	: sn-	: ŋ-	: xn-	: sn-
45.	sm-	: m-	: sm-	: m̥-	: xm-	: sm-

§16 r- を先行する閉鎖音 \*rg-, rt-, rd̥-, rd-,

漢語‘児’と k- (見母) あるいは t- (端母) の結合を用いて表記される西番語 B の初頭音には rg- rt- rd̥- rd- を推定する。

表記例

1. <銅塔> 輟児店 ərt 「rt-」(51):

2. <笑う> 児噶 ərk- 「rg-」(549): <魚網> 娘児家 ərki- 「rd̥-」(459)

<叩頭> 郭児東 ərt- 「rd-」(568): <薑> 吒児噶 ərk- 「rg-」(287)

1 は文語無声無気音 (rt-) に、2 は有声無気音 (rg- rgy-, rd- lg-) の系列に該当する。これらの表記例は、娘児-家、輟児-店、郭児-東、吒児-噶と分析することも可能ではあるが、単独にあらわれる例 <笑う> 児噶がある上に、これらの複合形式を、そこに含まれている単純形式 <魚> 娘、<法鼓> 輟阿、<頭> 郭と対照するならば、‘児家’‘児店’‘児東’をそれぞれ一つの形態素と認めねばならないであろう。<笑う> のほかは、いずれも複合形式の第 2 要素の位置においてのみ r- が保存された。これは、現代チベット諸方言一般に認められる現象である。

§17 以上の手続の結果、西番語 B の初頭子音を、つぎの単純子音 38 種、子音結合 12 種に帰納することができる。

単純子音 : k-, kh-, g-, ŋ-; t-, th-, d-, n-; p-, ph-, b- m-; t̥-, t̥h-, d̥-, n̥-;  
tʃ-, tʃh-, dz̥; ts-, tsh-, dz-; tɕ-, tɕh-, dz̥-; s-, z-, ʃ-, z̥-, ɕ-, z̥-;  
l-, ɬ-, r-; w-, y-, ʔ-, h-

子音結合 : pr-, br-; sk-, sg-, st-, sb-; sn-, sm-; rg-, rt-, rd-, rd̥-

## B 母音および末尾音の種類

### §18 西番語 B a および aʔ

漢語 a (假摂開口) または軟口蓋音と連続する ɔ (果摂開口) を用いて表記される西番語 B には, \*a および aʔ を推定する。

1. <肉> 沙 ʃa 「ʃa」(658): <山のへり> 黎塔 li tha- 「ri tha」(120)  
     <食べる> 雜 tsa 「dza」(661): <浪> 把洛 pa 「ba-loʔ」(111)
2. <雪> 渴瓦 kho 「kha-wa」(14): <秋> 端渴 kho 「kha」(208)
3. <林> 納烏 na 「naʔ-wu」(103): <豚> 帕 pha 「phaʔ」(335)

2 に属する表記例は軟口蓋音を初頭にもつ形式に限られている。それ以外の初頭音が属する 1 の系列とは互に補い合う関係にたっている。明代北京音には ka および kha 音節が存在しなかった上に、現代チベットのいずれの方言においても、この第 1 の系列と第 2 の系列が弁別されている例を、見出し得ないから、1 および 2 共に西番語 B \*a を推定する。これに対して、第 3 の系列は文語の ag に該当する。これは文語 a に該当する系列と、現代チベット諸方言において原則として弁別されており、一方、明代北京音にはいわゆる入声音がすでに消失していたために、この系列には西番語 B aʔ を推定して差支えがない。西番語 a, aʔ をもつ形式はチベット文語および現代諸方言とつぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <肉>	「ʃa」(658)	sha	: ʃa <sup>1</sup>	: sha	: ʃa <sup>2</sup>	: ʃa :
<食べる>	「dza」(661)	za-ba	: za <sup>3</sup>	: za	: za <sup>3</sup>	: za :
2. <手>	「laʔpa」(621)	lag-pa	: lak-pa	: laq-pa	: lag <sup>3</sup> -pa <sup>2</sup>	: laq <sup>w</sup> a :

1 の系列にはすでに掲げた <土地>, <口>, <草>, <塩>, <髪>, <我>, <五>, <太鼓>, <耳> などの例があり, 2 には <黒い>, <繩>, <鉄> などの例がある。

### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
46.	-a	: -a	: -a	: -a	: -a	: -a
47.	-aʔ	: -ak	: -aq	: -ag	: -aq	: -ag

§19 西番語 B -aw

漢語 *vu* (効撰開口) を用いて表記される西番語 B には, \*aw を推定する。

1. <針> 靠 *khau* 「khaw」 (439) : <後> 爵 *tsou* 「ɬaw」 (741).
2. <月> 老瓦 *lou-ua* 「law-wa」 (4) : <根> 糟瓦 *tau-ua* 「tsaw-wa」 (300)

1 の系列は, 文語 -ab に, 2 の系列は C-a-ba に該当する。後者は, 上掲 <月> の対応例から明らかごとく, 上述の a の系列ととくに区別されないから, この表記は, 実際には 「lawa」, 「tsawa」 を意図したものと解釈することができる。1 の系列の代表例 <針> および <後> は文語および現代諸方言とつぎの対応関係をもっている。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	
<針> 「khaw」 (439) :	khab	:	khəp <sup>1</sup>	:	<sup>P</sup> . khap : khe <sup>1</sup>	:	khap :
<後> 「ɬaw」 (741) :	rgyab	:	təp	:	rgyap :	:	rdzap :

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
48. -aw	:	-əp	:	-ap	:	-ε
	:	-ap	:	-ε	:	-ap
	:	-ap	:	-ε	:	-ab

§20 西番語 B -ay

漢語 *ai*, *uai* (蟹撰開口合口) を用いて表記される西番語 B の母音には \*-ay を推定する。

1. <綿花> 列白 *liepuai* 「re bay」 (321) : <劍> 来支 *lai tʂi* 「ray dʒi」 (453)
2. <鸚鵡> 乃作 *nai tsuo* 「nay tso」 (385) : <仙鶴> 斜綵零 *sie tshai liŋ* 「ze tshay riŋ」 (384)

1 は文語の -al に, 2 は e に該当し, 現代方言とつぎのごとく対応する。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo
<綿花> 「re bay」 (321) :	ras-bal	:	peɛ <sup>3</sup>	:	bal : pie <sup>2</sup> :

第 2 の系列 <鸚鵡> には文語 *ne-tso* が, <仙鶴> には *bya tse ring* があたるが, 現代方言の対応形式は資料の不足から発見できない。しかし, 西番語 B -ay の一部が文語の -e に対応する事実は, 文語形式 -e の中には, もともと -al から来源した形が含まれていることを意味している。その反面, 文語の -al には, 規則的に西番語 -ay が対応するのではなく, たとえば <睡る> 「ŋe」

のごとく文語の al に「-e」が対応する系列もある (cf. Wr. T. nyal)。西番語 B において「-ay」および「-e」の 2 系列に分裂している条件は明らかではない。この 2 系列に対する方言間の対応関係もとくに差異はない。(cf. p.131)

#### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
49.	-ay	: -εε	: -al	: -ie	: ?	: -al

#### §21 西番語 B -aŋ

漢語 aŋ (宕摂開口) および両唇音に連続する uaŋ (宕摂合口) を用いて表記される西番語 B には, \*-aŋ を推定する。

#### 表記例

1. <家> 康巴 khaŋ-pa (394): <酒> 唱 tʂaŋ (57)
2. <多い> 忙 muaŋ (558) :

1 の aŋ と 2 の uaŋ は初頭音との結合関係を互に補い合っていて、いずれもチベット文語の -aŋ, 現代諸方言の -aŋ に対応する。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <酒>	「tʂaŋ」(657)	chang	: tʂhaŋ <sup>1</sup>	: chhaŋ	: tʂhoŋ <sup>1</sup>	: tʂhaŋ
2. <多い>	「maŋ」(558)	mang-po	: maŋ <sup>3</sup> -po <sup>1</sup>	: maŋ-mo	: moŋ <sup>3</sup> -po <sup>1</sup>	: maŋ

#### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
50.	-aŋ	: -aŋ	: -aŋ	: -oŋ, (-aŋ)	: -aŋ	: -ang

#### §22 西番語 B -an, -am,

漢語 -an, -uan (山摂開・合口) を用いて表記される西番語 B の母音および末尾音には \*-an, \*-am を推定する。

1. a. <江> 出戦 「tʂhu tʂan」(89) : <晩> 参 「tʂhan」(27)
- b. <葉> 思蠻 sɿmuan 「sman」(609):
2. <路> 藍 lan 「lam」(92) : <考え> 三 san 「sam」(637)
3. <日蝕> 你麻散怎巴 -san tsən pa 「-zandzin-pa」(51):  
 <錫> 染膩 zanni 「zanni」(677)

<耳> 南周 nan tʂow 「namtʂow」 (614) :

<蓮花> 班麻滅奪 panma miəto 「pam-ma-」 (303)

1の系列は、文語 -an に、2は -am に該当する。明代北京音では -m 末尾音は、すでに -n と合一していたために、この両系列を表記分けすることができなかった。またつぎの対応表に掲げるとく、現代諸方言においても、末尾音 -n と -m ははっきり弁別されているから、西番語 B に \*-an および \*-am を推定すべきである。

Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <夜> 「tshan-mu」 (213) :	mtshan-mo :	tshen-mo :	tshan :		mtshan
2. <道> 「lam」 (92) :	lam	: lam	: lam	: lam <sup>3</sup>	: lam

なお、文語の -an には、この系列のほかに西番語 -en が対応する。(cf.p.132)

第3の系列は、文語の -a # 鼻音または -ad # 鼻音の連続に該当する。<日蝕> sa-ɦdzin (ndzin), <錫> zha-ñe, <耳> rna-mchog, <蓮花> pad-ma. これらの単語では、第一の形態素の末尾が、第2の形態素の初頭音と結合して、あるいはその影響のもとに鼻音化がおこった。この種の現象は現代方言においても屢々認められる。たとえばラッサ方言の<存在しない> mi<sup>3</sup>ntu<sup>3</sup> は文語の mi ɦdug に、<目の前> ku<sup>1</sup> ntyn<sup>1</sup> は sku mdun に対応し、チャムド方言の<仏像> ku<sup>1</sup> ɲtʂa<sup>1</sup> は文語の sku ɦdra に、<上唇> ja<sup>2</sup> n̥tʂɣ<sup>1</sup> は yar mchu に対応するなど例は少ない。このような表記例から、このテキストにおける漢字表記が、天全方言の口語形式をかなり忠実に代表していると強調しても差支えないであろう。

#### 対応原則

Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
51. -an	: -an	: -an	: -an	: -an	: -an
52. -am	: -am	: -am	: -am	: -am	: -am

#### §23 西番語 B -ar

漢語 a (假撰開口) または軟口蓋音と連続する ɔ (果撰開口) と '兒' əɾ の結合を用いて表記される西番語母音および末尾音には \*-ar を推定する。

- <赤い> 馬兒卜 maərpu 「mar-pu」 (691) : <絹> 大兒 taər 「dar」 (605)
- <星> 噶兒麻 kɔərma 「kar-ma」 (16) : <城> 渴兒 khɔər 「khar」 (95)

1, 2 共に文語 ar に該当して, 漢字表記 a と ㄅ の関係は, 上記 1 西番語 -a の場合と並行している。そして文語および現代諸方言との対応関係は, すでに掲げた〈星〉, 〈雨〉, 〈赤い〉, 〈東〉, 〈城〉の諸例に認められる。

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
53.	-ar	: -aa	: -ar	: -ar	: -ar	: -ar

#### §24 西番語 B -i, -iʔ

漢語 -i (止摂開口) を用いて表記される西番語には, \*-i および \*-iʔ を推定する。

1. 〈犬〉 器 khi 「t̥hi」(334) : 〈問う〉止 t̥ʂ 「d̥zi」(552)
2. 〈二〉 膩 ni 「n̥i」(705) : 〈ごま〉的 ti 「ti」(327)
3. 〈文字〉義 'i 「yiʔ」(689) : 〈春〉昔 si 「çiʔ」(206)
- 〈影〉止 t̥ʂ 「d̥ziʔ」(50) : 〈風〉世 ʂ 「ʂiʔ」(362)
4. 〈鎖〉薩子 sa tsi 「zaʔ tsi」(441)

〈児馬〉大四 ta si 「ta siʔ」(380) : 〈琥珀〉博世 puoʂ 「po ʂi」(578)

1 は文語形式 -i に, 2 は -is, -il に, 3 は -ig, -id, -ib に, 4 は, -e, -eb, -el にそれぞれ該当する。第 2 の文語 -is に該当する例は, 〈二〉以外にはない。文語 -il には規則的に, 西番語 -i が対応するとは限らない。〈ごま〉と並行して, 〈涼しい〉は「si」(437), 〈雀〉は「t̥chi-pa」(348) ではあるが, 〈露〉思勒巴「zil-pa」(Wr. T. zil-pa), 〈中間〉祭兒「t̥ir」(Wr. T. dkyil) では -il が保存される。第 3 の文語形式 -ig, -id, -ib, に該当する系列には, 第 1 の系列と区別して一応 -iʔ を推定する。しかし実際には, -ig, -id, -ib または, -ik, -it, -ip であった蓋然性が大きい。第 4 の系列はいずれも複合語の第二要素の位置にのみあらわれる形態素である。〈琥珀〉の「ʂi」はさきに述べたごとく, 〈玉〉「ʂe」と allomorph の関係にあったと解釈でき, 〈児馬〉の「siʔ」も, 単独にあらわれる形式は記録されていないけれども, 「seʔ」の存在を期待できる。〈鎖〉の「tsi」も同じ条件にある付属語である。

現代チベット方言との対応関係はすでに 1 には〈問う〉, 〈四〉, 〈萬〉, 2 には〈二〉, 〈涼しい〉, 〈ごま〉, 〈中〉, 3 には〈眼〉, 〈春〉, 〈一〉の諸例を掲げた。それらの例から, つぎの対応原則をたてることができる。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
54.	-i	: -ii	: -ii, -is:	-i	: -i, -ī, -il:	-i, -is, -il,
55.	-iʔ	: -ik, -i	: -ik	: -ig(-ik), -ə:	-ik, iʔ	: -ig, -id, -ib,

§25 西番語 B -iŋ, -eŋ

漢語 -iŋ, -əŋ (通撰開口) を用いて表記される西番語母音および末尾音には, \*-iŋ および \*-eŋ を推定する。

1. <心> 寧 niŋ [n̄iŋ] (625) : <長い> 零 liŋ [riŋ] (44)
2. <木> 盛 ʃəŋ [ʃiŋ] (286) : <田> 繩 ʃəŋ [ʃiŋ] (105)
3. <池> 丁噶 tiŋ kə [teŋ ka] (109) : <数珠> 平瓦 phiŋ wa [pheŋ wa] (592)

1, 2 はいずれも文語 -iŋ に該当する。2 の系列は, そり舌初頭音をもつ形態素に限定され, それ以外の初頭音が属する 1 の系列と補い合っているから, 共に西番語 B -iŋ の表記を意図したのと考えて差支えない。これに対して, 3 の系列は, 文語 -eŋ, 現代方言 -eŋ に該当する。明代北京音では teŋ, pheŋ を適切に表記する音節がなかったから, 1, 2 と区別してこれには \*teŋ \*pheŋ を推定すべきであると思う。(Wr. T. lteŋ-ka, phreŋ-ba)

西番語 B, -iŋ と現代諸方言の対応関係は, すでに掲げた <深さ>, <田>, <心>, <長い> の諸例によって明らかである。\*-eŋ にはつぎの例がある。

Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
---------	-------------	-------	-------	--------	------

<数珠> [pheŋ-wa] (592) : phreŋ-ba : tʃheŋ<sup>1</sup>ŋa<sup>1</sup>: ? : tʃheŋ<sup>1</sup>-ma<sup>1</sup>: tʃheŋ-wa

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
56.	-iŋ	: -iŋ	: -iŋ	: -iŋ	: -iŋ	: -iŋ.
57.	-eŋ	: -eŋ	: ?	: -eŋ	: -eŋ	: -eŋ

§26 西番語 B -in, -im.

漢語 -in (臻撰開口) を用いて表記される西番語には -in および -im を推定する。

1. <蟹> 底信 ti sin [diʔsin] (359) : <…である> 銀 in [yin] (540)
2. <陰る> 纂 tshin [tʰim] (50) :

1 は文語形式 -in に, 2 は -im に該当し, 現代諸方言との間につぎの対応

関係が成りたつ。

Sifan B Wr. Tibetan Lhasa Balti chamdo Amdo

<…である> yin : yin : yin<sup>3</sup> : inma : jin<sup>3</sup> : yin cf.上例(雲)

対応原則

Sifan B Lhasa Balti Chamdo Amdo Wr. Tibetan

58. -in : -in : -in : -in, -iŋ : -in : -in

§27 西番語 B -il, -ir

漢語 i (止撰開口) と‘勒’の結合, および i と‘兒’の結合を用いて表記される西番語には, それぞれ \*-il および \*-ir を推定する。

1. <露> 思勒巴 sɿləpa 「zil-pa」(12)
2. <中> 祭兒 tsiər 「tʃir」(46)

1 および 2 の系列はともに文語形 -il に該当する。もしこの両単語がともに西番語 B -il であったならば, 前者の表記方法をもって統一できたはずである。事実一兒の表記は -i 以外の母音と結合する例では, いずれも文語の -r に該当しているから (cf. pp. 127, 132) この形式には西番語 B \*-ir を推定するのが妥当である。

Sifan B Wr. Tibetan Lhasa Balti Chamdo Amdo

<露> 「zil-pa」(12) : zil-pa : sii<sup>3</sup>-pa<sup>1</sup> : P. zil-pa : : zil :

<中間> は上記 p. 113 を参照。

対応原則

Sifan B Lhasa Balti Chamdo Amdo Wr. Tibetan

59. -il : -ii : P. -il : ? : -il : -il

60. -ir : -ii : -il : -i : -il : -il

§28 西番語 B -e, -e<sup>?</sup>

漢語 -ie (拙撰開口) および軟口蓋音, そり舌音と連続する -ε を用いて表記される西番語形式には \*-e または \*-e<sup>?</sup> を推定する。

1. <花> 滅奪 miətɔ 「me-to<sup>?</sup>」(279) : <舌> 摺 tʃe 「tʃe」(616)
2. <腰> 革巴 kepa 「ke<sup>?</sup>-pa」(629) : <鞦> 大滅 tamie 「ta-me<sup>?</sup>」(454)
3. <玉> 舍 ʃe 「ʃe」(674) : <私印> 梯子 the tsi 「the tsi」(687)

4. <鷄> 斜 sie 「ze」 (352) : <稗> 姐麻 tsie-ma 「de-ma」 (435)  
 5. <八> 節 tsie 「de<sup>?</sup>」 (711) : <梳く> 吒舍 tsa se 「tša se<sup>?</sup>」 (634)  
 6. <臥る> 聶 nie 「ne」 (404) : <右> 葉 ie 「ye」 (739)

この中、1の系列は文語 -e に、2は -ed, 3は -el, 4は、-a, 5は -ad, 6は -al -as にそれぞれ該当し、現代チベット方言と概略つぎの対応関係を示している。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <舌>	「tçe」	: lce	: tçe <sup>1</sup> -le <sup>1</sup>	: hlche	: tçe <sup>2</sup>	: xtçe :
2. <腰>	「ke <sup>?</sup> -pa」	: rked-pa	: ke <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	: sked-pa	: ke <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	: xke <sup>?</sup> -pa :
3. <玉>	「še」	: shel	: çee	:	:	: sel :
4. <鷄>	「ze」	: bya	: tça <sup>3</sup>	: bya	:	: :ça-wu :
5. <八>	「de <sup>?</sup> 」	: brgyad	: tε <sup>?</sup> <sup>3</sup>	: bgyad	: dze <sup>3</sup>	: bdze <sup>?</sup> :
6. <臥す>	「ne」	: nyal	: ne <sup>3</sup>	: <sup>p</sup> . nyel	: ni <sup>1</sup>	: neaa :

1, 3, 4, 6 には \*-e を、2, 5 には \*-e<sup>?</sup> を推定した。実際にはラッサ方言のごとく、i ~ 3 の -e -e<sup>?</sup> と、4 ~ 6 の -ε, -ε<sup>?</sup> が対立した関係にあった可能性も少くない。しかし、全体から見て西番語 B はむしろチャムド方言に近い形態をもっていたと考え得るから、漢字表記に忠実に \*-e および \*-e<sup>?</sup> をすべての系列に推定する。(Sifan B -e: Wr. T -as は上記<右>参照)

#### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
61.	-e	: -e, -a, -ε	: -e, -a, -el	: -e, -i	: -e, -el, -a	: -e, -el, -a, -al, -as
62.	-e <sup>?</sup>	: -e <sup>?</sup> , -ε <sup>?</sup>	: -ed, -ad	: -e	: -e <sup>?</sup> , -ε <sup>?</sup>	: -ed, -ad

#### §29 西番語 B -en, -em.

漢語 -ien (山撰開口) またはそり舌音と連続する -ən (臻撰開口) を用いて表記される西番語には、\*-en, -em を推定する。

#### 表記例

1. <大きい> 唄ト tshənpu 「tchen-pu」 (189):  
 2. <白痴> 連巴 lienpa 「len-pa」(520): <赤胡椒> 烟罵 ien-ma 「yen-ma」 (670)  
 3. <日蝕> 你麻散怎巴 -tsən-pa 「-dzen-pa」 (51):

<家長> 謙荅 khienta 「them-da<sup>?</sup>」 (486)

4. <聴く> 年 nien [n̄en] (555) :

5. <狂人> 年巴 nien-pa [n̄en-pa] (519):

1 は文語 -en に, 2 は -en, -er に, 3 は -in, -im に, 4 は -yan に, 5 は -yon にそれぞれ該当する。2 の <赤胡椒> はもともと「yer-ma」であり, 末尾音 -r が接尾辞 -ma の初頭音に同化されて「yen-ma」に変わった形式であると考えられる。そして第1の系列は専らそり舌音を初頭にもつ形式に限られ, それ以外の初頭音が属する第2の系列とは, 表記上補い合う関係にたっている。第3の系列に属する <日蝕> は文語 hdzin に, <家> は khyim に対応する。西番語 B で前者が dzin であれば漢語 '儘' tsin を用いることができ, 後者が t̄him であれば '欽' khin を用いて表記できた。それにも拘らず, このテキストでは '怎' tsən および '謙' khien を用いているから, <日蝕> には「dzen」を, <家> には「t̄hem」を推定する。第4の <聴く> と第5の <狂人> は, チベット文語および現代方言形式から類推して, 対立した形式をもっていた可能性が大きいけれども, 後者の形式を推定する根拠が薄弱であるために, 共に「n̄en」を仮定した。代表例 <大きい>, <赤胡椒>, <聴く> はつぎの対応関係をもっている。なお <狂人> は p.118 を参照。

Sifan B.	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	
<大きい>	「t̄chen-pu」(189):	chen-po	: t̄chen <sup>1</sup> -po <sup>1</sup>	: (chhoʔo)	: t̄hen <sup>1</sup> -po <sup>1</sup>	: t̄sen-po
<聴く>	「n̄en」(555)	: nyan	: n̄ee <sup>3</sup>	: <sup>p.</sup> nyan-	: n̄ee <sup>3</sup>	: ñen
<赤胡椒>	「yen-ma」(670):	g-yer-ma:	?e <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup>	: s̄jer-ma	: je <sup>1</sup> -ma <sup>1</sup>	:

#### 対応原則

Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
63. -en	: -en, -ee	: -an, -er	: -en, -e	: -en,	: -en, -yan, -er,
64. -en <sup>(?)</sup>	: -ø̄n	:	: -ø̄n	:	: -yon

(<狂人>)

#### §30 西番語 B -er.

漢語 -e または -ie (拙撰開口) と (兒) の結合を用いて表記される西番語 B には \*-er を推定する。

1. <皿> 疊兒麻 tīər-ma 「der-ma」(425): <金> 塞兒 s̄ər 「ser」(673)

2. <夏> 葉兒渴 īər kho 「yer kha」(207)

1 は文語 -er に, 2 は -yar に該当し, <皿>, <金> は, チベット文語および現代方言とつぎの対応関係をもっている。<夏> は p.120 参照。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
<皿>	「der-ma」 (425):	sder-ma	: ter <sup>3</sup> -ma <sup>3</sup> :		: de <sup>3</sup> -ma <sup>3</sup>	: der-ma
<金>	「ser」 (673):	gser	: see <sup>1</sup>	: xser	: see <sup>1</sup>	: xser

#### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
65.	-er	: -er	: -er	: -e,	: -er	: -er,
66.	(-yer	: -aa	: -yar	: -a	: -er	: -yar)

#### §31 西番語 B -ew

漢語 -əu (流摂開口) を用いて表記される西番語には \*-ew を推定する。

<猿> 周烏 tʂəu·u 「tʂewu」 (343)

表記例はこの一例に限られ, 文語 spreḥu に対応する。これと類似した関係にある連続として, <馬駒> 大豊烏 ta-tie-u があるが, 前者を「tʂewu」とし, 後者を「tate·u」と推定して区別する。方言間の対応形式は p.109 を参照。

#### 対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chando	Amdo	Wr. Tibtan
67.	-ew	: -iu	: (ii)	: -e-wu	: -iu	: -eḥu

#### §32 西番語 B -u, -uʔ

漢語 -u (祝摂) またはそり舌摩擦音と連続する -əu (流摂開口) を用いて表記される西番語には, \*-u および \*-uʔ を推定する。

1. <九> 谷 ku 「gu」 (712) : <煙> 靛襪 tu-wa 「du-wa」 (17)
2. <身体> 禄 lu 「lu」 (620) :
3. <霧> 木巴 mu-pa 「muʔ-pa」 (11) : <西> 奴 nu 「nuʔ」 (736)  
 <絲> 谷巴 ku-pa 「kuʔ-pa」 (440) :
4. <弓> 肉 zəu 「zɿu」 (448) : <坐る> 肉 zəu 「zɿuʔ」 (546)

1 は文語 -u に, 2 は -us -ul に, 3 は -ug -ud -ub に, 4 は -u -ug に, それぞれ該当する。1 に属する形式は, そり舌摩擦音を初頭にもつ場合に限られ, 上記 1, 3 の系列に属する形式と補い合う関係にある。文語の -ul, -us に

は、この -u のほか西番語 B  $-\ast\ddot{u}$ 、および  $-\ast\ddot{u}s$  が対応する。(cf.p.135). つぎに <水>, <身体>, <西>, <坐る> の対応関係を掲げる。 <九>, <霧>, <肉> の対応関係は上記 pp. 106, 117, 124 を参照。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <水>	「t̥chu」 (90)	: chu	: t̥chu <sup>1</sup>	: chhu	: t̥hɣ <sup>2</sup>	: t̥ʂhu
2. <身体>	「lu」 (620)	: lus	: ly <sup>3</sup>	:	: lɣ <sup>3</sup> -po <sup>1</sup>	:
3. <西>	「nu <sup>?</sup> 」 (736)	: nub	: nup <sup>3</sup>	: nubkha	: nɣ <sup>3</sup> ~nu <sup>3</sup>	: nup
4. <坐る>	「zu <sup>?</sup> 」 (546)	: bzhuɣs	: ɕuu <sup>3</sup>	: (shak̥h(s)-pa)	: zu <sup>3</sup>	: zu

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
68. -u	: -u, -y	: -u	: -ɣ~ -u	: -u	: -u, -us, -ul.	
69. -u <sup>?</sup>	: -up -uu	: -up	: -ɣ~ -u	: -up	: -ug, -ud, -ub.	

§33 西番語 B -un, -um.

漢語 -un (臻撮合口) を用いて表記される西番語 B には  $-\ast un$  および  $-\ast um$  を推定する。

1. <前> 敦 tun 「dun」 (740): <冬> 棍渴 kunkhɔ 「gun kha」 (209)
2. <三> 孫 sun 「sum」 (706): <月が円い> 老瓦輪ト lunpu 「lum-pu」 (55)

1 は文語 -un に, 2 は -um に該当し, 現代チベット方言との対応原則は, さきに掲げた <三> および <七> の例からつぎのごとくまとめることができる。  
対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
70. -un	: -yn	: -un	: -yn	: -ün	: -un	
71. -um	: -um	: -um	: -um	: -um	: -um	

§34 西番語 B -ur

漢語 (祝撰) -u と '児' の結合を用いて表記される西番語には  $-\ast ur$  を推定する。

- <箸> 土兒麻 thuər-ma 「thur-ma」 (427): <紅花> 古兒棍 kuər kun  
「gur-gum」 (306)

これは文語 -ur に該当し, すでに掲げた例 <酸い> から (p.113), つぎの対

対応原則を考え得る。

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
72.	-ur	: -u	: -ur	: -u	:	: -ur

§35 西番語 B -ü, -ü?, -ür, (-ör?), -üs.

漢語 -u, -iu (止摂合口) を用いて表記される西番語 B には, \*-ü, \*-ü? を, 漢語 -iu と '児' の結合および -iu と '思' の結合を用いて表記される西番語 B にはそれぞれ \*-ür および \*-üs を推定する。

1. <蛇> 主 tʂu [dzü] (356):
2. <瘦せ人> 密主巴 mitʂu pa [mi-dzü?-pa] (515)
3. <青木香> 呂思大 liusɿ ta [rüs ta] (582):
4. <銀> 玉児 'iæɾ [ɲür] (675): <窓掛け> 雨児瓦 iæɾwa [yür-wa] (654)

1 は文語の -ul に, 2 は -ud に, 3 は -us に, 4 は -ul, -ol にそれぞれ該当する。文語の -ul, -us は, このほか, 西番語 B \*-u に該当する系列があり, 文語 -ud には西番語 B \*-u? があたる例がある。<窓掛け> と <銀> には, 同じ漢字表記 'iæɾ が与えられているために, 共に西番語 B \*-ür を推定したが, チベット文語および現代方言形式から類推して, この両単語はおそらく, -ör と -ür に類似した対立した形式をもっていたものと考えられる。すでに掲げた <蛇>, <銀> の例を除いて, <骨> および <窓掛け> の形式の対応関係をつぎに示す。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
<骨>	[rüs] (582)	: rus	: ɿ³-	: ruspa	: ɿɿ³-	: rü-wa
<窓掛け>	[yür~yör] (654)	: yol-ba	: jøø-³la³:		: joo³-la³ :	

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
73.	-ü	: -yy	: -ul	: -y	: -ül	: -ul
74.	-üs	: -i	: -us	: -ɿ	: -üs	: -us
75.	-ür	: -yy	: -ul	: -y	: -ül	: -ul
76.	-ür(-ör):	-øø	:	: -oo	:	: -ol

§36 西番語 B -o -o?

漢語 -uo (果撮合口) を用いて表記される西番語 B には \*-o および \*-o<sup>?</sup>を、泥母初頭音と連続する iəu (流撮開口) には \*-o を推定する。

1. <齒> 索 suo 「so」 (619): <海> 剪剉 tsientshuo 「dentsho」 (97)
2. <分かれ路> 藍郭 lankuo 「lamgo」 (164): <法> 輟 tşuo 「tçho」 (589)
3. <下> 窩納 'uona 「'o<sup>?</sup>-na」 (745): <時> 靺剉 tu tshuo 「du-tsho<sup>?</sup>」 (211)
4. <買う> 牛 niəu 「ŋo」 (566):

1 は文語 -o に, 2 は -ol -os に, 3 は -og -od に, 4 は -os にそれぞれ該当する。4 に属する単語は <買う> 一例のみであって, 西番語 \*-o には -uo を用いる表記原則に適した niuo 音節が明代北京音には存在しなかった。その結果, 牛 niəu による表記は第 2 の系列と初頭音を補い合う関係になるために, <買う> にも西番語 「ŋo」 を推定する。この諸系列は概略つぎのごとくチベット文語および現代方言と対応する。〔上掲 <行く>, <頭>, <門>, <年>, <有る>, <下> etc. を参照〕

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <齒>	「so」 (619)	: so	: so	: so	: so	: so
2. <沸かす>	「ko」 (668)	: skol-ba	: kø <sup>2</sup>	: skol-ba	: kε <sup>1</sup>	:
3. <汚れた>	「tso <sup>?</sup> 」 (140)	: btsog-pa	: tsok <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	: <sup>P</sup> .stsoq-po:	tsok <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup> :	
<時>	「du-tsho <sup>?</sup> 」 (213)	: dus-tshod:	-tshø <sup>?</sup> <sup>1</sup>	:	: -tshø <sup>1</sup>	: -tsho
4. <買う>	「ŋo」 (507)	: ños	: ŋø	: <sup>P</sup> . nyo-	: ŋo	: ŋo

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetam
77. -o	: -o, -ø	: -o, -ol	: -o, -ε	: -o	: -o. -ol. -os	
78. -o <sup>?</sup>	: -ok, -ø	: -oq, -ot	: -ok -ø	: -o <sup>?</sup> -ö	: -oq: -og. -od.	

### §37 西番語 B -ow

漢語 '鳥' niəu (効撮開口) を用いて表記される西番語 B には \*「ŋow」を推定する。

- <水が渾る> 出鳥 tşhu niəu 「tçhu ŋow」 (130)  
 <親戚> 鳥蔑 niəu wa 「ŋow-wa」 (485)

前者は文語 nyog に, 後者は nye-ba に対応する。これらに対応するラッサ

方言 *nok-pa* <渾る> および *ne-wa* <親戚> 以外の現代方言形式をここで掲げることができない。

§38 西番語 B *-uŋ, -oŋ*.

漢語 *-uŋ* (通撮) を用いて表記される西番語 B には, *\*-uŋ* および *\*-oŋ* を推定する。

1. <小さい> 充 *tʂhuŋ* [tʂhuŋ] (71): <槍> 董 *tuŋ* [duŋ] (445)
2. <来る> 容 *iuŋ* [yoŋ] (543) : <葱> 宗 *tsuŋ* [tsoŋ] (290)
3. <ほら貝> 東噶兒 *tuŋkɔər* [duŋ kar] (587): <氷> 綽卜隆 *tʂhɔpuluŋ* [tʂhɔbruŋ] (18)

1 は文語 *-uŋ* に, 2 は *-oŋ* に, 3 は *-un -um* に該当する。明代北京音では *-uŋ* と *-oŋ* の区別を適切に表記分けすることができなかつた。しかし, チベット文語および現代チベット方言形式から類推して西番語においても, この両形式が弁別されるべき職能をもっていたことは明らかである。したがって, 文語形式から類推して, 西番語 B に *\*-uŋ \*-oŋ* を, 区別する。第 3 に属する単語 <氷> *tʂhɔbruŋ* は, 文語 *chab brum* に対応する。もしこの西番語 B 形式が *tʂhɔbrum* であったならば, たとえば漢語‘卜崙’を用いて適切に表記できたと考えられるから, 西番語 B の <氷> は「*tʂhɔbrum*」ではなく「*tʂho-bruŋ*」であったと推定せざるを得ない。

西番語 B *-uŋ* および *-oŋ* はつきのごとく現代チベット方言と対応する。  
〔<風>, <来る>, <葱>, <樹> は上掲参照〕

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <小さい>	[tʂhuŋ] (71)	chung	: tʂhuŋ <sup>1</sup>	: tʂhuŋ-	: tʂhuŋ <sup>1</sup>	: tʂhuŋ :
2. <兔>	[ri-goŋ] (338)	ri-gong	: ɿi <sup>3</sup> -koŋ <sup>3</sup>	: ryoŋ	: ɿə <sup>3</sup> -goŋ <sup>3</sup>	: ɿə-goŋ

対応原則

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
79.	<i>-uŋ</i>	: <i>-ung</i>				
80.	<i>-oŋ</i>	: <i>-ong</i>				

§39 西番語 B *-on, -om*

漢語 *-uan* (山撮合口) 両唇音・声門音と連続する *-u(ə)n* (臻撮合口) または *y-* を初頭音とするときの *-iuən* (臻撮合口) を用いて表記される西番語 B

には-\*on および \*-om を推定する。

1. <寺> 官巴 kuan-pa「gon-pa」(397) : <右> 院 'iuən 「yon」(738)  
 <驢馬> 本鳥 pu(ə)n'u「bon-u」(344) : <青い> 温 ト'u(ə)npu「gon-pu」(690)
2. <熊> 端 tuan 「dom」(355)

1 は文語 -on に, 2 は -om に該当し, 概略現代チベット方言とつぎの対応関係をもっている。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
1. <寺> 「gonpa」(397)		dgon-pa	: kɔ̃n <sup>3</sup> -pa <sup>1</sup>	: gompa	: kɔ̃n <sup>3</sup> pa <sup>1</sup>	: mgon-po
2. <熊> 「dom」(355)		dom	: tom <sup>3</sup>	:	: dom <sup>3</sup>	: tom

対応原則 (上掲 <青い> 参照)

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
81. -on	: -ɔ̃n	: -on	: -ɔ̃n	: -on	: -on	: -on
82. -om	: -om	:	: -om	: -om	: -om	: -om

#### §40 西番語 B -or

漢語 uɔ̃ と '兒' əɾ の結合を用いて表記される西番語 B には \*-or を推定する。

<牛> 那兒 nuɔ̃ər 「nor」(332) : <碗> 坡兒巴 phuɔ̃ərpa 「phor-pa」(424)

これは文語 -or に該当し, 現代チベット方言と概略つぎの対応関係を示す。

	Sifan B	Wr. Tibetan	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo
<碗> 「phor-pa」(424)		phor-ba	: pho <sup>1</sup> -pa <sup>1</sup>	: <sup>P</sup> . phoro	: pho <sup>1</sup>	: phor

対応原則 [上記 <まるい> 参照]

	Sifan B	Lhasa	Balti	Chamdo	Amdo	Wr. Tibetan
83. -or	: -o	: <sup>P</sup> . -o, -or	: -o	: -or	: -or	: -or

§41 以上の手続の結果, 西番語 B の母音および末尾音の連続は, つぎの体系になる。

V	V?	Vŋ	Vn	Vm	Vr	Vw	Vy	Vl	Vs
a	a?	aŋ	an	am	ar	aw	ay		
i	i?	iŋ	in	im	ir			il	
u	u?	uŋ	un	um	ur				
e	e?	eŋ			er	ew			

o	oʔ	oŋ	on	om	or	ow	
ü	üʔ				ür		üs
	(öʔ)				(ör)		

### C トネームの種類<sup>39)</sup>

西番語 B には、基本的に 2 種類のトネーム類の対立があったと推定することができる。これをトネーム類 I およびトネーム類 II とよぶ。この 2 つのトネーム類の対立は、漢語の声調の対立によって表記されているが、全般にわたって、規則的に表記わけされているわけではない。たとえば、すでに初頭音の推定に関連して掲げた諸例のごとく、〈星〉「kar-ma」噶兒麻と〈舞〉「gar-chen」噶兒粘は実際にはトネームの対立があったと考えられるにも拘らず、共に‘噶兒’によって表記され、〈地〉薩「sa」と〈飯〉薩「za」も共に平声‘薩’を用い、〈薑〉「tɕa-rga」吒兒噶と〈虹〉吒谷兒「dza-gur」にも共に平声‘吒’を与え、〈馬〉大「ta」と〈箭〉大「da」の表記には共に去声‘大’が用いられるなど、漢字表記においてトネームの対立が無視されている場合が少くない。それにも拘らずこのテキストでは、微細な点でトーンの型が表記わけされているのである。たとえば付属形態素 \*-wa の表記には‘瓦’（上声）と‘蔑’（去声）が区別され、\*-ma には麻（上声）と罵（去声）が使い分けられている。たとえば〈園〉喇瓦 ra-wa（上）+（上）に対して、〈響〉喇襪 la-wa（上）+（去）があり、〈根〉槽瓦 tsaw-wa（平）+（上）に対して〈煙〉靚襪 du-wa（上）+（去）がある。また〈葉〉羅麻 lo-ma（如）+（上）に対して、〈蟻〉卓罵 dzoʔ-ma（平）+（去）がある。これらの付属形態素の‘上声’と‘去声’による表記分けは、単語全体のもつトーンをかなり忠実に記載しようとした結果であると思ふことができる<sup>40)</sup>。すなわち〈園〉ra-wa は  $\vee \cdot \vee = \vee /$  型、〈響〉la-wa は  $\vee \cdot \searrow = \vee \searrow$  型、〈根〉tsaw-wa は  $\bar{\vee} \cdot \vee = \bar{\vee} /$  型、〈煙〉du-wa は  $\vee \cdot \searrow = \vee \searrow$  型、〈葉〉lo-ma は  $/ \cdot \vee = / \vee$  型、〈蟻〉dzoʔ-ma は  $\bar{?} \cdot \searrow = \bar{?} \searrow$  型を示していた。換言するならば、西番語 B の同じ -「wa」-「ma」が、先行する形態素のもつトーンの相違によって、上昇型をとるときと、下降型をとるときがあった。前者の場合に、漢語

39) 以下用いるトネーム類、トネーム型などの用語については、拙稿 Tonematica Historica. トネームによるタイ諸語比較言語学的研究, 『言語研究』25, 1954を参照されたい。

40) 明代北京語のトネーム類平声上声去声如声のもつトネーム型の実際については他の資料から推定する方法をもたないけれども、現代北京語のトネーム型からつぎのごとく類推して、基本的には誤りがないと思う。平声=平板型, 上声=降昇型, 去声=下降型, 如声=上昇型。

‘瓦’・‘麻’が使われ、後者には‘襪’・‘罵’が用いられた。同様に<寺>官巴「gon-pa」(平)・(平)に対して<觀>本ト管 bon-pu gon (上)・(上)・(上)の表記がある。この両者の「gon」は西番語Bで同一の形態素であると考えられるにも拘らず、漢字表記が異っているのは、無意識に表記されたトーンの違いであると見做さざるを得ないであろう。<寺>は一・一型すなわち、全体が平板型であったのに対して、<觀>の方はV・V・V=V↗↗型、すなわち全体が上昇型になっていたことを示していると考えられる。これらの諸例に認められるトーン型の対立は、西番語の各形態素がもつトネーム型が連続した結果生じるいわゆる変調の例として扱えるであろう。しかし、このような変調をもたらすもともとのトネーム型をさぐらなければならない。

上記の<星>、<舞>などの諸例は、たしかに対立したトネーム型をもっていたことは確かであろうけれども、それを明瞭に表記分けする必要はなかった(あるいは漢語の声調型によっては表記分けできなかった)。これらの単語はトネーム型自体の対立によるよりも、初頭無声音と有声音の対立によって十分に弁別されたからである。しかし、これに対して、初頭音の対立のみによっては十分に弁別できないで、トネーム型の差異にたよって意味の区別を表示しているいくつかの単語の組があった。漢人がそれらの単語を互に区別するためには、明瞭にそのトネーム型を表記分けすることが必須の要件であった。西番語Bのトネーム型は、つぎの2つの方法によって表記分けされている。

1) 漢語の去声調と上声調の対立によって表記分けする。

去声<風>弄 luŋ :<鞋>濫 lam :<日>你麻 ŋi-ma  
上声<溝>瀧巴 luŋ-pa :<路>藍 lam :<二>貳 ŋi

2) 漢語の去声調と如声調の対立によって表記分けする。

去声<晴れる>臥黨 ŋo-daj :<電>洛 loʔ :<木>盛 ŋiŋ  
如声<顔>鵝 ŋo :<年>羅 lo :<田>繩 ŋiŋ

これらの漢語の去声調によって表記される形態素の初頭音は、文語の語幹に子音を先行する形式に該当し、漢語の上声調または如声調によって表記される形態素の初頭音は、共に文語の子音を先行しない語幹形式に該当するから、漢語の上声調と如声調は、西番語Bの同じトネーム型を示したものと考えるべきである。したがって、西番語Bのこの2つのトネーム型の対立によって代表される西番語Bの2つのトネーム類を仮定することができる。そして、漢語のト

ネーム型から、西番語Bのトネーム類Iは下降型であり、トネーム類IIは、上昇型であったと推定したい。実際には、この下降型には、高降型と低降型が、上昇型には、高昇型と低昇型などが含まれていたかも知れない。

この対立から類推して、西番語Bの初頭音一般に、仮りにつぎのトネーム型およびトネーム類を推定してみた。上述のごとく、西番語Bの k- t- tɕ- tʂ- s-などを初頭音とする形態素を表記する場合に、当時の漢人がとくにトーンを区別していない理由の一つは、西番語Bのトネーム類I、IIがときに中平型（あるいは高平型？）と低平型という当時の漢語では表記し得ない型をとったからであると考えたい。しかし、それらの中平型・低平型を本来の下降型・上昇型と対立する意味の相違をになったトネーム型として扱うことは出来ない。たとえば西番語Bの〈地〉「sa」、〈飯〉「za」は共に漢語の平声で表記されるが、同じ条件をもつ西番語Bの〈馬〉「ta」、〈箭〉「da」は共に漢語の去声によって表記されるなどの例があるからである。

初頭音の種類	トネーム型	トネーム類
無声無気音・無声出気音	中平型～下降型	I
有声無気音	低平型～上昇型	II
鼻音および r-l- 系音 I	上昇型	II
鼻音および r-l- 系音 II	下降型	I

この原則には、勿論例外も少くない。たとえば文語形式 dmar-po に対応する西番語B〈赤い〉「mar-pu」には、下降型‘罵兒ト’を期待できるが、実際には‘馬兒ト’と記載されている。文語の nag-po に対応する〈黒い〉「na<sup>?</sup>-pu」には上昇型を期待できるが、〈蠅〉ト郎拿「braŋ na<sup>?</sup>」（黒蠅）に上昇型が認められるほかは、納ト（下降型）と表記されている。しかし、これらの例を、もしトーンの表記に重点をおいて解釈するならば、西番語Bの〈赤い〉は dmar-po から来源したのではなく、mar-po から来源し、〈黒い〉は nag-po からではなく、g-nag-po から来源したと説明することも可能である。

西番語Bのトネームは、西番語Aのごとく明瞭に考察できないけれども<sup>41)</sup>、このテキストにおけるこれらのトーンの記載が、規則性を意識して表記された結果でない点に、より大きい価値があるように考えられる。

41) 拙稿、「チベット語とビルマ語におけるトネームの対応について」『言語研究』35, 1958, p. 91-。

#### 四 西番語Bの文法形態について

ここで西番語Bの文法形態全般にわたって考察することは、この言語資料の性格から、ほとんど不可能に近い。以下の考察はおのずと、この漢語と西番語Bの対訳単語集に記載された事実限定されている。そしてこの単語集において、西番語Bが、音表記と同様に、前後統一のとれた条件のもとに記載されているものと仮定して、以下の考察を行いたい。

この単語集の基準としてあげられた漢語は、一つの単語または2つの単語の連続に限られて、それ以上の連続は含まれていない。しかし、その範囲内においてさえも、2つの単語の連続関係にはいろいろの性格が認められるために、それらの漢語を如何に西番語Bで翻訳しているかを考察することによって、西番語Bの基本的な構文を知ることができる。

つぎに、A. 漢語1単語に対訳される西番語Bの単語形態、およびB. 漢語2単語の連続に対訳される西番語Bの文法形態について考察を加えた。

A. 漢語の1単語に対しては、原則として西番語Bの1単語があてられるが、その場合漢語の1形態素からなる1単語に、西番語BのI形態素によってあらわされる1単語に対訳されるとともに、2つまたは3つの形態素の結合からなる1単語が対照される例も少なくない。すなわち西番語Bの1単語が1つ以上の形態素の結合からなる場合が多いのである。

a) 名詞<sup>42)</sup>。1形態素からなる諸例。〈天〉nam, 〈地〉sa, 〈水〉tq̄hu, 〈弓〉zu, 〈針〉khaw, 〈羊〉lu? などのほかに、〈日〉ni-ma, 〈月〉law-wa, 〈杏〉kham-bu, 〈豆〉so-ma などによって代表される付属語 -ma, -wa, -bu etc. をともなう単純名詞および〈薑〉tqa-rga, 〈時〉du-tsho? などによって代表される同じ意義をあらわす2形態素の結合からなる複合名詞、あるいはまれに〈象〉laŋ-pu tq̄he のような3形態素の結合からなる複合名詞がある。

これらの2つの形態素の結合を、結合される形態素の性格から、つぎの2種類に分類することができる。

##### I 自立形態素と自立形態素の結合よりなる単語

42) 以下に用いる西番語の、名詞・形容詞・動詞などの分類は、対照される漢語と対応するチベット文語から決定した。

## II 自立形態素と付属形態素の結合よりなる単語<sup>43)</sup>

I にはつぎの例がある。

- i) <鞦> ta-me<sup>?</sup> <馬> と <しりがい> : <岸> t̥ɕhu-dz̥am <水> と <岸>  
<厩> ta-dan <馬> と <鞍敷き> : <江> t̥ɕhu-t̥ʂhan <水> と <小川>  
<鞭> ta-t̥ɕa<sup>?</sup> <馬> と <むち> : <井> doŋ-t̥ɕhu <井戸> と <水>  
<轡> ta-ʂaw <馬> と <くつわ> :

これらの ta <馬> あるいは t̥ɕhu <水> は、最後の例を除き、一種の接頭辞的な職能をもっていて、つぎにつづく名詞を限定していると考えてよい。

- ii) 2つの自立形態素が結合して、新しい派生名詞を作る。

po-ʂi <香> ・ <玉> = <琥珀> : z̥u-t̥ʂhi <坐る> ・ <席> = <椅子>  
rü-bay <骨> ・ <蛙> = <亀> : n̥e-t̥ʂhi <ねる> ・ <席> = <床>  
t̥ɕhu-mi<sup>?</sup> <水> ・ <眼> = <泉> :

## II 自立形態素と付属形態素が結合して名詞を作る。

- i) 付属形態素 -pa, -wa, -ma, -kha, -ka, -ŋa を接尾する名詞

<霧> mu<sup>?</sup>-pa, <家> khaŋ-pa; <雪> kha-wa, <煙> du-wa,  
<竹> n̥u<sup>?</sup>-ma, <葉> lo-ma; <春> ɕi<sup>?</sup>-kha, <夏> yer-kha,  
<池> teŋ-ka, <道具> t̥ɕha-ka; <鍋> laŋ-ŋa

これらの付属形態素は、チベット文語の -pa, -ba, -ma, -kha, -ka に該当する。

- ii) 付属形態素 -bu, -wu, -u, -mu, -gu を接尾する名詞。

<樹> doŋ-bu, <杏> kham-bu; <河> t̥ɕhu-wu, <猿> t̥ʂew-u, <匠入> zo-u,  
<夜> tshan-mu, <膝> pu-mu; <筆> n̥u-gu, <紙> ʂo-gu.

これらの付属形態素は、文語の -bo, -mo, -bu, -u, -gu に該当し、-bu, -u, -gu はもともと bu <子供> から来源して、とくに指小辞の機能をもっていた。

- iii) -tsi を第2形態素とする名詞。この多詞は数多くはないけれども、すべて漢語よりの古い借用語であると考え得る<sup>44)</sup>。この -tsi は、漢語の‘子’に該

43) この自立形態素と付属形態素の分類も、対応するチベット文語・現代方言形から類推して、推定した結果である。

44) cf. B. Laufer, Loan words in Tibetan. T'oung Pao vol. 17.1916.

当する<sup>45)</sup>。

<卓> tɕoʔ-tsi (漢語の‘卓子’より), <鎖> zaʔ-tsi (漢語‘鎖子’より)

iv) 付属形態素 a- を接頭する名詞。

<叔父> a-ku, <姉> a-tɕe

この a- は, チベット文語の a- に該当し, いわゆる親属名詞につけられる接頭辞である<sup>46)</sup>。

b) 代名詞 西番語 B の代名詞はつぎの形をもっている。

人称代名詞 疑問代名詞

1 人称単数 ŋa 1 人称複数 ŋa tsho <誰> su

2 人称単数 tʰoʔ 2 人称複数 tʰoʔ tsho

3 人称代名詞および指示代名詞の形式はこのテキストには記載されていない。人称代名詞複数形を造る -tsho は, そのほかに, <千年> lo toŋ-tsho, <万年> lo tʰhi-tsho にもあらわれるから, 名詞一般に付けることができたものと考えられる。

c) 数詞 西番語 B の数詞は, つぎのごとくである。

1. tɕiʔ 2. ŋi 3. sum 4. ʒi 5. ŋa 6. dzuʔ

7. dun 8. ɕeʔ 9. gu 10. tɕu tham-pa

20. ŋi-tɕu 100 ɕa tham-pa 1000 toŋ tsho tɕiʔ

1 萬 tʰhi tsho tɕiʔ 1 億 tʰhi tsho tʰhi tsho

序数詞は, 第 1 tɕi-pa, 第 2 ŋi-pa, 第 3 sum-pa, 第 4 ʒi-pa のごとく -pa をつけてあらわされた。

d) 形容詞 西番語 B の形容詞は, つねに -pu を第 2 形態素とする 2 つの形態素の結合によって表わされる。

<白> kar-pu <紅> mar-pu

<青> ŋon-pu <黒> naʔ-pu etc.

45) これと関連して興味のある事実がある。中国の河南省・鄭州・原陽一帯の方言では, 北京語の…子 [tsə] の替りに [-u] が用いられ, 鄭州では, 鼻子は piəu, 皮子は p'ieu, 李子は liəu, 笛子は tiəu etc となると報告されている (李栄, 怎樣記詞彙和語法例句, 中国語文 1957 I. p.21-) 李栄氏は “[-u] が‘子’から来源していると断定することがまだできないから, 只 [-u] 接尾辞が‘子’接尾辞に該当すると云えるだけである” と述べているが (p.21), この [-u] は, おそらく上に述べたチベット語一般にあらわれる指小辞の -u <bu「子供」> と通じる接尾辞であろう。中国の方言形式の中には, チベット語と漢語の共通時代の残存がなお見出し得るものと期待できる。

46) S.N. Wolfenden, Outlines of Tibeto-Burman Linguistic Morphology. London 1929. p.198.

e) 動詞 西番語 B の動詞は、変化形態をもたない上に、原則として、1 形態素によって代表される。

<去> soŋ <行く>, <来> yoŋ <来る>, <坐> zu<sup>?</sup> <坐る>,  
 <哭> ŋu <泣く>, <買> n<sub>o</sub> <買う>, <売> tshoŋ <売る>,  
 <説> z<sub>er</sub> <云う>,

しかし、2 つあるいは 3 つの形態素の結合から成る動詞もある。

<過> phar-dzo (phar <彼方に>・dzo <行く>) → <渡る>

<酔> tɕhaŋ-dzi (tɕhaŋ <酒>・dzi <酔う>) → <酒に酔う>

<跪> pu<sup>?</sup>-mu tsu<sup>?</sup> (pu<sup>?</sup>-mu <膝>・tsu<sup>?</sup> <つく>) → <跪づく>

<鞠躬> ke<sup>?</sup>-pa gur(ke<sup>?</sup>-pa <腰>・gur <曲げる>) → <身をかがめてお辞儀する>

B 漢語が 2 つの単語の連続によって表現される項目には、西番語 B の 2 つ乃至 3 つの単語連続が対訳される。それらの連続には基本的に、つぎの四種の関係を認めることができる。

1. 従属関係                    天上 <天の上> 天 → → 上
2. 修飾関係                    青天 <青い空> 青 → → 天
- 3 a. 主語・述語 (名詞・動詞) 関係    天晴 <空が晴れる> 天 → ← 晴
- b. 主語・述語 (名詞・形容詞) 関係    天高 <天が高い> 天 → ← 高
4. 目的語・述語関係        敬天 <天を敬う> 敬 → ← 天

1, 2 は内向的 (endocentric) な構文であり、3, 4 は外向的 (exocentric) な構文である。漢語では、単語 '天' は、これらの構文の中、1 と 3ab, および 2 と 4 でそれぞれ同じ位置を占めている。これに対訳される西番語 B の単語連続は、つぎの構文をとる。

1. <天の上>    nam d<sub>i</sub> tho<sup>?</sup>            天 → → の → → 上
2. <青い空>    nam d<sub>i</sub> ŋon-pu            空 → → の → → 青い
- 3 a. <空が晴れる> nam ŋo-daŋ            空 → ← 晴れる
- b. <天が高い>    nam d<sub>i</sub> thon-pu            天 → → の → → 高い
4. <天を敬う>    nam du<sup>?</sup>                    天 → ← 敬う

1. 2. 3b は、内向的構文、3a と 4 は外向的構文であって、単語 <天> nam は、この 4 つの構文を通じていずれも同じ位置を占めている。この例では、内向的構文をとる 1. 2. 3b は、-d<sub>i</sub>- を、2 単語の間に介在しているけれども、これ以外の例では、-d<sub>i</sub>- をともなわない場合も多い。

I の従属関係には、‘山前’ ri→→dun <山の前> ‘山後’ ri→→daw <山の後> ‘河中’ t̥ɕhu-u→→t̥ɕir <河の中> などの例があって、N→→N の関係を示している。2 の修飾関係には、‘白天’ nam ɕi→→kar-pu, ‘黄天’ nam ɕi→→ser-pu など は上例と並行しているが、‘青雲’ prin <雲> ←←ɲon-pu <青い>, ‘白雲’ prin ←←kar-pu などの例では N←←Adj の関係になって、上掲の 3a・4 と同じ語順になる。すなわち、西番語 B では、-ɕi- を介在させない限り、修飾関係(2) と主語・述語関係 (3a. 3b) は、単語の配列の上では異なるところがなかった。たとえば

2. <気持の好い風>      好風      luɲ←←dzɑŋ  
 3a <風が吹く (来る)>   風来      luɲ→←yoŋ  
 3b <風が涼しい>        風涼      luɲ→←dzɑŋ

の例がある。それにも拘らず実際には、これらの構文は口語形式では十分に区別されたものと考えられる。おそらく、luɲ dzɑŋ ではこの2つの単語がかなり密接に連続して発音されるのに対して、3ab の場合は、luɲ と yoŋ, luɲ と dzɑŋ の2つの単語の間に弱い休止が置かれたのであろう。

従属関係が、さきに掲げた <天上>のごとく -ɕi- を介在して表現する場合と並行した諸例をつぎに補いたい (cf. pp. 88-89)。

- <水浪>      t̥ɕhu-i ba-loʔ (-i は文語の -hi に対応する)  
 <西番地方> boʔ-t̥ɕi sa-t̥ɕha (-t̥ɕi は文語の -kyi に対応する)  
 <金匠>      ser-ɕi zo-ʔu (-ɕi は文語の -gyi に対応する)  
 <銀匠>      ɲür-ɕi zo-ʔu (-ɕi は文語の -gyi に対応する)

これらの -i, -t̥ɕi, -ɕi は、チベット文語と同様に先行する形態素の末尾音の性格に応じて補い合う関係にあるから、同一の職能をもった同じ形態素であったと認めて差支えない。これを {-i~-t̥ɕi~-ɕi} として表記することができる。

2つの単語が修飾関係あるいは従属関係にたつときには、上記の {-i~-t̥ɕi~-ɕi} をともなう場合のほかは、実際には N←←N, N←←Adj の配列と N→→N, Adj→→N の配列の2つの場合が記載されていて、この両者をそこに含まれる形態素の意味あるいは形式から決定することはむづかしい。たとえば <雪山> は kha-wa <雪> →→ri <山> であるが、<石山> は ri <山> ←←do <石> であ

る。しかし、この差異をつぎのごとく扱うことができる。2つの単語を、修飾関係にあると意識して連続するときには、N←←N, N←←Adj の配列をとり、従属関係にあると意識されるときには、N→→N, Adj→→N の配列にしたがった。〈一年〉は lo〈年〉←←tqi?〈一〉であるのに対して、〈一日(ついたち)〉は tqi?→→ni〈日〉であるのは、前者は修飾関係にあり、後者は従属関係にあったと意識されたことによる。〈石橋〉do-wa〈石〉→→zam-pa〈橋〉と並行して、〈新橋〉sar-pa〈新しい〉→→zampa, 〈旧橋〉niŋ-pa〈旧い〉→→zam-pa が、N←←Adj とならないで Adj→→N の配列をとっているのは、これらの単語連続が従属関係としてとらえられたためであろう。

西番語Bの存在表現・関係表現にはつぎの形式がある。

〈……がある〉……yo?	〈雨がある〉	tqhar-pa yo?
〈……がない〉……me?	〈雨がない〉	tqhar-pa me?
〈……である〉……yin	〈私である〉	ŋa yin
〈……でない〉……*mi-yin	〈私ではない〉	*ŋa mi yin> ŋa min

最後の例は実在しないが、khog〈ひま〉に対して mi khog〈忙しい〉の例があるから、一般に否定形式は mi- によって表現されたと推定して誤りではない。しかし、西番語Bの疑問構文はこの資料からはわからない。

## 五 阿波国文庫本西番館訳語テキスト

阿波国文庫本『西番館訳語』は、全体で64頁の小冊子である<sup>47)</sup>。その内容は、天文門、地理門、地名門、時令門、花木門、鳥獸門、宮室門、器用門、人物門、人事門、身体門、衣服門、飲食門、珍宝門、文史門、声色門、数目門、通用門の十八部門に分かたれ、総計749項目が収録されている。上段に漢語が書かれ、下段には、各漢語の意味に該当する西番語が漢字を用いて表記されている。

以下に提供する資料では、最左欄に上段の漢語を置き、その英訳を付して、つぎに西番語を表記した漢字と、それにもとずいて筆者が上述の経路を経て推定した西番語形式を記入した。最右欄は、その西番語に該当すると考えられるチベット文語または俗語の形式である。

47) この書物の編者はわからないけれども、十国訳語に属する『西番訳語』の編者は、孝慈堂書目によれば李広元となっている、この阿波国文庫本と十国訳語の西番訳語の間どの程度に内容の差異があるのかは、今は明らかにできない。

THE CHINESE-TIBETAN VOCABULARY, HSI-FAN-KUAN YI-YU.  
AWAKUNI LIBRARY TEXT.

I 天文門		Part 1	Astronomy	
1	天	heaven	難	「nam」 gnam
	地	earth	薩	「sa」 sa
	日	sun	你麻	「ni-ma」 nyi-ma
	月	moon	老瓦	「law-wa」 zla-ba
5	風	wind	弄	「luŋ」 rlung
	雲	cloud	卜吝	「prin」 sprin
	雷	thunder	卜魯	「bruʔ」 ḥbrug
	雨	rain	义兒巴	「tɕhar-pa」 char-pa
	電	lightning	洛	「loʔ」 glog
10	雹	hail	塞兒瓦	「ser-wa」 ser-ba
	霧	fog	木巴	「muʔ-pa」 smug-pa~rmug-pa
	露	dew	思勒巴	「zil-pa」 zil-pa
	霜	frost	白木	「ba-mu」 ba-mo
	雪	snow	渴瓦	「kha-wa」 kha-ba
15	虹	rainbow	吒谷兒	「dza-gur」 ḥjah-gur
	星	star	噶兒麻	「kar-ma」 skar-ma
	烟	smoke	覩襖	「du-wa」 du-ba
	冰	ice	綽卜隆	「tɕho-bruŋ」 chab-brom
	天上	upper part of heaven	難吉駝	「nam ɕi thoʔ」 gnam gyi thog
20	天下	under part of heaven	難吉沙	「nam ɕi ʒaʔ」 gnam gyi zhabs
	天辺	horizon	難吉鎖祿	「nam ɕi zo luʔ」 gnam gyi (?)
	天高	The heaven is high.	難吉團卜	「nam ɕi thon-pu」 gnam gyi thon-po
	天陰	The weather has clouded up.	難渴替	「nam kha thiʔ」 gnam-mkha thibs
	天晴	The weather has cleared	難臥黨	「nam ŋo-daŋ」 gnam sngo-dang
25	天曉	The heaven dawns	難郎	「nam laŋ」 gnam langs

	dry weather		
	天旱 (The weather has dried up.)	難思干	「nam skam」 gnam bskams
	天晚 evening	難參	「nam tshan」 gnam mtshan
	天知 heaven knows	難吉舍	「nam ɖi ʃe」 gnam gyi shes
	青天 blue sky	難吉溫卜	「nam ɖi ŋon-pu」 gnam gyi sngon-po
30	白天 white sky	難吉噶兒卜	「nam ɖi kar-pu」 gnam gyi dkar-po
	黃天 yellow sky	難吉塞兒卜	「nam ɖi ser-pu」 gnam gyi ser-po
	敬天 to worship the heavens	難特	「nam thuʔ」 gnam dud
	黑天 black sky	難吉納卜	「nam ɖi naʔ pu」 gnam gyi nag-po
	青雲 blue cloud	卜吝溫卜	「prin ŋon-pu」 sprin sngon-po
35	白雲 white cloud	卜吝噶兒卜	「prin kar-pu」 sprin dkar-po
	黃雲 yellow cloud	卜吝塞兒卜	「prin ser-pu」 sprin ser-po
	紅雲 red cloud	卜吝馬兒卜	「prin mar-pu」 sprin dmar-po
	黑雲 black cloud	卜吝納卜	「prin naʔ-pu」 sprin nag-po
	綵雲 colored cloud	卜吝噶吒	「prin tʃhen-dzaʔ」 sprin tshon rgyab (?)
40	雲開 clouds part	卜吝謝	「prin ɕe」 sprin phye
	雲遮 clouds cover	卜吝止	「prin dziʔ」 sprin bsgribs
	日出 the sun rises	你麻沙兒	「ni-ma ʃar」 nyi-ma shar
	日落 the sun sets	你麻奴	「ni-ma nuʔ」 nyi-ma nub
	日長 the day is lengthening	你麻零	「ni-ma riŋ」 nyi-ma ring
45	日短 the day is short	你麻通	「ni-ma thuŋ」 nyi-ma thung
	日中 daytime	你麻祭兒	「ni-ma ɖir」 nyi-ma dkyil
	日斜 the sun is getting lower (slanting)	你麻足兒	「ni-ma dzur」 nyi-ma bzur
	日午 midday	你麻拱	「ni-ma guŋ」 nyi-ma gung
	日暖 the weather is warm	你麻卓	「ni-ma dzɔ」 nyi-ma ɥdro
50	日影 shadows of the sun	你麻纂止	「ni-ma ɖhim dziʔ」 nyi-ma ɥkhyims grib
	日蝕 solar eclipses	你麻散怎巴	「ni-ma zan dzen-pa」 nyi-ma za ɥdzin-pa
	日紅 the sun is red	你麻馬兒卜	「ni-ma mar-pu」 nyi-ma dmar-po
	月落 the moon sets	老瓦奴	「law-wa nuʔ」 zla-ba nub

	月滿	the moon is full	老瓦岡	「law-wa gaŋ」	zla-ba gang
55	月圓	the moon is round	老瓦輪卜	「law-wa lum-pu」	zla-ba zlum-po
	月出	the moon comes out	老瓦沙兒	「law-wa ʃar」	zla-ba shar
	月明	the moon is bright	老瓦噶兒	「law-wa kar」	zla-ba dkar
	月黑	the moon is dark	老瓦納卜	「law-wa naʔ-pu」	zla-ba nag-po
	明星	morning star	噶兒麻占	「kar-ma dzen」	skar-ma rjen
60	月影	shadows of the moon	老瓦纂止	「law-wa ʧhim dziʔ」	zla-ba ɣkhyims grib
	月蝕	lunar eclipse	老瓦散怎巴	「law-wa zan dzen-pa」	zla-ba za ɣdzin-pa
	星出	stars come out	噶兒麻雄	「kar-ma zuŋ」	skar-ma byung
	星落	stars fall	噶兒麻奴	「kar-ma nuʔ」	skar-ma nub
	星多	stars are many	噶兒麻忙	「kar-ma maŋ」	skar-ma mang
65	星少	stars are few	噶兒麻紐	「kar-ma ɳu」	skar-ma nyung
	宿星	stars and constellations	足噶兒	「ɖu kar」	rgyu skar
	雷霹	thunderbolt	駝	「thoʔ」	thog
	風起	wind blows	弄郎	「luŋ laŋ」	rlung langs
	風息	wind stops blowing	弄墨	「luŋ meʔ」	rlung med
70	風大	wind is big (gale)	弄車	「luŋ tɕhe」	rlung che
	風小	wind is small (breeze)	弄充	「luŋ tɕhuŋ」	rlung chung
	風來	wind has arisen	弄容	「luŋ yoŋ」	rlung yongs
	旋風	whirlwind	弄課兒	「luŋ khor」	rlung ɣkhor
	風涼	wind is cool	弄掌	「luŋ dzɕaŋ」	rlung grang
75	好風	pleasant wind	弄藏	「luŋ dzɕaŋ」	rlung bzang
	大雨	big rain	叉兒巴車	「tɕhar-pa tɕhe」	char-pa che
	小雨	small rain	叉兒巴充	「tɕhar-pa tɕhuŋ」	char-pa chung
	雨下	to rain	叉兒巴博	「tɕhar-pa baʔ」	char-pa bab
	雨注	to pour (rain)	叉兒巴綽	「tɕhar-pa dzɕo」	char-pa ɣgro
80	有雨	(there is) rain	叉兒巴約	「tɕhar-pa yoʔ」	char-pa yod

	無雨 (there is) no rain	叉兒巴墨	「t̥char-pa meʔ」 char-pa med
	雪下 to snow	渴瓦博	「kha-wa baʔ」 kha-ba bab
	雹下 to hail	塞兒瓦博	「ser-wa baʔ」 ser-ba bab
	霜薄 frost is light	白木薩	「ba-mu saʔ」 ba-mo srab
85	冰凍 to freeze	綽卜隆义	「t̥hobrung t̥haʔ」 chab brom khyags
	霧罩 to fog	木巴替	「muʔ-pa thiʔ」 smug-pa thibs
	霧散 the frost breaks	木巴黨	「muʔ-pa dang」 smug-pa dang

II 地理門 Part II Geography

	山 mountain	黎	「ri」 ri
	江 large river	出戰	「t̥chu t̥shan」 chu phran
90	水 water	出	「t̥chu」 chu
	石 stone	垛	「do」 rdo
	路 road	藍	「lam」 lam
	井 well	董出	「doŋ t̥chu」 dong chu
	牆 wall	蔣	「d̥aŋ」 gyang
95	城 walled city	渴兒	「khar」 mkhar
	河 river	出烏	「t̥chu-wu」 chu-bu
	海 sea	剪剉	「d̥en-tsho」 rgya mtsho
	溝 ditch	瀧巴	「luŋ-pa」 lung-pa
	岸 bank	出戰	「t̥chu dzam」 chu hgram
100	地 earth	薩	「sa」 sa
	土 soil	擦	「tshaʔ」 rdzab
	園 garden	喇瓦	「ra-wa」 ra-ba
	林 forest	納烏	「naʔ-wu」 nags-bu
	村 village	踵切兒	「dzoŋ t̥her」 grong khyer
105	田 rice fields	繩	「ʃiŋ」 zhing
	橋 bridge	散巴	「zam-pa」 zam-pa
	崖 cliff	卜喇	「braʔ」 brag
	泉 spring	出密	「t̥chu-miʔ」 chu-mig
	池 pond	丁噶	「teŋ-ka」 lteng-ka

110	沙	sand	彼麻	「phi-ma」	bye-ma
	浪	wave	把洛	「ba-loʔ」	rba-log
	山高	mountains are high	黎團卜	「ri thon-pu」	ri mthon-po
	山低	mountains are low	黎罵瓦	「ri ma-wa」	ri dmaḥ-ba
	山上	upper part of the mountain	黎喇噶	「ri la-ga」	ri bla-ga (?)
115	山下	inside part of the mountain	黎窩納	「ri ʔoʔ-na」	ri ḥog-na
	山前	front side of the mountain	黎敦	「ri dun」	ri mdun
	山後	backside of the mountain	黎爵	「ri d̥aw」	ri rgyab
	山頂	top of the mountain	黎駝	「ri thoʔ」	ri thog
	山脚	foot of the mountain	黎岡巴	「ri kaŋ-pa」	ri rkang-pa
120	山辺	edge of the mountain	黎塔	「ri tha」	ri mthaḥ
	山尖	mountain peak	黎尊木	「ri tsum mu」	ri rtse-mo
	山洞	caves	黎鋪	「ri phuʔ」	ri phug
	山涯	ledge	黎卜刺	「ri braʔ」	ri brag
	山澗	mountain torrent	黎瀧巴	「ri roŋ-pa」	ri rong-pa
125	青山	blue mountain	黎温卜	「ri ŋon-pu」	ri sngon-pu
	石山	stone mountain	黎堞	「ri do」	ri rdo
	雪山	snow mountain	渴瓦黎	「kha wa ri」	kha-ba ri
	水深	water is deep	出丁零卜	「t̥ɕhu tiŋ-riŋ-pu」	chu gting-ring-po
	水淺	water is shallow	出哨	「t̥ɕhu ɕaw」	chu srab
130	水渾	water is muddy	出鳥	「t̥ɕhu ɳow」	chu nyog
	水清	water is clear	出黨	「t̥ɕhu daŋ」	chu dang
	水流	current of a stream	出卓	「t̥ɕhu dzo」	chu ḥgro
	水響	sound of water	出吒	「t̥ɕhu dza」	chu sgra
	水浪	waves	水以把洛	「t̥ɕhu-i ba-loʔ」	chu-ḥi rba log
135	水落	water falls	出奴	「t̥ɕhu nuʔ」	chu nub
	水出	water comes out	出雄	「t̥ɕhu zuŋ」	chu byung

	水寬	water is wide	出羊巴	「t̥ɕhu yaŋ-pa」	chu yang-pa
	水窄	water is narrow	出認叉	「t̥ɕhu zən t̥ʂha」	chu zheng phra
	淨水	clean water	出藏	「t̥ɕhu tsaŋ」	chu gtsang
140	濁水	turbid water	出作	「t̥ɕhu tsoʔ」	chu btsog
	泥水	mire	瞻出	「dam t̥ɕhu」	ɥdam chu
	下水	to go down stream	馬兒出	「mar t̥ɕhu」	dmar chu
	過水	to cross a stream	出怕兒卓	「t̥ɕhu phar dzɔ」	chu phar ɥgro
	海岸	sea shore	剪剝喇怕力	「ɕen tsho ra pha ri」	rgya-mtsho ra pha ri
145	河深	river is deep	出烏丁零	「t̥ɕhu-wu tiŋ-riŋ」	chu-bu gting-ring
	河淺	river is shallow	出烏哨	「t̥ɕhu-wu ʂaw」	chu-bu sraβ
	河中	middle of river	出烏祭兒	「t̥ɕhu-wu t̥ir」	chu-bu dkiyl
	過河	to cross a river	出烏怕卓	「t̥ɕhu-wu pha dzɔ」	chu-bu pha ɥgro
	大河	large river	出烏車	「t̥ɕhu-wu t̥ɕhe」	chu-bu che
150	小河	small river	出烏充	「t̥ɕhu-wu t̥ɕhuŋ」	chu-bu chung
	大石	large stone	堞瓦車	「do-wa t̥ɕhe」	rdo-ba che
	小石	small stone	堞瓦充	「do-wa t̥ɕhuŋ」	rdo-ba chung
	石橋	stone bridge	堞瓦散瓦	「do-wa zam-pa」	rdo-ba zam-pa
	板橋	wooden bridge	堞列散瓦	「do-le(?) zam-pa」	spang-leb zam-pa
155	新橋	new bridge	薩兒巴散巴	「sar-pa zam-pa」	gsar-pa zam-pa
	舊橋	old bridge	寧巴散巴	「ŋiŋ-pa zam-pa」	rnying pa zam-pa
	過橋	to cross a bridge	散巴怕卓	「zam-pa pha dzɔ」	zam-pa pha ɥgro
	行船	to travel by boat	竹卓	「dzɔ dzɔ」	gru ɥgro
	上岸	to go ashore	思干藍卓	「skam lam dzɔ」	skam lam ɥgro
160	大路	large road	藍車	「lam t̥ɕhe」	lam che
	小路	small road	藍充	「lam t̥ɕhuŋ」	lam chung
	石路	stone road	藍堞	「lam do」	lam rdo
	修路	to repair a road	藍輟	「lam t̥ɕho」	lam ɥchos
	分路	branch road	藍郭	「lam go」	lam gol
165	走路	to walk	藍卓	「lam dzɔ」	lam ɥgro
	守路	to guard a road	藍松瓦	「lam suŋ-wa」	lam srung-ba

	水路 waterways	出藍	[tɕhu lam] chu lam
	旱路 roadways	干藍	[kam lam] skam lam
	路遠 road is far	藍塔零	[lam tha <sup>?</sup> riŋ] lam thag-ring
170	路近 road is near	藍塔聶	[lam tha <sup>?</sup> nɛ] lam thag-nye
	路平 road is level	藍疊木	[lam de-mu] lam sder-ma
	開田 to open a field	繩謝	[ʃiŋ ɕe] zhing hphye
	種田 to cultivate a field	繩疊	[ʃiŋ de <sup>?</sup> ] zhing hdebs
	水田 paddy-field	出繩	[tɕhu ʃiŋ] chu zhing
175	犁田 to plough	繩磨瓦	[ʃiŋ mo-wa] zhing rmo-ba
	菓園 orchard	昇奪喇瓦	[ʃiŋ thog ra-ba] shing thog ra-ba
	菜園 vegetable garden	撮罵喇瓦	[tsho <sup>?</sup> -ma ra-wa] tshod-ma ra-ba
	花園 flower garden	滅奪喇瓦	[me tho <sup>?</sup> ra-wa] me-thog ra-ba
	守城 to guard a city	渴兒松瓦	[khar suŋ-wa] mkhar srung-ba
180	入城 to enter a city	渴兒囊容	[khar naŋ yoŋ] mkhar nang yongs
	出城 to go out of a city	渴兒昔洛	[khar ɕi lo <sup>?</sup> ] mkhar phyi log
	上城 to go to a city	渴兒喇噶卓	[khar la-ga dzo] mkhar bla-ga hgro (?)
	看城 to see a city	渴兒大瓦	[khar ta-wa] mkhar lta-ba
	城裏 inside of a city	渴兒囊	[khar naŋ] mkhar nang
185	城外 outside of a city	渴兒昔	[khar ɕi] mkhar phyi
	城邊 border of a city	渴兒塔	[khar tha] mkhar mthaḥ
	邊境 frontier	三塔	[san tha] sa-mthaḥ
	地方 local place	薩义	[sa tɕha] sa-cha
	大國 big country	蔣看噶卜	[ɕaŋkham tɕhen-pu] rgyal khams chen-po
190	皇城 Imperial city	僧渴兒	[zoŋ khar] rdzong mkhar
	城池 moat of a city	渴兒丁噶	[khar teŋ-ka] mkhar lteng-ka

III 地名門 Part III Place names

北京 Pei-ching	大都	[ta tu]
南京 Nan-ching	南泰	[nam thai]
天全六番招討司 Thien-chüan-liu-fan	沙噶吉末喇班薩兒	[ša phin-ɕi mo ra pan sar] sha phin gyi morapan gsar

195	西天地方 India area	賈噶兒薩义 「ḍa-gar sa tḥa」 rgya-gar sa-cha
	雅州水昌關 Ya-chou shui-chang kuan	噶畜出舍吉宗郭 「ga-tṣhu tḥu-ṣe-ḍi dzong-go」 dgah-grub chu-shel gyi rdzong-mgo
	西番地方 Tibet area	博吉薩义 「boʔ ʦi sa tḥa」 bod kyi sa-cha
	西寧地方 Hsi-ning area	宗噶薩义 「tsoŋ-ka sa tḥa」 tsong-ka sa-cha
	陝西地方 Hsien-hsi area	努削薩义 「nuʔ ɕoʔ sa tḥa」 nub phyog sa-cha
200	長河西地方 Chang-ho-hsi area	米納喇卜岡薩义 「mi naʔ ra-bu gaŋ sa tḥa」 mi nyag raḥu sngang sa-cha
	鞏昌地方 Kun-chang area	出馬噶兒薩义 「tḥu ma kar sa tḥa」 chu rma dkar sa-cha
	董卜韓胡地方 Tun-pu-han-hu area	節木壠巴薩义 「ḍeʔ mu roŋ-pa sa-tḥa」 brgyad-mo rong-pa sa-cha (?)
	四川地方 Szü-ch'uan area	成讀胡薩义 「tṣoŋ tu hu sa tḥa」 krong-tu-hu sa-cha
	臨川地方 Lin-ch'uan area	昇棍薩义 「ṣiŋ gun sa tḥa」 shing-kun sa-cha
205	涼州地方 Liang-chou area	想臥薩义 「zaŋ ŋo sa tḥa」 byang ngos sa-cha

IV 時令門 Part IV Time

	春 spring	昔渴 「ḥiʔ-kha」 dpyid-kha
	夏 summer	葉兒渴 「yer-kha」 dbyar-kha
	秋 autumn	端渴 「ton-kha」 ston-kha
	冬 winter	棍渴 「gun-kha」 dgun-kha
210	年 year	羅 「lo」 lo
	時 time	覩劉 「ḍu tshoʔ」 dus tshod
	昼 daytime	你公 「ni guŋ」 nyi gung
	夜 night	忝木 「tshan-mu」 mtshan-mo
	早 morning	阿木 「ŋa-mu」 snga-mo
215	晚 evening	拱木 「goŋ-mu」 dgong-mo
	冷 to be cold	恰 「ḥaʔ」 khyags
	熱 to be hot	擦 「tsha」 tsha
	陰 cloudy (sky)	渴替 「kha thiʔ」 mkhaḥ ḥthibs
	晴 clear (sky)	臥黨 「ŋo-daŋ」 sngo dwangs

220	今日 today	疊零	「de riŋ」 de ring
	明日 tomorrow	桑你	「saŋ ɳin」 sang nyin
	後日 day after tomorrow	襄膩	「naŋ ɳi」 gnang nyin
	昨日 yesterday	渴兒桑	「khar-saŋ」 khar sang
	前日 day before yesterday	渴你巴	「kha ɳi-pa」 kha nyin
225	今年 this year	打羅	「da lo」 da lo
	明年 next year	桑羅	「saŋ lo」 sang lo
	後年 year after next	惹羅	「ɖo-lo」 ? lo
	去年 last year	那寧	「na ɳiŋ」 na rnying
	舊年 former years	羅寧	「lo ɳiŋ」 lo rnying
230	一年 one year	羅治	「lo tɕiʔ」 lo gcig
	十年 ten years	羅竹	「lo tɕu」 lo bcu
	百年 hundred years	羅甲灘巴	「lo ɖa tham-pa」 lo brgya tham-pa
	千年 thousand years	羅東剝	「lo toŋ tsho」 lo stong tsho
	萬年 ten thousand years	羅翅剝	「lo tɕhi tsho」 lo khri tsho
235	萬萬年 hundred thousand years	羅翅剝翅剝	「lo tɕhi tsho tɕhi tsho」 lo khri-tsho khri-tsho
	正月 first month of the year	老瓦治巴	「law-wa tɕiʔ-pa」 zla-ba gcig-pa
	二月 second month of the year	老瓦膩巴	「law-wa ɳi-pa」 zla-ba nyis-pa
	三月 third month	老瓦孫巴	「law-wa sum-pa」 zla-ba gsum-pa
	四月 fourth month	老瓦日巴	「law-wa ʒi-pa」 zla-ba bzhi-pa
240	五月 fifth month	老瓦阿巴	「law-wa ŋa-pa」 zla-ba lnga-pa
	六月 sixth month	老瓦竹巴	「law-wa dzuʔ-pa」 zla-ba drug-pa
	七月 seventh month	老瓦敦巴	「law-wa dun-pa」 zla-ba bdun-pa
	八月 eighth month	老瓦節巴	「law-wa ɖeʔ-pa」 zla-ba brgyad-pa
	九月 ninth month	老瓦谷巴	「law-wa gu-pa」 zla-ba dgu-pa
245	十月 tenth month	老瓦竹灘巴	「law-wa tɕu tham-pa」 zla-ba bcu tham-pa
	十一月 eleventh month	老瓦竹治巴	「law-wa tɕu tɕiʔ-pa」 zla-ba bcu gcig-pa
	十二月 twelfth month	老瓦竹膩巴	「law-wa tɕu ɳi-pa」 zla-ba bcu gnyis-pa

	一日	first day of the month	治你	「tɕi <sup>?</sup> n̩i」 gcig nyi
	二日	second day of the month	膩你	「n̩i n̩i」 gnyis nyi
250	三日	third	孫你	「sum n̩i」 gsum nyi
	四日	fourth	日你	「zi n̩i」 bzhi nyi
	五日	fifth	阿你	「ŋa n̩i」 lnga nyi
	六日	sixth	竹你	「dzu <sup>?</sup> n̩i」 drug nyi
	七日	seventh	敦你	「dun n̩i」 bdun nyi
255	八日	eighth	節你	「de <sup>?</sup> n̩i」 brgyad nyi
	九日	ninth	谷你	「gu n̩i」 dgu nyi
	十日	tenth	竹灘巴你	「tɕu tham-pa n̩i」 bcu tham-pa nyi
	二十日	twentieth day of the month	膩竹灘巴你	「n̩i tɕu tham-pa n̩i」 nyi bcu tham-pa nyi
	三十日	thirtieth day of the month	孫竹灘巴你	「sum tɕu tham-pa n̩i」 gsum bcu tham-pa nyi
260	夜短	night is shortning	忝通	「tshan thun」 mtshan thung
	夜長	night is lengthening	忝零	「tshan rin」 mtshan ring
	一更	first two hours of the night	阿兒東治	「ŋarduŋ tɕi <sup>?</sup> 」 rnga rdung gcig
	二更	second two hours of the night	阿兒東膩	「ŋarduŋ n̩i」 rnga rdung gnyis
	三更	third two hours of the night	阿兒東孫	「ŋarduŋ sum」 rnga rdung gsum
265	四更	fourth two hours of the night	阿兒東日	「ŋarduŋ zi」 rnga rdung bzhi
	五更	fifth two hours of the night	阿兒東阿	「ŋar duŋ ŋa」 rnga rdung lnga
	子時	tzū hour	須瓦覩剎	「zu-wa du-tsho」 byi-ba dus tshod
	丑時	ch'ou hour	那兒覩剎	「nor du-tsho」 nor dus tshod
	寅時	yin hour	思大覩剎	「sta du-tsho」 sta dus tshod
270	卯時	mao hour	里公覩剎	「ri goŋ du-tsho」 ri-gong dus tshod
	辰時	ch'èn hour	補祿覩剎	「bru <sup>?</sup> du tsho」 brug dus tshod
	巳時	i hour	主覩剎	「dzü du tsho」 sbrul dus tshod

	午時 wu hour	大觀劉	「ta du tshod」 rta dus tshod
	未時 wei hour	祿觀劉	「lu? du tsho」 lug dus tshod
275	申時 shên hour	周烏觀劉	「tšew-u du-tsho?」 sprehu dus tshod
	酉時 yu hour	斜觀劉	「ze du-tsho?」 bya dus tshod
	戌時 mou hour	器觀劉	「t̥hi du-tsho?」 khyi dus tshod
	亥時 hai hour	怕觀劉	「pha? du-tsho?」 phag dus tshod

V 花木門 Part V Flowers and Trees

	花 flower	滅奪	「me to?」 me-tog
280	菓 fruit	昇奪	「šij to?」 shing-tog
	梅 plum	看菊兒	「kham t̥ur」 kham skyur
	杏 apricot	看卜	「kham bu」 kham-bu
	桃 peach	姐干	「t̥e kam」 (?)
	梨 pear	谷束	「ku šu」 ku-shu
285	竹 bamboo	奴罵	「n̥u?-ma」 smyug-ma
	木 tree	盛	「šij」 shing
	薑 gingar	吒兒噶	「t̥a-rga」 bcaḥ lga
	蒜 garlic	果	「go?」 sgog
	韭 a kind of radish	菊	「t̥u」 kiḥu
290	葱 onion	宗	「tsoŋ」 btsong
	豈 beans	色麻	「so-ma」 so-ma
	米 rice	白列	「bre」 ḥbras
	麦 wheat	卓	「dzo」 gro
	稻 rice stalk	索襪	「so-wa」 so-ba
295	松 pine-tree	湯盛	「thaŋ šij」 thang shing
	柳 willow-tree	章麻	「t̥aŋ-ma」 lchang-ma
	槐 a kind of locust	看包盛	「kham-paw šij」 kham paḥi shing
	桑 mulberry	打兒盛	「dar šij」 dar shing
	樹 tree (trunk)	董卜	「doŋ-bu」 sdong-bu
300	根 root	糟瓦	「tsaw-wa」 rtsa-ba
	草 grass	雜	「tsa」 rtswa

	葉 leaf	羅麻	「lo-ma」 lo-ma
	蓮花 lotus	班麻滅奪	「pam-ma me-toʔ」 pad-ma me-tog
	紅蓮 red lotus	班麻馬兒卜	「pam-ma mar-pu」 pad-ma dmar-po
305	白蓮 white lotus	班麻噶兒卜	「pam-ma kar-pu」 pad-ma dkar-po
	紅花 red flower	古兒棍	「gur gum」 gur gum
	花開 flowers open	滅奪謝	「me-toʔ ze」 me-tog bye
	花謝 flowers fall	滅奪耶思	「me-toʔ yes」 me-tog yas
	花朵 flower-bud	滅奪黎里	「me-toʔ rili」 me-tog ril
310	花蕊 stamens or pistils	滅奪丹麻	「me-toʔ damma」 me-tog ḥdab-ma
	戴花 to wear a flower on the head	滅奪托	「me-toʔ thoʔ」 me-tog thogs
	柑子 mandarin orange	新卜魯	「siŋ bru」 (?) shing ḥbrus (?)
	石榴 pomegranate	孫竹	「sun dzu」 se-ḥbru
	芭蕉 plantain	大喇羅麻	「ta la lo-ma」 ta la lo-ma
315	甘蔗 sweet cane	卜藍盛	「bu ram šiŋ」 bu ram shing
	核桃 walnut	大兒噶	「targa」 rta sga
	櫻桃 cherry	安菊	「ʔan du」 an dud
	菓熟 fruits are ripe (hot)	昇奪撮	「šiŋ-toʔ tsho」 shing-tog tsho
	菓落 fruits fall	昇奪博	「šiŋ-toʔ baʔ」 shing-tog babs
320	烏木 ebony	出盛納卜	「tɕhu šiŋ naʔ-pu」 chu shing nag-po
	綿花 cotton	列白	「re bay」 ras bal
	苧麻 fibres	作罵	「dzo-ma」 gzo-ma
	紅藤 red rattan	思巴馬兒	「sba mar」 sba dmar
	蘿蔔 radish	喇卜	「la puʔ」 la phug
325	青裸 barley	奈	「nay」 nas
	蕎麥 buck wheat	吒烏	「dza-u」 bra-bo
	芝麻 sesame	的	「ti」 til

VI 鳥獸門

Part VI Birds and Beasts

龍 dragon 補祿 「bruʔ」 ḥbrug

	虎	tiger	思大	「staʔ」 stag
330	象	elephant	郎卜車	「laŋ-pu tɕhe」 glang-po che
	馬	horse	大	「ta」 rta
	牛	ox	那兒	「nor」 nor
	羊	sheep	祿	「luʔ」 lug
	犬	dog	器	「tɕhi」 khyi
335	猪	pig	帕	「phaʔ」 phag
	猫	cat	莽郎	「maŋ laŋ」 (?)
	鼠	rat	須瓦	「zu-wa」 byi-ba
	兔	rabbit	里公	「ri-goŋ」 ri-gong
	鹿	deer	沙襪	「ɕa-wa」 shwa-ba
340	麝	musk-deer	喇襪	「la-wa」 gla-ba
	鹿	snow-deer	渴沙	「kha-ɕa」 kha-shwa
	豹	a kind of leopard	義	「yi」 dbyi~g·yi
	猴	ape	周烏	「tɕew-u」 spreu
	驢	donkey	本烏	「bon-u」 bon-bu
345	騾	mule	止烏	「dzi-u」 dreu
	鶯	oriole	叉	「tɕha」 khra
	燕	swallow	渴喇有	「kha la yuʔ」 kha la yug
	雀	sparrow	痴巴	「tɕhi-pa」 mchil-pa
	鴿	pigeon	坡欒	「phoʔ-ron」 phug ron
350	鵞	domestic goose	噶	「ka」 (?)
	鴨	wild duck	出斜	「tɕhu ze」 chu bya
	鷄	hen	斜	「ze」 bya
	魚	fish	娘	「na」 nya
	鵲	magpie	斜噶	「ze gaʔ」 bya gag
355	熊	bear	端	「dom」 dom
	蛇	snake	主	「dzü」 sbrul
	虫	insect	卜	「bu」 hbu
	龜	turtle	呂白	「rü bay」 rus sbal
	蟹	crab	底信	「diʔ sin」 sdig srin

360	蜂	bee	茲卜郎	「tsi braŋ」	rtsi sbrang
	蝶	butterfly	寫麻列	「qe-ma leʔ」	phye ma leb
	虱	louse	世	「ʃiʔ」	shig
	蠅	fly	卜郎拿	「braŋ naʔ」	sbrang nag
	蚊	mosquito	母昔	「mu si」	(?)
365	駝	camel	阿蒙	「ŋa-moŋ」	rnga mong
	青馬	blue horse	大温卜	「ta ŋon-pu」	rta sngon-po
	白馬	white horse	大噶兒卜	「ta kar-pu」	rta dkar-po
	赤馬	red horse	大堪卜	「ta kham-pu」	rta kham-po
	黑馬	black horse	大納卜	「ta naʔ-pu」	rta nag-po
370	驪驢馬	brown horse	大蔣烏	「ta ʃaŋ-u」	rta rkyang-pa
	沙馬	sand-colored horse	大磨靈	「ta moʔ ru」	rta mog-ru
	銀褐馬	silver-brown horse	大昂思兒	「ta ŋaŋ sir」	rta ngang ser
	薑花馬		大抄烏	「ta ʃshaw-u」	rta phra-bo
	栗色馬	bay horse	大卜喇烏	「ta bra-u」	rta brahu
375	黃牛	common ox	浪烏	「laŋ-u」	glang-bu
	狐狸	fox	瓦木	「wa-mu」	wa-mo
	野猪	wild boar	帕兒國	「phargoʔ」	phag rgod
	騮馬	gelding	大坡占	「ta-pho tɕhen」	rta-pho chen
	騾馬	mare	大果麻	「ta goʔ-ma」	rta god-ma
380	兒馬	stallion	大四	「ta siʔ」	rta gseb
	馬駒	colt	大疊烏	「ta te-u」	rta rti <u>h</u> u
	孔雀	peacock	卯牙	「maw ya」	rma-bya
	鳳凰	phoenix	斜充	「ze ʃhuŋ」	bya gyung
	仙鶴	white crane	斜綵零	「ze tshay riŋ」	bya tse ring
385	鸚哥	parrot	乃作	「nay tso」	ne-tso
	天鵝	wild swan	難吉噶	「nam ɕi ga」	(?) gnam gi (?)
	雞啼	cock-crow	斜吒	「ze dzaʔ」	bya grog
	班鳩	turtle-dove	替的	「thi-ti」	thi-ti
	黃鶯	yellow-oriole	叉塞兒卜	「ʃsha ser-pu」	khra ser-po

390	蝙蝠 bat	帕汪	「pha-waŋ」 pha-wang
	蟋蟻 ant	卓罵	「dzɔʔ-ma」 grog-ma
	老鴉 crow	渴大	「kha-ta」 kha-ta
	海青 wood grouse	火兒巴	「hor-pa」 hor-pa

VII 宮 室 門 Part VII Buildings

	房 house	康巴	「khaŋ-pa」 khang-pa
395	門 gate, door	郭	「go」 sgo
	窓 window	噶兒空	「kar khuŋ」 skar-khung
	寺 monastery	官巴	「gon-pa」 dgon-pa
	廟 shrine	兒康巴	「ʃa khaŋ-pa」 lha-khang
	觀 temple	本卜管	「bon-pu gon」 bon-po dgon
400	磚 brick	占巴	「dzan-paʔ」 (?) ja-pag (?)
	瓦 tile	絕木	「dʊʔ-mu」 (?) tra-ma (?)
	館驛 translation office	茶木納	「dza-mu naʔ」 (?)
	衛門 civil or military court	參木喇	「tshan-mu ra」 (?)
	臥房 bedroom	聶	「ɲe」 nyal
405	厨房 kitchen	塔康	「thaʔ-khaŋ」 thab khang
	庫房 treasury	嘴康	「dzöʔ-khaŋ」 mdzod khang
	草房 shed	雜康	「tσα-khaŋ」 rtswa khang
	瓦房 tiled house	絕木康	「dʊʔ-mu khaŋ」 (?) khang
	倉房 store house	白列康	「bre khaŋ」 bras khang
410	馬槽 manger	大列	「ta re」 rta bras
	軍營 military camp	馬噶兒	「maʔ gar」 dmag sgar

VIII 器 用 門 Part VIII Implements

	鐘 gong	重	「tɕoŋ」 cong
	鼓 drum	阿	「ŋa」 rnga
	笙 pan pipe	征	「tɕhoŋ」

415	笛	flute	零卜	「liŋ-bu」	gling-bu
	紙	paper	束谷	「ʃu gu」	shug-bu
	墨	ink	納雜	「naʔ tsa」	snag-ca
	筆	writing brush	紐谷	「n̩u-gu」	snyug-gu
	硯	ink-stone	納朶	「naʔ do」	snag rdo
420	卓	table	着祭	「tʂoʔ tsi」	cog-tse
	椅	chair	肉翅	「zuʔ tʂhi」	bzhugs khri
	床	bed	聶翅	「n̩e tʂhi」	nyal khri
	橙	stool	翅度	「tʂhi duʔ」	khri ɥdud
	碗	bowl	坡兒巴	「phor-pa」	phor-ba
425	碟	plate	疊兒麻	「der-ma」	sder-ma
	匙	spoon	渴疊	「khaʔ de」	khab-sder
	筋	chopsticks	土兒麻	「thur-ma」	thur-ma
	鍋	cooking pot	郎阿	「laŋa」	lang-nga
	壺	pot	瞻畢	「dam-bi」	dam-bi
430	盆	basin	容巴	「zɔŋ-pa」	gzhoŋ-pa
	桶	pail	索臥	「zo-wo」	zo-ba
	瓢	gourd	巴力	「ba-ri」	sba-ril
	杓	ladle	思脚	「stɔʔ」	skyogs
	等	balance	土兒納	「thur-naʔ」	thur-nag (?)
435	秤	steelyard	姐麻	「ɬe-ma」	rgya-ma
	枕	pillow	額	「ŋe」	sngas
	扇	fan	席要	「si-yaw」	bsil-yab
	傘	umbrella	讀	「duʔ」	gdugs
	針	needle	靠	「khaw」	khab
440	線	thread	谷巴	「kuʔ-pa」	skud-pa
	鎖	chain	薩子	「zaʔ-tsi」	zag-tse
	鑰	key	的膩	「di-n̩iʔ」	lde-mig
	繩	rope	塔巴	「thaʔ-pa」	thag-pa
	盔	helmet	磨	「moʔ」	rmog
445	甲	armor	鈔	「tʂhaw」	khraβ

	鈎	hook	阿臥	「a-ŋo」(?) a-hgug (?)
	鎗	spear	董	「duŋ」 mdung
	弓	bow	肉	「zu」 gzhu
	箭	arrow	大	「da」 mdah
450	牌	shield	鋪	「phuʔ」 phub
	弩	cross-bow	宛大	「ŋan-da」 ngar-mdah
	旗	flag	大兒	「tar」 dar
	劍	sword	來支	「ray dzi」 ral-gri
	鞞	crupper	大滅	「ta meʔ」 rta-rmed
455	屜	saddle-pad	大丹	「ta dan」 rta-sdan
	鞞	saddle-flap	戰	「tʂan」
	鞭	whip	大摺	「ta tʂaʔ」 rta-lcag
	燈籠	lantern	我康	「ʔoʔ khaŋ」 ɬod khang
	魚網	fishing net	娘兒家	「n̄arɕa」 nya rgya
460	馬鞍	saddle	大思噶	「ta sga」 rta sga
	鞍座	seat of saddle	安着	「ʔan tʂo」 (?)
	轡頭	bridle	大哨	「ta ʂaw」 rta srab
	草籠	straw-basket	禿隆郭	「thuruŋgo」 mthur-mgo
	攀膏	reins	拱塔	「goŋ-thaʔ」 gong-thag
465	鐙皮	stirrup	日大	「zi ta」 (?) (?) -rta
	肚帶	girth	羅南	「lo-nam」 glo-snam
	主勞	bit(?)	稍袖	「ʂaw-tʂu」 (?) srab-(?)
	鞍籠	saddle-cloth	噶介	「ga-keʔ」 sga-khebs
	唢囉	large trumpet	董卜車	「doŋ-bu tʂhe」 dong-bu che
470	喇叭	trumpet	噶零	「ka-liŋ」 ka-ling
	鎖納	fife	零烏	「liŋ-u」 gling-bu
	羅鍋	humpbacked cooking-pot	桑阿	「saŋ-a」 slang-nga

IX 人 物 門

Part IX Persons

總兵	general	馬伴噶卜	「maʔ-pon tʂhen-pu」 dmag-dpon chen
大人	great person	米占	「mi tʂhan」 mi chen

475	頭目 head man	果巴	「go-pa」 mgo-pa
	通事 interpreter	羅雜瓦	「lo tsa-wa」 lo tsaḥ-ba
	漢人 chinese	賈密	「ḏa-mi」 rgya mi
	夷人 foreigner	西密	「ḑi mi」 phyi mi
	叔人 father's younger brother	阿谷	「a-ku」 a-khu
480	嬸母 aunt	阿谷那末	「a-ku na-mo」 a-khu sna-mo
	女婿 son-in-law	馬巴	「ma <sup>?</sup> -pa」 mag-pa
	姪兒 niece	曹烏	「tshaw-u」 tsha-bu
	大舅 elder brother of a wife	壤卜車瓦	「ḑaṅ-bu tḑhe-wa」 zhang-bu chen-bo
	小舅 younger brother of a wife	壤卜充瓦	「ḑaṅ-bu tḑhuṅ-wa」 zhang-bu chung-ba
485	親家 relatives	烏襍	「ṅow-wa」 nye-ba
	家長 master of a house	謙荅	「ṑhem da <sup>?</sup> 」 khyim-bdag
	男子 man	沙喇	「ṣa-la」 shar-la
	婦人 woman	那末	「na-mo」 sna-mo~mnaḥ-mo
	老人 old man	米兒子	「mir tsi」 (?)
490	女人 woman	米閏	「mi ḑuṅ」 mi zhung
	貧人 poor man	密卓兒卜	「mi tṣor-pu」 (?)
	富人 rich man	密削卜	「mi ḑu <sup>?</sup> -pu」 mi phyug-po
	好人 good man	密藏卜	「mi dzaṅ-pu」 mi bzang-po
	歹人 bad man	密奄巴	「mi ṅan-pa」 mi ṅan-pa
495	反人 rebels	密我洛	「mi ṅo lo <sup>?</sup> 」 mi ngo log
	賊人 thief	密攙巴	「mi tḑhom-pa」 mi chom-pa
	匠人 artisan	索烏	「zo-u」 bzo-bo
	金匠 goldsmith	塞兒吉索烏	「ser ḑi zo-u」 gser-gyi bzo-bo
	銀匠 silversmith	玉兒吉索烏	「ṅür ḑi zo-u」 dngul-gyi bzo-bo
500	鐵匠 blacksmith	吒吉索烏	「tḑa <sup>?</sup> ṑi zo-u」 lcags-kyi bzo-bo
	銅匠 coppersmith	松塞兒吉索烏	「ṣuṅ ser ḑi zo-u」 zungs gser gyi bzo-bo
	錫匠 tinsmith	染膩索烏	「ḑan ṅi zo-u」 zha-nye bzo-bo
	皮匠 skin maker	銅襍索烏	「ko-wa zo-u」 ko-ba bzo-ba
	裁縫 tailor	國節索烏	「go-tse zo-u」 gos brtseg bzo-bo

505	染匠 dyer	撮索烏	〔tsho zo-u〕 tshos bzo-bo
	帽匠 hat maker	沙索烏	〔ʃa zo-u〕 zhwa bzo-bo
	繚匠 rope maker	鷄喇索烏	〔tʃi la zo-u〕 (?)
	甲匠 armor maker	鈔索烏	〔tʃhaw zo-u〕 khrab bzo-bo
	畫匠 painter	喇索烏	〔ʎa zo-u〕 lha bzo-bo
510	木匠 carpenter	昇索烏	〔ʃiŋ zo-u〕 shing bzo-bo
	廚匠 cook	塔噶索察	〔thaʔ ka zo-mi〕 thab ka bzo mi
	長子 tall man	密零卜	〔mi riŋ-pu〕 mi ring-po
	矮子 little man	密通卜	〔mi thuŋ-pu〕 mi thung-po
	胖子 fat man	密酸卜	〔mi som-pu〕 mi tshom-po
515	瘦子 thin man	密主巴	〔mi dzuʔ-pa〕 mi jud-pa
	麻子 pock-marks	拓兒巴	〔dar-pa〕 (?) (?)
	瞎子 blind man	密壠瓦	〔mi loŋ-wa〕 mi long-ba
	聾子 deaf man	宛巴	〔ʔon-pa〕 hon-pa
	瘋子 mad man	年巴	〔n̄en-pa〕 smyon-pa
520	痴子 idiot	連巴	〔len-pa〕 glen-pa
	啞子 dumb man	谷巴	〔kuʔ-pa〕 lkugs-pa
	大哥 elder brother	坡烏車	〔pha-u tʃhe〕 pha-bu che
	二哥 second elder brother	坡烏膩	〔pha-u n̄i〕 pha-bu gnyis
	三哥 third elder brother	坡烏孫	〔pha-u sum〕 pha-bu gsum
525	四哥 fourth elder brother	坡烏日	〔pha-u zi〕 pha-bu bzhi
	五哥 fifth elder brother	坡烏阿	〔pha-u ɣa〕 pha-bu lnga
	六哥 sixth elder brother	坡烏竹	〔pha-u dzuʔ〕 pha-bu drug
	七哥 seventh elder brother	坡烏敦	〔pha-u dun〕 pha-bu bdun
	八哥 eighth elder brother	坡烏節	〔pha-u d̄eʔ〕 pha-bu brgyad
530	大姐 elder sister	阿摺車	〔a-tʃe tʃhe〕 a-ce che
	二姐 second elder sister	阿摺膩	〔a-tʃe n̄i〕 a-ce gnyis
	三姐 third elder sister	阿摺孫	〔a-tʃe sum〕 a-ce gsum

	四姐	fourth elder sister	阿摺日	「a-tɕe zi」 a-ce bzhi
	五姐	fifth elder sister	阿摺阿	「a-tɕe ŋa」 a-ce lnga
535	六姐	sixth elder sister	阿摺竹	「a-tɕe dzuʔ」 a-ce drug
	七姐	seventh elder sister	阿摺敦	「a-tɕe dun」 a-ce bdun
	八姐	eighth elder sister	阿摺節	「a-tɕe dɕeʔ」 a-ce brgyad
	我每	we	阿剌	「ŋa tsho」 nga tsho
	你每	you (pl.)	却剌	「tʰoʔ tsho」 khyod tsho
540	是誰	who are you?	俗銀	「su-yin」 su yin
	是我	I am.	阿銀	「ŋa-yin」 nga yin

X 人 事 門      Part X      Human Affairs

	去	to go	送	「soŋ」 song
	來	to come	容	「yoŋ」 yong
	拜	to bow	相叅	「ɕaŋ tshan」 (?) phyag-htshal (?)
545	跪	to kneel	卜木足	「pu-mu tsuʔ」 pus-mo btsug
	坐	to sit	肉	「zuʔ」 zhug
	睡	to sleep	聶	「ɳe」 nyal
	哭	to weep	霧	「ŋu」 ngu
	笑	to laugh	兒噶	「rgaʔ」 rgad
550	舞	to dance	噶兒粘	「gar tɕhen」 gar chen
	跳	to jump	衝	「tɕhoŋ」 mchongs
	問	to ask	止	「dzi」 hdri
	答	to reply	喇	「laʔ」 lags
	說	to speak	斜兒	「zer」 zer
555	聽	to hear	年	「ɳen」 nyan
	有	to exist	約	「yoʔ」 yod
	無	not to exist	墨	「meʔ」 med
	多	many	忙	「maŋ」 mang

	少	few	紐	〔n̩u〕 nyung
560	羞	to shame	鵝擦	〔ŋo tsha〕 ngo tsha
	怕	to fear	吒	〔tʂaʔ〕 skrag
	忙	busy	米空	〔mi khoŋ〕 mi khong
	閑	leisure	空	〔khoŋ〕 khong
	醉	to be drunk	唱茲	〔tʂhaŋ dzi〕 chang bzi
565	醒	to get sober	馬茲	〔ma dzi〕 ma bzi
	買	to buy	牛	〔n̩o〕 nyos
	賣	to sell	葱	〔tshoŋ〕 tshong
	叩頭	kowtow	郭兒東	〔go rduŋ〕 mgo rdung
	平身	rise from kneeling	隆刺端	〔loŋ la don〕 (?)
570	起身	to rise	言隆	〔yen loŋ〕 yar-slong
	鞠躬	to bow	革巴谷兒	〔keʔ-pa gur〕 sked-pa dgur
	進貢	to send tribute	補瓦	〔bu-wa〕 h̩bul-ba
	方物	regional products	昔納噶	〔çi naʔ ka〕 (?)
	金佛	gold buddha	塞兒谷	〔ser-ku〕 gser sku
575	畫佛	painting of a buddha	湯噶	〔thaŋ-ga〕 thang-ga
	珊瑚	coral	須祿	〔zu-ru〕 byi-ru
	瑪瑙	agate	墨力	〔me-li〕 (?)
	琥珀	amber	博世	〔po-ʂi〕 spos-shel
	珍珠	pearl	母的	〔mu-tiʔ〕 mu tig
580	氍毹	Tibetan serge	畜	〔tʂhuʔ〕 phrug
	絨褐	blanket	南卜	〔nam bu〕 snam-bu
	青木香	blue wood incense	呂思大	〔rüs ta〕 rus rta
	黑香	black incense	古谷	〔gu-gu〕 gu-gul
	白檀香	white sandalwood	鑽丹噶兒卜	〔tsan-tan kar-pu〕 tsan-tan dkar-po
585	降真香	laka wood	鑽丹馬兒卜	〔tsan-tan mar-pu〕 tsan-tan dmar-po
	吉祥草	good fortune grass	谷沙	〔ku-ʂa〕 ku-sha
	海螺	trumpet shell	東噶兒	〔duŋ kar〕 gdung dkar

	響鉢 little bell	丁沙	「tiŋ ʃaʔ」 ting-shags
	法鼓 drum	輟阿	「tɕho ŋa」 chos rŋa
590	香爐 incense burner	坡思坡兒	「phosphor」 spos phor
	花瓶 flower-vase	滅奪瞻畢	「me-toʔ dam-bi」 me-tog dam-bi
	數珠 rosary	平瓦	「pheŋ-wa」 phreng-ba
	鈴杵 bell	止力卜	「dzili-bu」 dril-bu
	舍利 buddist relic	領參	「riŋ tshan」 (?) ring bsrel
595	麝香 musk	喇則	「la tsi」 gla rtsi
	金箔 gold-foil	塞哨	「se ʃaw」 gser srab
	顏料 cosmetics	猜兒	「tshar」 (?)
	酥油 butter	麻兒	「mar」 mar
	奶子 milk	五麻	「ʔo-ma」 o-ma
600	炒麵 fried noodles	嚼巴	「tsam-pa」 tsam-pa
	賞賜 gift	裏認	「naŋ zin」 gnang byin
	綵段 colored satin	國欲	「go-yuʔ」 gos yug
	衣服 clothing	國節	「go-tseʔ」 gos brtseg-pa
	表裏 coat	昔裏	「çi-naŋ」 p̄hyi-nang
605	絹疋 silk	大兒欲	「dar-yuʔ」 dar-yug
	筵宴 feast	端木	「ton-mu」 ston-mo
	下程 tool	吒噶	「tɕha-ka」 chas-ka
	銅塔 bronze pagoda	輟兒店	「tɕhorten」 mchod-rten
	藥材 medicine	思蠻	「sman」 sman
610	紅毛纓 red mango (medicine)	馬兒卜阿麻	「mar-pu ʔa-ma」 dmar-po a-mra
	黑毛纓 black mango (medicine)	納卜阿麻	「naʔ-pu ʔa-ma」 nag-po a-mra
	白毛纓 white mango (medicine)	噶兒卜阿麻	「kar pu ʔa-ma」 dkar-po a-mra

IX 身 體 門

Part XI

Parts of the Body

	頭 head	郭	「go」 mgo
	耳 ear	南周	「nam tɕow」 rnam-mchog
615	口 mouth	渴	「kha」 kha

	舌	tongue	摺	「tɕe」	lce
	眼	eye	密	「miʔ」	mig
	鼻	nose	思納	「sna」	sna
	齒	tooth	索	「so」	so
620	身	body	密祿	「mi lu」	mi lus
	手	hand	喇巴	「laʔ-pa」	lag-pa
	脚	foot	岡巴	「kaŋ-pa」	rkang-pa
	髮	hair	吒	「tʂa」	skra
	面	face	鷲	「ŋo」	ngo
625	心	heart	寧	「niŋ」	snying
	腸	intestine	足罵	「ɕu-ma」	rgyu-ma
	腹	abdomen	蘇巴	「su-pa」	gsus-pa
	鬚	beard	馬喇	「ma-ra」	sma-ra
	腰	waist	革巴	「keʔ-pa」	rked-pa ~ sked-pa
630	膝	knee	卜木	「pu-mu」	pus-mo
	手指	fingers	喇巴足谷	「laʔ-pa dzugu」	lag-pa mdzug-gu
	脚指	toes	岡巴足谷	「kaŋ-pa dzugu」	rkang-pa mdzug-gu
	指甲	nail	塞兒	「zer」	gzer
	梳頭	to comb the hair	吒舍	「tʂa-ʂeʔ」	skra shad
635	洗臉	to wash the face	鷲竹	「ŋo tʂu」	ngo bkru
	費心	to worry	高喇車	「kaw la tɕhe」	(?)-che
	知心	to know the heart	三巴舍	「sam-pa ʂe」	bsam-pa shes
	心寬	to be generous	三巴羊	「sam-pa yaŋ」	bsam-pa yangs
	心窄	to be cowardly	三巴奪	「sant-pa doʔ」	bsam-pa dog

XII 衣服門 Part XII clothing

640	裙	skirt	思墨扇	「smeʔ ʂam」	smad gsham
	鞋	slippers	濫	「lam」	lham
	靴	boots	烏喇	「ɳaw-laʔ」	nya-lag
	褲	trousers	朵兒麻	「dor-ma」	dor-ma

	襪	socks	博	「boʔ」	hbob
645	帽	hat	沙	「ša」	zhwa
	紗帽	gauze hat (of officials)	伴沙	「pon ša」	dpon zhwa
	束帶	a girdle (of officials)	伴鷄喇	「pon ʈi raʔ」	dpon kyi rag
	大帽	big hat	沙車	「ša tʂhe」	zhwa che
	小帽	small hat	沙充	「ša tʂhun」	zhwa chung
650	毡條	felt cloth	星丹	「ʂiŋ tan」	phying tan
	毡衫	felt coat	星巴	「ʂiŋ-pa」	phying-ba
	雨帽	rain hat	叉兒沙	「tʂhar ša」	char-zhwa
	帳房	tent(?)	吒疊兒	「tʂa der」	ca-der
	園帳	curtain	雨兒瓦	「yör-wa」	yol-ba

XIII 飲食門

Part XIII Food and Drink

655	茶	tea	吒	「dʂa」	ja
	飯	cooked rice	薩麻	「za-ma」	za-ma
	酒	wine	唱	「tʂhaŋ」	chang
	肉	meat	沙	「ša」	sha
	油	oil	馬兒拿	「mar-naʔ」	mar-nag
660	鹽	salt	擦	「tsha」	tshwa
	吃飯	to eat food	薩麻雜	「za-ma dza」	za-ma bzah
	吃茶	to take tea	吒索	「dʂa-so」	ja gsol
	飲酒	to drink wine	唱通	「tʂhaŋ thun」	chang thung
	吃肉	to eat meat	沙索	「ša so」	sha gsol
665	酥油茶	butter tea	麻兒吒	「mar dʂa」	mar-ja
	茶冷	tea gets cold	吒恰	「dʂa ʈhaʔ」	ja khyag
	茶熱	tea gets hot	吒擦	「dʂa tsha」	ja tsha
	煎茶	to make tea	吒國	「dʂa ko」	ja skol
	胡椒	pepper	蒲足	「pu tsu」	(?)
670	花柘	red pepper	烟罵	「yen-ma」	g'yer-ma
	酒冷	wine gets cold	唱恰	「tʂhaŋ ʈhaʔ」	chang khyags
	酒熱	wine gets hot	唱擦	「tʂhaŋ tsha」	chang tsha

XIV 珍寶門 Part XIV Jewels

	金	gold	塞兒	「ser」	gser
	玉	gem	舍	「še」	shel
675	銀	silver	玉兒	「ñür」	dngul
	銅	copper	松塞兒	「zuŋ ser」	zangs-gser
	錫	tin	染膩	「zan ni」	zha-ne
	鐵	iron	吒	「tçaʔ」	lcags
	寶石	precious stone	領卜車	「riŋ pu tche」	rin-po che
680	金壺	gold pot	塞兒膽畢	「ser dam-bi」	gser dam-bi
	銀壺	silver pot	玉兒膽畢	「ñür dam-bi」	dngul dam-bi
	金盞	small gold dish	塞兒展膩	「ser-tcan ni」	gser-can ne
	銀盞	small silver dish	玉兒展膩	「ñür-tcan ni」	dngul-can ne

XV 文史門 Part XIV Documents and writing

	勅書	Imperial rescripts	者薩	「dza sa」	hjah sa
685	誥命	Imperial orders	高名	「kaw miŋ」	<from chinese kaoming
	印信	official seal	黨噶	「taŋ-ka」	tam-ka
	函書	personal seal	梯子	「the-tsi」	thel-tse
	文書	books or letters	以計	「yi-gi」	yi-ge
	番文	tibetan characters	博義	「boʔ-yiʔ」	bod yig

XVI 聲色門 Part XVI Colors

690	青	blue	溫卜	「ŋon-pu」	sngon-po
	紅	red	馬兒卜	「mar-pu」	dmar-po
	黃	yellow	塞兒卜	「ser-pu」	gser-po
	白	white	噶兒卜	「kar-pu」	dkar-po
	綠	green	掌庫	「dzaŋ-khu」	ljang-khu
695	黑	black	納卜	「naʔ-pu」	nag-po
	大青	pure blue	溫卜噶卜	「ŋon-pu tchen-pu」	sngon-po chen-po
	大紅	pure red	馬兒卜噶卜	「mar-pu tchen-pu」	dmar-po chen-po

	柳黄 willow yellow	章麻塞兒卜 [tʃaŋ-ma ser-pu] lcang-ma gser-po
	柳青 willow blue	章麻温卜 [tʃaŋ-ma ŋon-pu] lcang-ma sngon-po
700	青布 blue cloth	列温卜 [re ŋon-pu] ras sngon-po
	白布 white cloth	列噶兒卜 [re kar-pu] ras dkar-po
	黄布 yellow cloth	列塞兒卜 [re ser-pu] ras gser-po
	夏布 summer cloth	僧列 [zoŋ re] (?) -ras

XVII 数 目 門      Part XVII      Numerals

	壹 one	治 [tʃi?] gcig
705	貳 two	膩 [ni] gnyis
	參 three	孫 [sum] gsum
	肆 four	日 [zi] bzhi
	伍 five	阿 [ŋa] lnga
	陸 six	竹 [dzu?] drug
710	柴 seven	敦 [dun] bdun
	捌 eight	節 [dɛ?] brgyad
	玖 nine	谷 [gu] dgu
	拾 ten	竹灘巴 [tʃu tham-pa] bcu tham-pa
	壹拾 ten	治竹 [tʃi? tʃu] gcig bcu
715	貳拾 twenty	膩竹 [ni tʃu] gnyis bcu
	參拾 thirty	孫竹 [sum tʃu] gsum bcu
	肆拾 forty	日竹 [zi tʃu] bzhi bcu
	伍拾 fifty	阿竹 [ŋa tʃu] lnga bcu
	陸拾 sixty	阻竹 [dzu? tʃu] drug bcu
720	柒拾 seventy	敦竹 [dun tʃu] bdun bcu
	捌拾 eighty	節竹 [dɛ? tʃu] brgyad bcu
	玖拾 ninety	谷竹 [gu tʃu] dgu-bcu
	壹百 one hundred	甲灘巴 [dʒa tham-pa] brgya tham-pa
	壹千 one thousand	東剌治 [toŋ tʃo tʃi?] stong tʃo gcig
725	壹萬 ten thousand	翹剌治 [tʃhi tʃo tʃi?] khri tʃo gcig
	壹分 one fên	分治 [phen tʃi?] phen gcig

	壹錢	one ch'ien	董子治	「dong-tsi tçi?»	dong-tse gcig
	壹兩	one liang	山岡	「şan gaŋ」	srang gang
	拾兩	ten liang	山竹灘巴	「şan tçu tham-pa」	srang bcu tham-pa
730	伍拾兩	fifty liang	山阿竹灘巴	「şan ŋa tçu tham-pa」	srang lnga bcu tham-pa
	壹百兩	one hundred liang	山甲灘巴	「şan ɬa tham-pa」	srang brgya tham-pa
	壹千兩	one thousand liang	山東剡治	「şan toŋ tsho tçi?»	srang stong tsho gcig
	壹萬兩	ten thousand liang	山翅剡治	「şan tşhi tsho tçi?»	srang khri tsho gcig

XVIII 通用門 Part XVIII Directions

	東	east	沙兒	「şar」	shar
735	南	south	洛	「ło」	lho
	西	west	奴	「nu?»	nub
	北	north	祥	「zaŋ」	byang
	左	left	葉[院の誤り]	「yon」	g-yon
	右	right	院[葉の誤り]	「ye」	g-yas
740	前	front	敦	「dun」	mdun
	後	back	爵	「ɬaw」	rgyab
	內	inside	襄	「naŋ」	nang
	外	outside	昔	「çi」	phyi
	上	above	喇噶	「la ga」	bla ga (?)
745	下	beneath	窩納	「?o? na」	hog-na
	高	to be high	團卜	「thon-pu」	mthon-po
	低	to be low	罵瓦	「ma-wa」	dmah-ba
	遠	to be far	塔零	「tha? riŋ」	thag ring
	近	to be near	塔轟	「tha? ne」	thag nye